

令和元年度  
教育実習体験記

城西国際大学



# 目次

---

はじめに ..... 1

教育実習体験記（中高課程） ..... 3 - 56

## 経営情報学部総合経営学科

久保 智      三澤 光希      山崎 廉也      池末 亜彩妃      上佐 隆祐      川越 理来  
坂田 慎矩      忍田 知弘      小林 亮太      諸藤 駿      平沢 優果      門間 淳是  
佐々木 良      矢部 綾乃      漁野 達耶      飯塚 淳一

## 国際人文学部国際交流学科

池城 ゆりか      出山 千紘      宮島 滉弥      渋谷 剛海

## 国際人文学部国際文化学科

木幡 有貴      小倉 悠喜      山口 剛正

## 福祉総合学部福祉総合学科

鈴木 真彩      仁多見 郁美      中條 弓

## 科目等履修生

工藤 竜平

幼稚園実習体験記（幼稚園課程） ..... 57 - 96

## 福祉総合学部福祉総合学科

大野 貴寛      石井 麻璃乃      江尻 佳苗      小澤 愛      白川 弓乃      鈴木 卓也  
田高田 萌      富田 真琴      中嶋 美穂      福地 千里      森井 桜子      渡部 彩華  
井上 莉子      加藤 幸大      加納 七海      小池 晃史      高師 萌珠      内藤 慶  
藤田 まどか      門馬 瑞希

養護実習体験記（養護課程） ..... 97 - 124

## 看護学部看護学科

齊藤 明奈      棚谷 由衣      津田 萌々果      五十嵐 美月      齋藤 日向子      島本 麻美  
佐々木 唯      品田 梢      田村 星奈      根本 祐紀      宮田 華穂里      吉田 麻莉

---

## はじめに

第25期生（幼稚園課程：第6期生、養護課程：第5期）のレポートをこのような形でまとめることができ、大変嬉しく思います。あらためて教育実習生を引き受けていただき、ご指導くださいました実習校、実習園の校長先生、園長先生、諸先生方や職員の皆様に深く感謝申し上げます。貴重な実習機会の中かで先生方から薫陶いただきましたことを心に刻み、さらに実践的指導力を身につけ、教育界で活躍してくれることを念願しております。また、このレポートが新年度の後輩達の教育実習の準備に必ず役立つものと期待をしております。

教育実習担当：井上敏博、大塚正美、岡田美也子、目時修（中高課程）  
大内善広、竹内秀一（幼稚園課程）  
岩田浩子、太田幸雄（養護課程）



## 教育実習を終えて

実習校名：私立神村学園高等部

実習期間：令和元年 5 月 20 日～6 月 8 日

実習教科：保健体育

BG2016-013 久保 智

### ○はじめに

私は令和元年 5 月 20 日から 6 月 8 日までの 3 週間、母校である私立神村学園高等部にて教育実習をさせていただきました。私が在学していた当時の先生が多くいらっしゃり、昨年教育実習を行っていた先輩から情報を収集したり、同時期に実習を行う学生が 11 名いたので非常に心強く落ち着いて実習に臨むことができました。

### ○実習計画・取り組み

事前指導は特になく、担当してくださる先生と連絡を取らせていただき指示を仰ぎました。部活動に力を注いでおり、インターハイの県予選等で不在の時期があることやそれらの応援等の行事がたくさんあることを知らされました。私が在学していた頃の教育実習生を思い出したり母校の特色を考えることで、どのような実習になるかを想定し主に球技の単元の準備をしました。この際に、大学での実技の授業や教職課程の様々なカリキュラムを受講し理解できるまで落とし込んでいただいていたことが、情報量の少ない中でスムーズに準備を行えた 1 つの要因だと思います。

### ○実践・授業

実習初日は職員朝礼や各職員室、科別の朝礼といった様々な場所で挨拶をさせていただき、副校長先生からの講話や先生方とのコミュニケーションに終始しました。2 日目から授業を実施し、授業や休み時間を通して生徒との距離を縮めていくことに努めました。担当した学級は 1 年 6 組の野球部とサッカー部のみで構成された男子クラスで、試合等でなかなか全員が一堂に会することは少なかったですが、HR や昼休み、授業や部活動、寮生活を通して彼らにとって少しでも有意義な時間になるように保健体育のことに限らず、様々な情報を提示することを心がけました。

授業は主に高等部 3 学年の男子クラスを担当し毎日 3 コマ前後の授業数を担当させていただきました。雰囲気とメリハリにこだわり、授業内容はサッカーで技術獲得はもちろん、サッカーを通して授業以外のところでも活かせることを学んでもらいたいという思惑で指導案を作成し、指導教諭の先生に繋がりのある授業を作るためのアドバイスをいただきました。担当の授業がない時間は他の実習生の授業や先生方の授業を見学させていただき、空いている時間で教材研究等も行い授業準備の時間にあてていました。授業以外にも全校応援や行事の会場設営など保健体育の先生として貴重な経験をさせていただきました。

## ○検証・生徒の反応

授業を実際にやらせていただいて、教えることの難しさや大人数を管理することの難しさといった教師という職業のやりがいでもあり一番熟考しなければならないところに触れることができました。様々な個性や考え方をを持った純粋な子どもたちに対して、自分が伝えたいことが 100% 伝わることはありません。では、どういうふうにして自分が伝えたいことと生徒が感じたことのギャップを埋めるかと考えると、相手に寄り添い信頼関係を作ることが大事になってくると思いました。私はとにかく、生徒との共通点を探し、授業や授業見学、休み時間等で生徒を観察すること、自分から生徒に話しかけにいくことを心がけました。結果、良い距離感・雰囲気のもと授業を展開することや、生徒の良さを引き出したりする場面が作れたかなと思います。メリハリのある授業に関しては、徹底することが一番効果があったと思います。全員が静かになるまで話さないことや、話しているときにボールを触っている生徒に対して厳しく注意し分からせることを徹底すると生徒も場面に応じた行動をとってくれました。また、サッカー部出身ということもあり、サッカーを教えるとなると食いついてくれる生徒も多く、自己紹介も大きな影響を与えるので大事だなと思いました。

導入やウォーミングアップから最後のゲームまで、繋がりのある授業を展開することで、覚えやすいキーワードを提示し授業を止めた際やゲームに入る前に一度集めて振り返るとあの動きはここと繋がっていたのだと意識づけをすることができ、生徒の理解や技術獲得のためのイメージの浸透などがスムーズにできることができたかなと感じます。研究授業においても繋がりのある授業は評価されましたし、生徒からも分かりやすかったと言ってもらえました。

## ○改善点

生徒に対する安全・体調管理と授業のための準備時間です。時期的にも暑く、熱中症などが多く発生する中で、授業中の休憩時間や授業する場所の特徴を抑えておくことがもっとできていると良かったと思います。授業のための準備時間については、どれだけ準備しても足りないと思ったからです。考えれば考えるほどより良いものに近くし、頑張っていればそれ相応の助けも得られてもっともったできたのではないかなと思います。

## ○これから実習へ行く皆さんへ

行った先々で素晴らしい貴重な経験を積むことができると思いますが、積極的に取り組んでこそその成果です。生徒や先生方の貴重な時間をいただいてこの実習が成り立っていることや自分が何のためにこの実習を行っているかを忘れないでください。楽しかっただけで終わる実習にならないように、様々なところにアンテナを張り巡らせてこれでもかというほど考えてみてください。たくさん吸収して実り多い実習になるように頑張ってください。

## 教育実習を終えて

実習校名：君津市立周南中学校

実習期間：令和元年6月10日～6月28日

実習教科：保健体育

BG2016-033 三澤 光希

### ○はじめに

私は令和元年6月10日～6月28日までの3週間、君津市立周南中学校で教育実習をさせていただきました。

### ○実習前計画・取り組み

教育実習前での取り組みでは、一度、中学校へ事前打ち合わせに行かせていただきました。その際に日程の確認、指導してくれる教諭の紹介、担当クラスの説明、学校の一日の流れの説明の確認を行いました。後日、電話で指導単元を教えてくださいました。

### ○実践・授業

事前の打ち合わせからあつという間に教育実習の初日になりました。

初日は、職員の朝の打ち合わせの時に、先生方の前で挨拶を行い、そのあとに、担当のクラスに入り、生徒の前で挨拶をさせていただきました。

そのあとの授業から早速、授業見学をさせていただき、保健体育はもちろん、ほかの教科の授業も見学をさせていただきました。教育実習の1週目、自分は授業をせずに、いろいろな先生の行う様々な授業を見学するといった流れです。

一日の流れとしては、7時40分に学校に登校し、8時から職員の朝の打ち合わせ、終わり次第担当のクラスに向かい、生徒たちは8時10分から8時20分まで朝読書をしています。時間になったら朝の会、そこから1～6時間目まで授業を行い、掃除、帰りの会、部活動といった流れになります。生徒たちを下校させたら、実習日誌の記入、そして自分自身の授業の準備などをするといった毎日でした。帰宅時間は大体8時から9時です。最長で11時まで残りました。

2週目から実際に授業実践が始まりました。単元は保健が「スポーツとのかかわり方」実技が「陸上競技」でした。全学年全クラスを担当しました。

すべてのクラスを持つことは正直大変で、これを実際に現場で働いている先生方の大変さを身に染みて感じました。

### ○検証・学生の反応

君津市立周南中学校の生徒は明るく、とてもたくさんコミュニケーションをとってくれる生徒が多く、私自身もとても助かりました。また授業での発言も多く、一つの発問に対しても多くの発言をしてくれるのでとても活発な授業を展開することができました。その反面、盛り上がりすぎてメリハリがなくなってしまうときがあったので、書かせるときは書かせる、先生の話聞かせるときは聞かせるといったしめるときはしっかりしめないといけないなと感じました。

### ○改善点

私は、全クラスの授業を持ったので、学校のすべての生徒との関わりをもつことができました。その中で生徒の名前をなかなか覚えることができなかつたのが大きな改善点です。3週間で名前を覚えることは難しいとは思いますが、より多くの生徒の名前を覚えることで授業中に名前と呼ぶことでと生徒との距離もグッと近づけると思います。また授業を行っているとき名前を呼ぶ機会が非常に多いので、名前がわからないときは発言のタイミングで名前を言ってもらうなどの工夫が必要だったと思います。

また、もっと先生方に色々質問をすれば良かったとっていて、先生方は常に何か仕事をしていてなかなか遠慮をしまい、大事な質問などはするのですが、些細な事の際は自分で解決してしまおうとしていました。ですので、もっと少しでも疑問を感じたときは質問をするべきだと思いました。

### ○今後、実習へ行く後輩へのアドバイス

教育実習は、あっという間に始まり、すぐに終わってしまうように感じます。不安が多く大変な思いをしますが、指導教諭の先生は私たちが上手な授業などできるとは思っていません。なので、色々経験し、色々試しながら、指導教諭の先生のアドバイスをしっかりと受け止めて教育実習を頑張ってください。現場で働く先生方はみんないい人です。教育実習は一生の財産となります。終わった後の達成感はとても大きいです。大学で勉強したことも活かし頑張ってください。

## 教育実習を終えて

実習校名：私立成田高等学校

実習期間：令和元年9月4日～9月27日

実習教科：保健体育

BG2016-037 山崎 廉也

### ○はじめに

私は母校である成田高等学校で4週間実習させていただきました。当時の先生方がほとんど在籍していたため、学生時代の懐かしい話をするのができリラックスして教育実習を行うことができました。

### ○実習前計画・取り組み

実習の一週間前に事前指導が行われました。全体では実習生の心得や一日の流れなどを確認しました。HR担当の先生とは朝の教室での流れ、クラスの名簿確認を行い、教科担当の先生とは授業の単元、範囲の確認を行いました。実習までの間に保健の授業の指導案や体育のサッカー、バレーボールの授業準備をしました。

### ○実践・授業

私は朝8時10分から職員会議があり実習生は8時5分までに集合でした。初日は職員会議で自己紹介をさせていただきました。はっきりと大きな声で挨拶ができれば良いスタートができました。

第一週目から保健の授業を行いました。教室に入るところから緊張していたのですが、教室に入ると生徒たちの挨拶や雰囲気がとてもよく一気に緊張がほぐれました。前々から準備をしていたので思っていたよりスムーズに授業が進み、初めての授業を終えることが出来ました。また、週末に文化祭があり、金曜日は終日文化祭準備だったのでクラスの生徒と交流を深められると思い、一緒に準備に取り掛かりました。当日を迎え日曜日は一般公開日ということで沢山の客さんが来て下さりとても楽しい時間になりました。

第二週目は学校も台風の被害があり、停電していたため臨時休校になるなど週初めからバタバタしていました。学校が復旧しても生徒の家や地域が復旧してないこともあり、生徒の体調管理等を徹底して行いました。二週目に体育祭が予定されていたのですが雨で三週目に延期になりました。また体育の授業は体育祭の練習が連日続きました。体育祭の練習でも挨拶から準備体操を行い、体操の流れを覚えるのに必死でした。

第三週目は生徒も待ちに待った体育祭が行われました。体育祭では体育祭実行委員を中心に動き、朝から準備に取り掛かりました。競技が始まってから安全管理や生徒たちと交流

を深めました。さらにリレーでは実習生チームがあり、生徒たちと楽しい時間を過ごすことが出来ました。

第四週目は研究授業を行いました。前の週から指導案を作成し、チェックしてもらい前日までに体育科の先生、お世話になった先生に配布しました。研究授業では生徒たちも協力してくれて動きも機敏でとてもスムーズに授業を展開することが出来ました。また多くの先生が見に来て下さりコメントもいただきました。反省点として使っていないボールが転がっていたので、安全面をもっと配慮すべきでした。

#### ○検証・学生の反応

初めは不安と緊張で生徒との距離が縮まらず、なかなかコミュニケーションが取れなかったのですが文化祭、体育祭また授業で多くの生徒と交流を深めることが出来ました。また登下校中や校内で必ず挨拶することを心掛けたところ、生徒からも挨拶が返ってきたのでとても気持ちがよかったです。

#### ○改善点

改善点は何事も前に前に準備することです。一時限から授業の時に朝早く来て準備をしてなかったため、準備から授業が始まりスムーズに進めることができませんでした。授業だけでなく準備を怠ってはいけないと改めて学ぶことが出来ました。

#### ○今後、実習に行く後輩へ

人前で話すことに慣れよう。先生がおどおどしていたら生徒も不安になります。胸を張って自信を持っていくことが大事です。そのために準備が必要になります。

## 教育実習を終えて

実習校名：大木町立大木中学校

実習期間：令和元年5月27日～6月14日（3週間）

実習教科：保健体育

BG2016-043 池末亜彩妃

### ○はじめに

私は、5月27日から6月14日までの3週間、母校である大木町立大木中学校で教育実習をさせていただきました。教師という立場を経験できたことで、様々なことを学び、感じることで、自分自身の成長につながりました。

### ○実習前計画・取り組み

実習の打ち合わせが4月26日で、一度実習校を訪問しました。打ち合わせの内容は、実習担当教員から教育実習実施要項の確認、指導教諭の先生から担当するクラス、授業内容と授業範囲、担当する学年の雰囲気までお話しをしていただきました。また、事前指導は5月24日に行いました。内容は、実習担当教員から実習心得、生徒に対する態度、実習期間中の日程や1日の流れについてのお話し、指導教諭の先生から、指導計画案や授業内容についてのお話しをしていただきました。私が担当させていただくことになった体育の実技種目は3年生全クラスの男女バレーボールでした。1ヶ月前からバレーボールを担当することが決まっていたので、早い段階から教材研究に取りかかることができました。

### ○実践・授業

実習初日は、朝の職員会議で実習生の紹介をしていただいた後、ご挨拶をさせていただきました。職員会議後、担当する3年生の生徒会の皆さんが中心となって歓迎セレモニーを開いてくださったので、3年生全員の前で挨拶をしました。

実習1週目は初日から3日間スポーツテストがあり、主に授業見学でしたが、学年全体の傾向や各クラスの雰囲気の違いを感じることができました。4日目からバレーボールに入り、最初は1組と3組の2クラスを指導教諭の先生が行い、5日目の2組と4組から授業を担当させていただきました。初めは緊張や不安から自信のなさが表れてしまい、堂々と生徒たちの前に立つことができませんでした。また、自分が思っていた以上に生徒とうまくコミュニケーションを取ることの難しさを実感し、早く生徒の顔と名前を覚えることを徹底しました。指導教諭の先生から、生徒に最終的な目標を伝えること、1つ1つの練習を行う理由と意味をしっかりと伝える必要があること、まとめでは良かった点やできない原因と対策を伝えることをご指導いただきました。次の授業から、本時のめあてを確認し、本時の流れや活動内容を説明することで、生徒が明確な目標を持って取り組むことができるように心掛けました。

3週目の最終日に査定授業があり、今までご指導いただいたことを元に研究授業や指導案を作成し、教材研究や指導案作成の時間を多くいただいて実施することができました。部活動においても初日から最終日まで放課後の練習を見させていただき私にとってすごく勉強になりました。

#### ○検証・生徒の反応

初めは緊張と不安で生徒と距離感がありましたが、自ら話しかけることによって生徒からも話しかけてくれるようになり、距離も縮めることができました。給食の時間では、班を1日ごとに回って一緒に食べることで、その他の時間では、廊下ですれ違った生徒に笑顔で元気に挨拶することを心掛けることで、多くの生徒とコミュニケーションを取ることができました。

#### ○改善点

指導案を作成することに慣れていなかったため、時間がかかりすぎたこと、教材観や指導観の内容が不十分であったことです。指導案を作成することが大変であること、また、いかに指導案が大切であるかということを実感しました。

#### ○今後、実習に行く皆さんへ

まず、教育実習をさせていただくことに対する感謝の気持ちを常に忘れず、実習生としての自覚を持って実習に望んでほしいと思います。事前準備を行った分だけ自信につながるのですが、事前準備はたくさんしておいてください。また、緊張や不安など様々な思いで実習に望むとは思いますが、できるできないではなく、何より一生懸命に取り組むことが大切です。最後に、教育実習はまたとないとても貴重な人生経験になり、必ず行って良かったと思えるはずです。辛いことや苦勞することが多々あるとは思いますが、あっという間に終わってしまうので、生徒の笑顔を活力に、楽しんで頑張ってください。

## 教育実習を終えて

実習校名：茨城県神栖市立波崎第一中学校

実習期間：令和元年5月13日～5月31日

実習教科：保健体育

BG2016-049 上佐 隆祐

### ○はじめに

私は5月13日～5月31日の3週間、母校である茨城県神栖市立波崎第一中学校で教育実習をさせて頂きました。この3週間の実習にて大変貴重な経験をさせて頂き、一日一日が非常に充実した実習生活を過ごすことができました。

### ○実習前計画・取り組み

実習の始まる約2週間前に実習校との事前打ち合わせを行いました。主な内容は、実習日程の確認、教科の確認、注意事項の確認、指導教諭・協力学級の説明、学校案内や教室の説明、その他質疑応答を行いました。そこでは注意事項を総括したプリントや全校生徒の氏名や性別の記載された名簿のプリントを頂きました。頂いたプリントを反復して確認をし、協力学級の生徒の名前は覚え、更にできるだけ多くの生徒の名前を覚え実習に臨みました。

### ○実践・授業

初日は自分自身目指していた、教師になることに心臓の鼓動が聞こえるほど緊張していましたが、心のどこかで「ワクワク」や「やってやるぞ」などの気持ちがあり、今まで味わったことの無い、様々な感情が混雑する気持ちになったことを今でも鮮明に覚えています。

実習初日、教育実習を受け入れて下さった校長先生、教頭先生に応接室でご挨拶をさせて頂いた後、指導教諭にもご挨拶させて頂きました。その後朝の職員会議で貴重なお時間を頂き、全職員へご挨拶をさせて頂きました。職員会議を終えた後担当学級の先生にご挨拶をし、協力学級の教室に入り生徒前で自己紹介をしました。クラスでの挨拶は職員への挨拶とはまた異なった緊張感があり、生徒の反応が少し戸惑う様子が見られ、自分自身不安になり失敗したと思った記憶があります。初日で挨拶、自己紹介させて頂いた機会は4回です。翌日、朝の全校集会があり全校生徒の前で自己紹介を含めたご挨拶をさせて頂きました。全校集会ではステージに登壇をしてマイクを使い、経験の少ない挨拶をしたこともあり、頭の中が真っ白になり流暢に自己紹介ができませんでした。全体に挨拶、自己紹介をした回数が5回、沢山の機会を設けて頂いたこともあり、生徒が挨拶や話し掛けてくれました。挨拶で意識したことは、明るく、元気に、失敗を恐れることなく堂々としようと思ひ臨みました。

1週目は授業参観が中心でした。全ての教科を参観させて頂き、参考にしたいところや授業展開など見て感じて学んだことをメモして記録に残しました。授業参観を基に自分であったらこのような授業にしたいと計画をしていました。

2週目に入り実習授業が本格的に始まりました。単元は「陸上競技 リレー」でした。2年1.2組の合同クラス、3年1.2.3組それぞれ1クラスずつの計4クラスを担当しました。1週目の時間で教材研究をしていましたが、いざ始めると何もできなくなりました。それは自分が満足しただけの教材研究だけであって正しい教材研究ではありませんでした。生徒を教えている以上、生徒より知識をもっていることが当然だと考え、その後からは教材研究を怠ることなく取り組みました。

3週目、教材研究の成果が出てきて、説明やコツなど正確に明確に教えることができました。また研究授業では反省点や改善をしたいところが多くありましたが、自分なりに工夫して用意したホワイトボードや模造紙を使い簡潔に説明ができ、最初の授業に比べ成果が表れたと感じました。

#### ○検証・学生の反応

朝の会や帰りの会などの生徒とのコミュニケーションは大切だと感じました。授業や生徒の前で話す時には1つや2つ生徒の聞き入れる話の内容を考え話すようにしました。もし自分がこの話には興味がないと思ったときには、それは生徒も同様であり話が頭に入りにくくなります。そのような工夫をした結果生徒から興味を持ち実技やモチベーションなど高い意識で取り組む姿が見られました。また生徒から話し掛けられる機会が増えました。

#### ○改善点

実習では体育と道徳を教えました。この2教科や他教科に共通して言えることが授業効率を上げることです。例えば体育であれば、生徒が動かない時間は体育の授業ではなく、生徒も楽しくありません。そこで指導教諭に助言を頂き、時間効率をするために事前にすべて準備物は揃え、生徒の移動距離を減らすことを意識し、運動時間35分を目標にして授業展開をしました。そして1回の授業では1つの目標がぶれることない明確な目標設定、的確な指示をすることが重要だと学ぶことができました。

#### ○今後実習に行く後輩へのアドバイス

教育実習では不安や緊張をし、自分の持っている力を最大限に発揮できないかもしれません。ある先生に「生徒は自分の鏡」だとお言葉を頂きました。まさにその通りでした。自分が本気になるとう生徒も本気で理解しようと自分なりに答えを出そうとします。そこで「できるようになった」、「〇〇を意識すると記録が上がった」など前向きな言葉を聞けました。失敗を恐れずに挑戦し続けてください。それにプラスをして生徒の名前を1日でも早く覚えることでコミュニケーションが取れ、非常に重要だと思いました。

最後に、わからないことがあれば何でも聞いてみてください。仲間と助け合いながら臨んでください。生徒の貴重な時間をお借りして実習をさせて頂いていることを忘れずに全力で頑張ってください。

## 教育実習を終えて

実習校名：広島県立吉田高等学校

実習期間：令和元年6月3日～6月21日

実習教科：保健体育

BG2016-050

川越理来

### ○実習計画・取り組み

実習の約3週間前に実習校に事前の挨拶に伺った際に、担当する単元を知らせてもらったことで早い段階で授業のイメージを膨らませ、指導計画に取り組むことができました。主な取り組みとしては、保健体育科教育法やゼミナールの授業のなかで模擬授業を行ったことです。教壇に立つことや体育館で生徒役の学生の前に立って話をするといった場慣れから始まりましたが、数をこなすことで自信をつけることができました。特に難しかったことは高校生に合った話の伝え方や授業内容を考えながら行うことです。模擬授業では大学生相手に授業をしますが、実際には高校生を教えるので高校生に合った授業をするよう心掛けて行いました。毎回の模擬授業で担当して下さった先生方や、生徒役の学生から改善点の指摘や助言をしてもらったことで良いかたちで実習の準備ができたと思います。

### ○実践・授業

実習初日は、職員朝会や担当クラスでの挨拶を行い、教頭先生に実習での心得や注意点を主にオリエンテーションをして頂きました。初日から多くの生徒とコミュニケーションをとることを心掛けて自分から進んで話しかけ、ホームルームで昼食をとるなどして生徒との距離を縮めることができました。文化祭の時期だったこともあり担当した2年A組とは、放課後の歌練習や出し物の準備などで特に関わりが多く、コミュニケーションを取りながらも活動を通してクラスに貢献できたと思います。

授業は、2週間目から行いました。1週間目は指導担当の先生の授業を主に見学して、空いている時間で他の教科の先生の授業も見学させて頂きました。生徒への伝え方や褒め方であったり、時間配分などとても勉強になりました。私は実際にバレーボール、ソフトボール、円盤投げの授業を担当し、全学年を教える機会がありました。時間配分や伝え方、話し方など難しいと思った点は多くありましたが、特に学年や生徒のレベルに合った授業内容を考えて実践することが難しかったです。

### ○検証・生徒の反応

実際に授業をさせて頂いたことで、生徒に伝えることや理解させることの難しさを感じた一方で、生徒が楽しそうに授業に取り組んでくれたり、興味を持ってくれることへのやりがいも感じることができました。まず、保健の授業では伝えるべき内容を整理し伝えながらも、生徒に飽きさせない授業を心掛けました。整理し上手く伝えることはしっかりできたとは言えませんが、グループワークや自分の経験談を交えて話したことで、寝る生徒はいなく授業に興味を持たせることができたと思います。体育の授業では、生徒のレベルを考えて授業の内容を考えたつもりでも、上手くできない生徒が多くいた時は教えることの難しさを感じました。その中でも上手くできた生徒に褒めた時の喜ぶ姿は印象に残っています。

### ○改善点

指導担当の先生からもずっと言われていたことですが、教材研究をもっとしっかりしないといけないと感じました。自分がその単元や競技についてルールからコツまで十分に知っておかないと生徒に分かりやすい指導ができないし、褒めることもできないということです。生徒にとって人生の中で1度しかないその授業を責任もって行うためにも、もっと深くまで教材研究をする必要がありました。

### ○これから実習へ行く皆さんへ

実習中は、指導案の作成や授業の準備など大変なことが多いと思いますが、最後には生徒から感謝され、とても充実してやりがいを感じることができると思います。また、一生懸命すればするほどその充実感を感じることもできると思います。そして、先生方に忙しい時間の中で実習させて頂いていることを忘れず、感謝の気持ちをしっかりもって実習に臨んでください。

## 教育実習を終えて

実習校名：私立柳川高等学校

実習期間：令和元年 10 月 15 日(火)～10 月 25 日

実習教科：商業

BG2016-135 坂田 慎矩

### ○はじめに

私は、令和元年 10 月 15 日(火)～10 月 25 日までの 2 週間、母校である私立柳川高等学校で実習を行わせて頂きました。私が在籍していた頃にご指導して頂いた先生方が多く、懐かしくも新鮮な気持ちで教育実習に臨むことが出来ました。

### ○実習計画・取り組み

実習開始の 4 日前に事前指導が行われました。まず、教務主任の先生から教育実習に臨むにあたっての諸注意や確認事項の説明がありました。その後、指導担当教員の先生と教科の説明や範囲などの確認を行いました。指導担当教員の先生が野球部の部長先生ということもあり、程よい緊張状態で教育実習に臨むことが出来ました。

### ○実践・授業

実習初日は、職員朝礼で先生方に挨拶をした後に、担当クラスで自己紹介を行いました。前日から、挨拶の言葉や自己紹介の内容を考えていたので、ハキハキとした挨拶が出来たと思います。1 時間目は、人権同和の講習を受け、2 時間目から指導担当教員の先生の授業参観を行い、初日を終わりました。

実習中の 1 日の流れは、7 時 30 分に出勤し、授業の準備を行い、指導教員の先生との打ち合わせ、8 時 20 分職員朝礼、8 時 50 分朝のホームルーム、そして 1 時間目～6 時間目まで授業を行い、帰りのホームルーム、掃除、16 時～21 時まで授業の準備や日誌の作成をする毎日でした。また、土日には、オープンキャンパスもあり、先生方の準備のお手伝いや、当日の運営のお手伝いもさせて頂き、2 週目の月曜日・火曜日は、祝日だったので、部活動にも参加しました。

授業実習は、3 日目の 1 時間目から行いました。私は、2 年生の「簿記」「ビジネス実務」、1 年生の「簿記」の 3 つを担当させて頂きました。初めて授業実習を行ったときは、想像していた以上に生徒に伝えることが難しく、自分の思い描いたような授業が展開出来なかったのととても悔しかったです。

2 週目には、1 年生のクラスで簿記の研究授業を行いました。校長先生をはじめとする先生方が、30 名ほど来られたので、とても緊張しました。プリントに沿って授業を展開し、

生徒と一緒に問題に取り組んだり、質疑応答を加えてみたり、重要なポイントだけ取り上げて説明したりと様々な方法で授業を展開していきました。生徒が皆、積極的に授業に取り組んでくれたので、スムーズに授業を進めることが出来ました。しかし、指導案通りにはいかず、もう少し、時間配分に工夫が必要だったと思っています。

#### ○検証・学生の反応

私は祝日や振替休日などもあり実際の実習の日数が、7日間と非常にタイトなスケジュールでした。そんな中で、ホームルームを担当したクラスと研究授業を行うクラスも異なり、生徒とのコミュニケーションを取る時間が非常に短かったです。授業参観や授業実習を行った際に、担当の教員の先生に生徒とのコミュニケーションを取る時間を作ってもらうように促したりして、なんとか生徒との距離を縮める事に努力しました。その結果、研究授業もスムーズに展開する事ができ、生徒から、「先生の授業分かりやすい」と言ってもらえることが出来、非常に嬉しかったです。

#### ○改善点

教材研究と指導案の作成に思った以上に時間がかかり余裕をもって取り組むことが重要だと感じました。その他にも、時間配分や言葉遣いなど細かいところを意識して取り組み、自分が今日の授業で1番伝えたいことは何か、ということを確認にして授業に取り組むことが重要だと感じました。

#### ○これから実習へ行く皆さんへ

教育実習では、毎日が初めての経験です。自分が生徒のときに見ていた先生の姿と違ったものが見えてきます。そんな中でも、今の自分が出来る最大のパフォーマンス、準備をすることが出来れば、それで良いと思います。なので、これを見たときに、少しでもいいので、今の自分が出来る事（教材研究や指導案の作成）に努めて下さい。そうすると、自ずと、より充実した教育実習の期間を送れると思います。私が皆さんに最後に伝えたいことは、最大の準備をして教育実習に臨み、最後まで頑張り続けるということです。

## 教育実習を終えて

実習校名：私立近江高等学校

実習期間：令和元年6月3日（月）～6月14日（金） 2週間

実習科目：保健体育

BG2016-168 忍田 知弘

### ○実習前計画、取り組み

教育実習1カ月前ぐらいに指導教諭と打ち合わせをして、実習期間が2週間のため保健の授業を行わなくて良いと言われ、実技も2つ選択して6時間分の指導案を作ってくれば良いと言われました。実習まで時間があるため、1週間分の指導案を先に作っておきました。何が起きるかわからないので、先に行動をしておこうと思いました。

### ○実践、授業

とにかく時間がないため一回、一回より大切に授業を行いました。前の授業よりも良いものを作り上げていく。この意志を持っていました。上手くいかなくて当たり前。失敗して当たり前。常に安全確認をして、生徒がケガをしないように気を付けました。

### ○検証、学生の反応

私の実習校は幅の広い高校のため、色々な生徒がいます。常に、最悪の状況を想定して、先のことを考えて行動をしなくてはならないです。生徒全員ができないのが、当たり前。運動が苦手な生徒も必ず存在してくる。その生徒に体育、運動を好きになってもらうかが、保健体育教師として存在意義になるのではないのか。とにかく運動することが楽しいことだと伝えなくてはいけないと思います。

### ○改善点

実技の知識力のなさ。バスケットボールとバレーボールを行いました。1つ、1つの動きの指導をするときに、知識がないため深みが生まれてこない。もっと教材研究をしておけばよかったと思います。そこを痛感しました。実習日誌を不備があるのに教頭先生に提出したのは大いに反省しております。

○今後、実習へ行く後輩へのアドバイス

学校によって、内容、質が違う実習になりますが、このような経験ができる喜び、貴重さを十分にかみしめて実習期間を過ごして欲しいです。私は4つのことを実感しました。

1. 先生方の偉大さ
2. 先生方の大変さ
3. 在学中に先生方に多大なる迷惑をかけてしまった謝罪の気持ち
4. 社会人の生活リズムの大変さ

各々感じることは違うとは思いますが、私は特にこの4つを感じました。行かせて頂くことができ、2週間という短い期間ではありましたが物凄く良い時間、経験をさせて頂き、本当に感謝の言葉しかありません。私の恩師に「もう一回生まれ変わっても教師になりますか?」と質問したところ「なるな。この仕事に誇りを持っているし、この仕事以外で働く自分が想像できない。」とこれほどやりがいのある仕事だと強く感じました。そんな仕事を間近で見て、体験ができることを本当に大切に過ごしてください。厳しく、辛いほど実習を終えた時の達成感や寂しさは相当なものだと思います。今のうちから、実技、座学の練習を行ってください。

## 教育実習を終えて

実習校名：千葉県立船橋二和高等学校

実習期間：令和元年6月3日～6月21日

実習教科：保健体育

BG2016-173 小林 亮太

### ○はじめに

私は6月3日～6月21日までの約3週間、母校である千葉県立船橋二和高等学校で教育実習をさせていただきました。約3週間で多くのことを気づき、貴重な経験をすることができました。

### ○実習前計画・取り組み

5月27日の事前打ち合わせでは、最初に日程確認、実習の流れ、注意事項や持ち物などの確認を実習生全員で行いました。その後、個々で担当の指導教諭へのあいさつ、指導単元の確認、授業の進め方についての打ち合わせを行いました。また、実習初日から授業を行ったので実習前に初日に行う授業の指導案を作成しました。

### ○実践・授業

実習初日は、朝の打ち合わせで実習生の紹介をしていただき、その場で挨拶をさせていただきました。その後担当教諭の先生と朝のSHRで自己紹介をしました。私が担当したクラスは2年B組で落ち着いた生徒が多く、生徒みんなが顔をあげて自己紹介を聞いてくれました。

実習初日から授業を行いました。体育は、1年A・B・C組（女子後半）のバスケットボールと2年A・B・C組（男子後半）のテニスと2年G・H組女子のサッカーでした。保健は、2年B組とE組で「加齢と健康」、「高齢者の社会的取り組み」、「保険制度とその活用」の3単元でした。雨天時には、テニスの時には卓球を行い、サッカーは雨天の日がなかったけれどフットサルを行う予定でした。実習1週目は緊張や不安があった為、生徒とのコミュニケーションが取れなかったり、うまく生徒に伝わらない指導になってしまったりなどと多くの課題がありました。2日目から朝と帰りのSHRもやらせていただくことになりました。2日目以降からは毎時間の授業での反省会でいただいた指導を次時の授業で改善できるように努力しました。また、生徒が興味を引くように時事問題や体験を入れた授業展開を行いました。

最後の週には保健と体育の研究授業をさせていただきました。教材研究は研究授業が決まった日から行い、事前に授業の時間で練習を行ってから望みました。多くの先生方が参観に来てくださったけれど雰囲気にもまれてしまい、思うようにできないまま終わりました。そ

の後は参観して下さった先生1人1人からご指導をいただきました。

#### ○検証・生徒の反応

初めは緊張していた為生徒との距離感がありましたが、授業や昼休み、掃除の時間などで自ら生徒に話をかけに行くことによって距離を縮めることができました。1人でも多くの生徒と関わり、コミュニケーションをとることで生徒との信頼関係を築くことができ、積極的に授業に取り組んでくれました。

#### ○改善点

学校とは教育の場であり生徒が主体なので、生徒にわかりやすく簡潔に伝えるための言葉遣いや表現の仕方、説明が必要だと感じました。

保健では教科書のことばかり取り扱っていたので、もっと体験や教科書に載っていないことも取り上げながら授業展開をしていく必要がありました。また、生徒が楽しく授業を理解できる工夫や知識が重要で改善点だと思いました。

#### ○これから実習に行く皆さんへ

教育実習は思っているよりも時間の経過が早く、気付いたら終わっています。なので、授業の準備や指導案作成することも必要だけれども、生徒と授業や休み時間や放課後、部活動など限られた時間を大切にすることが大事だと思います。実習に向けての「準備」はどんなにしても無駄になることはないなので後悔をしないように頑張ってください。

## 教育実習を終えて

実習校名：相模原市立東林中学校

実習期間：令和元年5月13日～6月7日（4週間）

実習教科：保健体育

BG2016-233 諸藤 駿

### ○はじめに

私は5月13日から6月7日まで母校の相模原市立東林中学校で4週間教育実習をさせていただきました。担当教科は保健体育で、1学年の保健体育を担当させていただきました。また部活動では野球部を担当させていただきました。

お忙しい中たくさんの先生方にご指導していただき、この4週間でとても成長することが出来ました。

### ○実習前計画、取り組み

実習開始に1ヶ月前に事前打ち合わせがあり、そこで教育実習担当の先生や担当学年、担当クラスの雰囲気などを教えていただきました。また、教育実習生としての諸注意や実習の流れの確認を行いました。指導教諭の先生と打ち合わせがあり、保健体育の担当する単元を教えていただいたので教材研究や指導案作りを実習までに準備することが出来ました。

### ○実践、授業

実習初日は、朝の職員会議で実習生の紹介をしていただいた後に、先生方の前でご挨拶をさせていただきました。そのあとに全校集会があり、全校生徒の前でも挨拶をさせていただきました。各クラスの最初の授業で自己紹介を含んだ挨拶をさせていただきました。

1週目は、指導教諭の先生以外の授業も参観させていただき先生方によって授業の展開の仕方や1時間の授業が全く違うことを学ぶことが出来ました。さらに、クラスや学年によって同じ内容でも進み具合や授業の展開に変化があり、参観することでたくさんのことを吸収することが出来ました。たくさんの先生方に教えていただいたことは、授業の内容や進め方・板書の仕方など先生の動きを見ることは当たり前だが、一番大切なのは生徒ひとりひとりを観察してどのようにしているか見ることが大事になってくることを教えていただきました。

2週目からは、HRを担当クラスでやらせていただき、1学年の保健体育の授業もさせていただきました。単元は、1年生の新体力テストと陸上競技の短距離走とバスケットボールを担当させていただきました。指導をする際には生徒たちの安全を第一に考えてケガや体調不良などに気をつけて授業を展開しました。水分補給の時間を入れたり、説明をする際は

日陰で説明したり工夫しました。生徒たちに話を聞いてもらえるように生徒を座らせて注目させて説明をしたり、短く分かりやすくまとめて説明したりしました。また、声のボリュームを上げて遠くまで届くよう心掛けて授業実践しました。

3週目から保健の授業をさせていただきました。単元は呼吸器・循環器の発育・発達という単元をやりました。座学の難しさを実感しました。発問をして生徒たちに興味をもってもらったり、実際に心拍数を測ってみたりと飽きない工夫をしました。

4週目は研究授業があり、体育のバスケットボールと道徳をやらせていただきました。道徳は初めてのことで生徒たちにたくさん発言をしてもらい考えさせる授業をさせていただきました。

実習中の1日の流れとしては、朝7時に登校し部活動の朝練への参加、職員の打ち合わせ、授業、放課後の部活動、翌日の授業準備や教材研究、帰宅22時頃でした。また、土日は朝6時から部活動に参加する実習でした。先生方の大変さと偉大さを感じました。たくさんのお話を学び・吸収し成長することが出来た4週間でした。

#### ○検証・学生の反応

生徒たちとの信頼関係を築くことが最も大切なことだと思いました。授業においては始まりと終わりの挨拶のメリハリを付けたり、一人でも多くの生徒たちに話しかけてコミュニケーションをとることの大切さも強く感じました。

#### ○改善点

改善するところだらけだと感じました。特に事前の準備がいかにか大切に学びました。また、自分が知っていなければ授業で説明することもできないし、分かりやすく説明することも出来ないので毎日が勉強だと痛感しました。教材研究を多くすることが必要ってことが分かりました。

#### ○今後実習へ行く皆さんへ

教育実習を経験できるということは本当に素晴らしいことだと思います。その中で一番大切なことは教材研究です。準備をすればするほど自信をもって取り組むことができます。また、分からないことは自分で解決するのではなく、先生方に聞いてたくさんアドバイスを受けて成長することができる実習にしてほしいです。

最後になりますが、自分は4週間の実習でとても辛い思いばかりでしたが最終日には辛いが楽しいに変わっていました。「最終日には楽しかった」と思える貴重な時間を過ごしてきもらいたいです。常に「準備」を忘れずに頑張ってください。そして、目の前にいる生徒たちと少しでも多く関わり、その生徒たちが成長することができるような支援を心がけてください。

## 教育実習を終えて

実習校：神奈川県立秦野高等学校

実習期間：令和元年5月20日～6月7日

実習教科：保健体育

BG2016-266 平沢優果

### ○はじめに

私は、令和元年5月20日から6月7日までの3週間、母校の神奈川県立秦野高等学校で教育実習をさせていただきました。教師という立場で様々な経験をすることができ、とても充実した期間となりました。

### ○実習前計画・取り組み

5月13日に実習校にて事前ガイダンスがありました。内容は、実施要項（初日の日程、担当クラスとクラス担任・教科指導教諭など）、実習心得、その他注意事項の説明でした。全体の説明の後にクラス担任・教科指導教諭との打ち合わせをしました。その時に、保健で担当する単元と体育で担当する種目等の詳細を知ることができました。また、3週間の時間割を教えていただき、担当クラスの名簿もいただいて名前を覚えるようにしました。

体育で担当する種目がソフトボール（男子）、テニス、陸上競技（三段跳び・ハードル・ジャベリックスロー）だったため、まずはルール確認をしてからその他技術面などの教材研究に取り組みました。

### ○実施・授業

実習初日は8時までに登校し、簡単な説明を聞いた後に、朝の職員打ち合わせで職員への紹介、挨拶をしました。その後、担当HRクラスで自己紹介をして、オリエンテーション（校長先生の話、教科生徒指導について、その他）がありました。その後は授業を参観させていただきました。

2日目以降は、7時15分目安で登校し、授業の準備等を行いました。主に、指導教諭や他の先生方の授業を参観させていただきました。そして、3日目の5校時目で保健（単元「妊娠・出産と健康」）の授業をさせていただきました。初めての授業でとても緊張しましたが、積極的に発言してくれた生徒に助けられながらも終えることができました。しかし、内容を思うように伝えることができなかつたことで自身の知識の少なさを痛感し、時間配分等を含めて授業に対しての準備不足の反省点がたくさんありました。

体育では「テニス」（2クラス分）「ソフトボール（男子）」（3クラス分）「陸上競技（三段跳び、ジャベリックスロー、ハードル）」（1クラス分）の授業をさせていただきました。それぞれの種目・担当クラスで2回目の授業から担当させていただきました。

毎回の授業で指導案の略案を作成しましたが、教材研究が足りず時間に追われてしまいました。同じ種目でもクラスによって上達度合いや雰囲気が異なり、授業展開や声かけに戸惑ってしまった場面がありました。しかし、何より先生自身が元気に明るく授業をし、雰囲気を作ってあげることが大切だと感じました。説明や注意する際に、どれだけメリハリをつけられるかが重要だと、人数の多いクラスの授業では特に感じました。

3回目の保健で研究授業を行いました。1、2回目とは異なる単元で「家族計画と人口妊娠中絶」でした。自身の頭の中に知識や情報が無い状態だったため、ゆとりがなくとても緊張しました。たくさん先生方に参観していただき、授業後には先生方や同じ実習生に講評をいただきました。周囲の意見を聞くことはとても大切だと改めて感じました。反省点などを明確にすることができました。

3週目には体育祭や実習生講話等で授業は後半の2日間のみでした。体育祭など、生徒が頑張る姿を見られる行事に参加できた時間は、とても貴重だと思いました。

体育の研究授業では「ソフトボール（男子）」を行いました。少しずつ慣れてきた中でも、用具管理や安全管理、声かけ等、まだ至らない部分がたくさんありました。しかし、生徒が楽しむ姿を見ると私自身も嬉しく思いました。お互いの貴重な時間のためにも、準備はとても大切だと実感しました。

#### ○検証・生徒の反応

生徒は先生のことをよく見ていると感じました。保健の研究授業で私はとても緊張していました。私の緊張も感じ取り、生徒も後ろの先生方にとっても緊張していたと後になって気づかされました。先生が授業の雰囲気を作ることが大切だと身に感じました。授業が面白くなければ、声に出さなくても生徒の様子で分かります。どれだけ瞬時に判断をし、声掛けの工夫ができるか大切だと感じました。

生徒が書いてくれた日直日誌のコメントをさせていただきましたが、実習生の授業は新鮮で楽しいと書いてくれていました。新鮮というだけでなく、分かりやすく内容の濃い授業をしたいと原動力になりました。

#### ○改善点

授業に対しての教材研究がもっと必要でした。毎回の指導案作りで精一杯になり、力を入れたかった研究授業に対しての準備が確保できていませんでした。気持ちのゆとりから自信を持つことができると思うため、効率的に熟す工夫が必要だったと思います。

#### ○今後、実習へ行く後輩へのアドバイス

最初はとても緊張すると思いますが、あっという間に時間は過ぎてしまいます。その中で何を得るかは自分次第です。視野を広く持つことは勿論のこと、何より生徒との関わりを大切にして、頑張ってください。

## 教育実習を終えて

実習校名：さいたま市立大宮八幡中学校

実習期間：令和元年9月2日～9月27日

実習教科：保健体育

BG2016-272 門間 淳是

### ○実習計画・取り組み

4週間の教育実習では、保健体育（マット運動）を生徒に教えた。4週間という期間のうち最初の2週間は体育祭練習の指揮を執った。体育教師ということもあり、大きな声で的確な指示を出さないと、生徒からの信頼を得ることができず、苦勞した。

実習前の計画としては、授業範囲がわかり次第早い段階から単元計画、学習指導案の作成を進めていこうと企てていた。計画通りに作成していったが何度もダメ出しされ、最終的には各回で素晴らしい指導案を完成させることができた。特に9月26日におこなった研究授業の学習指導案は今までの傑作だと思う。

### ○実践・授業

授業では、教える相手が中学生ということもあり、少し大変な面がいくつかあった。中学生は想像以上に幼く、指示通りに動けない生徒が多く見受けられた。また、好奇心のあまり、指示したこととは別の行動をとってしまう生徒もいた。そんな環境のなか、笛などを活用し1つ1つの行動にメリハリをつけさせた。指示も大きく、明確に出すことで生徒の動きも日を追うごとに良くなっていった。研究授業では教頭先生を始め、多くの先生方がお見えになった。緊張感は特になく、いつも通り自信をもって授業を行うことができた。

### ○検証・生徒の反応

器械運動（マット運動）を生徒に教えるうえで、教材研究は欠かせないものだった。私自身、器械運動はとても苦手で、正直最も恐れていた分野だった。そのため自信はあまりなかった。そのような環境下、必死で教材研究に取り組み、実技ではお手本も見せるため練習に練習を重ねた。その結果、生徒からの反応や手ごたえも非常に良く、上手くいった授業になったと思う。4週間の苦勞も忘れ、最終的には充実した教育実習にすることができた。

### ○改善点

私は教育実習に行く前から、大学の先生方や周囲の教育実習生から指摘されていたことがあった。それは“声の大きさ”だった。体育教師で声が出ないということは致命的だという印象を受けると思うが、私は実際に声がとても小さかった。しかし私は「何とかなるだろう」と特に重大な問題であるとは思わなかった。いざ教育現場に立つと初日から声が小さいとのご指摘をいただいた。声が出ない理由として「自信がない」ということが挙げられ納得した。次の日から私はとにかく自分に自信を持つと自身に言いかけ、授業に取り組んでいった。

### ○これから実習へ行く皆さんへ

教育実習に臨むうえで最も大切なことは「覚悟」と「自信」だと思う。まずは、徹夜をし、一睡もしないで指導案作成や教材研究をする覚悟がなければ教育実習で苦労すると思う。教育実習は想像以上に過酷なものだ。本気で教員になりたいと思えないのであれば、指導教官やその他の先生方に対しての「失礼」にあたる。教員になる覚悟をもち、精一杯教育実習に臨んでほしい。2つ目は、自分に自信をもってほしい。いくら教育実習生とは言え、生徒からは1人の先生として見られている。先生が自信なさそうな授業をしていると生徒はその先生を信頼しない。結果として、先生と生徒という関係を創造することができなくなってしまう。教員になる覚悟を持ち、自信をもって実習に臨んでほしいと思う。

## 教育実習を終えて

実習校名：佐賀県立鳥栖商業高等学校

実習期間：令和元年5月27日～6月14日

実習教科：保健体育

BG2016-291 佐々木 良

### ○はじめに

私は、母校である佐賀県立鳥栖商業高等学校に4週間教育実習をさせていただきました。指導担当の先生をはじめ、多くの先生方から温かいご指導を受けながら、充実した実習生活を送ることができました。

### ○実習前計画、取り組み

実習の4日前である5月23日に、実習校と事前打ち合わせを行いました。大まかな内容は、スケジュールの確認、指導教諭・担当クラスについての説明、指導単元の確認、注意事項、その他質疑応答を行いました。私は、実習の1か月ほど前から電話で担当の先生と連絡を取り合っていたため、ある程度のことは確認できていました。しかし、曖昧で分からないところもあったため、事前に聞きたいことをメモし、質問の準備をしておきました。

事前打ち合わせ後は、さっそく授業の準備に取り組みました。実家の近くに図書館があったため、参考書を何冊か借り、知識を深めるために教材研究を行いました。また、保健の授業の指導案も一通り作り、自分の頭の中で授業内容のイメージを作っておきました。

実習前の準備はとても大切です。早め早めに準備をしておき、少しでも不安を自信に変えておく努力をしておくといいでしょう。

### ○実践・授業

体育では「水泳」と「バレーボール」で週に12コマ、保健では「家族計画と人工妊娠中絶」と「加齢と健康」を週に2コマずつ担当させていただきました。

一週目の三日間は授業見学がメインでした。そこで意識したことは、ただ観察するだけではなく、自分が実際に現場に立った時にどのような授業展開にするのか頭の中でイメージしながら観察したことです。先生方の授業を観て感じたことは、指導するにはそれだけの知識の量が必要だということです。特に保健の授業では、知識や経験がないと深みのある授業はできないと思いました。学生である私たちは、学校の先生方と比べると知識も経験も浅いです。しかし、だからこそ教材研究を十分に行い、努力して補っていくことが必要です。

初めての授業では、体育と保健の両方とも、自分が思っていたよりも上手くいきました。指導担当の先生にも褒められ、良いスタートを切ることができました。もちろん、課題は山ほど見つかりましたし、指摘されたこともあります。しかし、準備を入念にしていたことで

計画通りに授業を進めることができたと思います。

体育の授業では、その競技の技のポイントをしっかりとおさえておくことが大切だと思いました。例えば、水泳ではクロールや平泳ぎの腕や足の動きのポイント、バレーボールではパスやアタックを行う際のポイントです。そういったようなポイントを、生徒に分かりやすく伝えながら指導をすると、生徒たちは授業に積極的に取り組んでくれました。

また、クラスによって雰囲気や運動能力が全然違います。そのため、生徒をよく観察し、生徒たちの能力に合った練習メニューを考え、授業を行うことが大切だと感じました。

私が授業を行うにあたって苦労したことは、苦手な生徒や意欲がない生徒をいかに授業に参加させ、楽しませるかです。体育が好きな生徒や運動が好きな生徒は、何も言わなくても自分たちで楽しみながら授業に取り組んでくれます。しかし、体育が苦手な生徒や嫌いな生徒は、バレーの授業で試合を行ったときに、端っこに立っているだけでボールに触ろうとしません。そこで私は「たくさん失敗していいよ」と個人的に言葉をかけたり、全員がボールに触れるような練習メニューを考えるなどして工夫をしました。

実際に50分間の授業をさせてもらうことで、「人に教える」ということの難しさと、生徒の成長ぶりを身近で体感することができる嬉しさ、また、教師としてのやりがいを実感することができました。

#### ○検証、学生の反応

生徒にはそれぞれ個性があります。そのため、生徒によって授業中の態度や取り組み方、授業以外での過ごし方には違いがあります。大事なことは、生徒のことをしっかりと観察し、理解しようと努力することです。そして、生徒にあった指導法を考えたいうえで接することで、より深いコミュニケーションを取ることができると思います。

また、生徒のことを理解することだけではなく、自分のことを理解してもらうことも大切です。HRなどの時間を使い、自分の話をすると生徒は興味を持って話を聞いてくれました。

#### ○改善点

計画通りに授業が進まなかった時や、生徒から想像もしていなかった答えが返ってきたときの対応力です。その場その場で対応できるようになるためには、経験を積むことだけでなく、知識を身に付けるなど、自分の中にある引き出しを増やしておくことが必要だと感じました。

#### ○今後、実習に行く後輩へのアドバイス

一番大切なことは、何事にも一生懸命取り組むことです。一生懸命な姿は、先生だけでなく生徒にも伝わります。また、たとえ失敗したとしても周りの人がサポートしてくれます。教材研究をして準備をしておくことはもちろん大切ですが、教育実習生らしい態度で、失敗を恐れずチャレンジすることを意識して実習に臨んでください。

## 教育実習を終えて

実習校名：青森県野辺地町立野辺地中学校

実習期間：令和元年5月21日～6月14日

実習教科：保健体育

BG2016-311 矢部 綾乃

### ○はじめに

私は令和元年5月21日～6月14日までの4週間、母校である野辺地町立野辺地中学校で教育実習をさせていただきました。私が在学していた頃にご指導いただいた先生方が何名かいたこと、指導教諭は私が当時、部活動でお世話になった先生だったこと、兄弟がお世話になった先生がいたことなど、とても行いやすい環境で実習ができました。

### ○実習前計画、取り組み

教育実習前に電話で実習校に連絡をし、事前打ち合わせの日を聞きました。実習開始4日前ということで、その際にすべての説明を受けることになりました。打ち合わせでは、1日の流れ、指導教諭、配属学級、授業の予定等を教えていただきました。また、配属学級の名簿と座席表もいただけたため名前を早く覚えられるようにしました。

### ○実践、授業

実習初日はまず職員朝会で先生方に挨拶をし、生徒集会で全校の前で挨拶をし、その後、配属学級の2年1組で挨拶を含め自己紹介をしました。1日の流れとして、朝は余裕をもって出勤し職員朝会前に配属学級の様子をうかがいました。その後、職員朝会に参加し、朝の会、授業、給食、昼休み、授業、清掃、帰りの会、部活動といった形でした。初日は主に講話を聞き、様々な知識を増やすことができました。2日目からは授業参観を行っていきました。1～3年の保健体育の他にも違う教科の授業も見学させていただいたことで沢山の授業の仕方、それぞれの指導法など学べたことがありました。1週目は授業参観のみで2週目から朝の会や授業実習を行いました。授業実習は2学年を担当し体育はバレーボールを2クラス、保健は「環境の変化と適応能力」「活動に適した環境」という単元を1クラスで行いました。研究授業は配属学級以外の2クラスでバレーボールと道徳を1クラスずつ行いました。

#### ○検証、生徒の反応

学年やクラスによって雰囲気が大きく違いました。授業や日々の触れ合いの中で、自分から積極的にコミュニケーションをとったことで沢山の生徒と打ち解けることが出来たと思います。オープンな子もいれば人見知りの子もいるため、その子に合った接し方をすることが必要だと感じました。生徒の方から話しかけてくれたり、授業が楽しいと言ってくれた時は、とても嬉しかったです。

#### ○改善点

授業を行うにあたり、安全面での配慮、声の大きさ、教材研究が私には不足していました。また、「教師」と「生徒」という関係を理解しメリハリをつけることも必要だと感じました。

#### ○今後、実習へ行く後輩へのアドバイス

教育実習は学ばせていただくと同時に生徒の貴重な時間をもらっています。実習生として常に見られているという意識、自覚を持った行動をとることが大切です。また、事前準備をしっかりと行い、引き出しをたくさん持っていけると良いと思います。大変なことも多くあると思いますが充実した実習に出来るよう頑張ってください。

## 教育実習レポート

B G2016 - 314

漁野 達耶

### 1. 実習前計画、取り組み

私は、令和元年5月13日（月）～6月7日（金）までの4週間、母校である市川市立第八中学校で教育実習をさせて頂きました。学級は2年2組、授業は全学年の器械運動（鉄棒運動）を担当させて頂きました

実習開始の1ヵ月から大学の先生方に事前指導を行って頂きました。その後、4月24日（水）に実習校側との事前打ち合わせがありました。そこでは実習にあたっての諸注意や学校のルール、精練の予定、担当クラスなどについて打ち合わせを行いました。打ち合わせの際に、授業で行う範囲を聞くことができた為、教材研究や指導計画を行いました。担当するクラスの名簿を頂けたので、できるだけ生徒の名前を覚えて実習に臨みました。

### 2. 実践、授業

実習初日は、緊張や不安もありましたが、楽しみという気持ちもありました。朝の職員会議で、先生方に挨拶をさせて頂きました。全校集会はなく全校生徒の前では挨拶はありませんでしたが、各クラスの最初の授業で自己紹介をする時間を作って頂きました。

職員会議が終わると、担当クラスに行き朝の会で自己紹介をしました。

私の場合は、実習の2週目の土曜日に体育祭があったため、実習期間中の体育の授業の半分は体育祭練習だったので、実際に一人で授業することは2週目以降までなく、授業参観が多かったです。体育祭の練習では、全学年の生徒と関わる機会が多かったので、2週目以降の授業では、スムーズに生徒とコミュニケーションをとることができたので、授業はとてもやりやすかったです。

2週目からの器械運動（鉄棒運動）の授業では、担当教員の授業を1度見せてもらい、それを参考に後の授業はすべて担当させて頂きました。全学年の授業の担当だった為、その学年のレベルにあった授業内容を用意することに苦戦しました。同じ学年でもクラスによってできる技の難易度が異なるので、クラスによって授業の時間配分を変化させることが大切だと気付きました。

体育の授業で最も大切なことは安全面です。現在の教育界では、インクルーシブ教育を取り入れていて、障害のない生徒と、軽度の学習障害やADHDの生徒が同じ環境で共に学ぶため、予想外の危険行為が起きることがあるので、広い視野を持ち、より一層安全に配慮した授業を考えることが大切になっていきます。

道徳は今年から教科になり、新教材が用意されていました。道徳の授業ではいかに生徒の

興味を引き付けるかが大切なので、生徒の考えを紙に書かせ黒板に貼り付けたり、写真などを用いて工夫をしました。

### 3. 検証、生徒の反応

4週間の実習はとても大変でした。しかし、生徒の元気と明るさや、成長を感じることで楽しさを感じることもとても多くありました。実際に授業を行って、生徒にとって何が大切なのか、どう寄り添っていけばよいのかを考えながら授業計画を立てることが大切だと感じました。

### 4. 改善点

全科目共通に言えることは、得意な生徒と苦手な生徒がいるということです。得意な生徒と苦手な生徒の配分はクラスによって異なります。事前にどのようなクラスなのかを把握し、授業計画を複数個考えておけば最初の授業で慌てることなく臨機応変に対応できたと思います。

### 5. これから実習に行く人へ

教育実習はとても大変です。しかしその中で授業を計画通りに、または計画以上に良くできたときはとても嬉しさを感じることができます。また、授業の中で生徒の成長がみられたときにやりがいを感じ、もっと頑張ろうと思うことができます。なにより、生徒と過ごす時間がとても楽しかったです。

これから実習に臨む人は、インクルーシブ教育と障害のある生徒への対応について知識を増やしておくことが大切だと思います。私たちが中・高生だった時とは教育現場が大きく変わっていて、各クラスに一人は軽度の障害を持っている生徒がいると考えてください。予想外の事故や、怪我が起きないように、様々なことが予想できる知識をつけておくと実習が行いやすくなると思います。

## 教育実習を終えて

B G 2 0 1 6 - 3 1 9 飯塚 淳一

- ・実習校 佐倉市立白井中学校
- ・実習期間 6月3日～28日

### ① 教育実習の取り組みから、実習終了までの概要

私は6月3日～28日まで母校である、佐倉市立白井中学校に教育実習に行かせていただきました。私は中学時代生徒会長や部活動の部長など、とにかく様々なことにチャレンジをしていました。特に生徒会長になって全校生徒を引っ張った経験は今でも活かされていて、そのような貴重な経験をさせていただいたこの白井中学校にまた教育実習生という形で帰ってこられたこと、本当に感謝しています。

私は宮城県の東北高校を卒業し、実家に戻ってから白井中ソフトテニス部の外部コーチを4年間、務めさせていただいたこともありソフトテニス部の生徒の顔と名前は知っていました。しかし、他のソフトテニス部以外の生徒と関わることはなかった為、まずは積極的に生徒とコミュニケーションを図り、担当であった1年1組の生徒だけでなく、全校生徒との輪を広げることを目標にしました。そして保健・体育科として授業も行う為、授業をする上でも目標を立てていました。それは体育が苦手な生徒であっても、親しみやすく、楽しむことができる授業を展開できるようにするというものです。この2つの目標を4週間という期間で達成できるように日々の生活を送りました。

まず、私は1年1組の担当であることが決まり、クラスに入ってからとにかく笑顔で生徒のみんと接することから始めました。そうすることで、初対面であっても親しみやすく、話しやすい印象になるだろうと感じたからです。また、実習2週目に入ったらクラスの運営と保健・体育科の授業を持たせていただくことになるということで、更に生徒の気持ちを引き付けられるよう意識しました。クラス運営の方では先生からの話で必ず1日に1回は良かったところを褒めて、私も生徒も前向きに明日からも過ごしていけるような言葉を準備して話をしていました。あとは学年主任の渡辺先生に2週目にアドバイスをいただいたことですが、朝の会と帰りの会の話がつながるように話をすることを意識して、何が良くて何がいけなかったか、明日はどのようにしていけばよいのかを生徒が明確に理解できるようにしました。授業の方でも、休み時間と同じように沢山コミュニケーションが取れたり、何か考えを自分なりにもってほしくて生徒に発問を多くすることで、とにかく親しみやすく、参加しやすい授業の雰囲気をつくれるよう心掛けました。また、私の理想である体育が苦手な生徒であっても、楽しめる授業にする、これを実現させる為にチームで沢山声を掛け合い、話し合う時間をとることでみんなで楽しむ空気を作っていくことを目標にしました。

これらを意識して、実際に学校生活を送った結果、まず笑顔のおかげで実習初日から沢山の生徒が私の周りに集まって来てくれました。特に驚いたのは、日が経っていく内に女子生徒の方が多くコミュニケーションを取りに来てくれたことです。改めて笑顔、そして積極的にコミュニケーションを図ることの大切さを学びました。朝の会と帰りの会の先生からの話では褒めること、そして話がつながるようにすることを意識した結果、「この教科は今日頑張れたので、評価が良かった。」「今日はこんなことがありました。」というように、生徒の方から課題に向けた頑張り、楽しかったことを話してきてくれるようになりました。生徒に任せるだけでなく、生徒と一緒に課題や問題を解決できるように促すことの重要性を学びました。

そして、授業では7割近くの生徒がバレーボールの授業が楽しいと学習カードに記入してくれていました。そして発問の仕方を工夫したからか、生徒の発言や反応も段々良くなってきて、自然と授業中の生徒の表情も豊かになっていったように感じます。またチームで作戦タイムや話し合いの時間を毎授業とったことで、チーム内で沢山声を掛け合って楽しそうに取り組む姿が見えました。このように、意識して取り組んだことが自分自身だけでなく、生徒のみんなにも多少なり、良い影響となったのではないかと感じています。

しかし、学級運営では声掛けがまだ足りなく、最後の週まで週直の仕事をおぼろげに忘れる生徒がいたりしました。これは私の指導不足だなと感じています。もっと細かなところまで気づき、生徒に声をかけることが必要だと感じました。授業の方では、スムーズにそして楽しく授業ができたとは思いますが、見学者の配慮が良くなかったところがありました。また、体育で特に重要である大きな声を出す、そしてきびきびと動くといったところの指導が甘かったと感じています。これから教員になることができたなら、まずは声をしっかりと出させて、だめだったらやり直しをさせるなど、厳しくそこは指導することが必要だと思いました。

## ② 後輩へのアドバイス

教育実習を終えて、私は一番重要なことは終えた後に楽しかったと思えるかどうかではないかなと感じています。楽しかったと感じる為には、やはり生徒と沢山関りを持ち、絆を深められるかどうかです。おそらく教育実習期間の中では、辛い事や大変ことは誰にだって少なからずあるでしょう。しかし、そんな時でも自分の周りに生徒がいてくれて、生徒と楽しく毎日を過ごすことができたならそれは後々楽しかった思い出へと変わるはずです。

是非、実習を終えた時に生徒との様々な思い出を懐かしみ、楽しかったと思うことのできる教育実習にして下さい。

## 教育実習を終えて

実習校名：宮古島市立北中学校

実習期間：令和元年9月2日～9月27日 4週間

実習教科：英語

HK2016-002 池城 ゆりか

### ○はじめに

私は9月2日～27日の4週間、宮古島市立北中学校で教育実習をさせていただきました。実習教科は英語で1学年4クラスあるうちの2クラスを受け持ちました。また、実習の間中に運動会と地区陸上競技大会に参加させていただきました。

### ○実習前計画・取り組み

実習前の事前打ち合わせでは、指導教諭と担当クラスの担任の先生との挨拶、単元の確認、実習をするにあたっての注意事項などを確認し、1学年4クラス分の名簿を実習期間お借りしました。

### ○実践・授業

実習初日は2学期初日でもあったので職員室で挨拶をさせていただいた後に体育館で始業式の後に全校生徒の前でも挨拶をしました。1週目は講話という形で先生方が時間を割いて実習の目的・心得や学校経営について、道徳教育や生徒指導など様々なお話をしてくださいました。担当するクラスには給食時間と清掃時間に入らせていただき、生徒とコミュニケーションを取りました。実習1週目の週末に運動会があったので講話がない時間は運動会の練習を見学しました。台風で1日休校になってしまいましたが、無事運動会を終えることができました。

2週目から授業観察と授業実習が始まり、朝の会や帰りの会にも参加し生徒と関わる時間がより多くなりました。また、各教室に電子黒板があったため、授業は全てパワーポイントを作成し行いました。空いている時間は自分が担当しているクラスの別の教科の授業を見学させていただき、授業の進行の仕方やどのような雰囲気なのか、教室が騒がしくなってしまった時の先生方の対応などを自分の授業に取り入れられるように観察させていただきました。3週目も授業実習と授業観察を行い、4週目の研究授業に備えました。

実習最後の日は地区陸上競技大会があったので全校生徒で応援に行きました。学校全体が一丸となって応援して生徒とよりコミュニケーションを取ることができ、とても良かったです。

### ○検証・生徒の反応

初めは緊張してしまい生徒と上手く話すことができませんでした。一週目に運動会があったためクラスの応援や競技の手伝いなどを通して少しずつ担当のクラスの生徒とはコミュニケーションを図ることが出来ました。授業では、2クラスともとても積極的に発言をしてくれて授業を円滑に進めることが出来ました。同じ内容の授業を行っても、クラスが違えば進行の仕方や発問に対しての答え、アクティビティゲームの反応などが全く違ってそれぞれに合うような進め方を考えるのがとても大変でした。また、クラスの中でもたくさんの生徒がいるので置いてけぼりになっている生徒や、逆に暇になってしまっている生徒はいないかを観察して全員に理解してもらうことはとても大変で難しいなと感じました。

### ○改善点

単元導入の際のアクティビティで行うゲームのアイデアがもっとあればよかったと思いました。生徒たちが楽しみながら英語を少しでも使ってゲームを行い単元に入ることができれば意欲をもって授業に臨むことができると思うので、その引き出しをこれから増やしていきたいと思いました。また、アクティビティで盛り上がることはとても良いですが、盛り上がりすぎて收拾がつかなくなってしまうと授業再開に時間がかかってしまうのでクラスごとに合った内容を考えられたらより良かったと感じました。

### ○今後、実習へ行く後輩たちへ

実習が始まる前は不安でいっぱいでしたが、実習が始まるとあっという間に4週間が過ぎていきました。授業づくりはもちろん大変ですが、生徒から「楽しかった」や「わかりやすかった」といった声を聞くと頑張った良かったなと感じました。4週間は長いようでとても短かったと感じているので積極的に生徒と関わり、少しでも信頼関係を築けるように頑張ってください。

## 教育実習を終えて

実習校名：今治市立桜井中学校

実習期間：令和元年6月3日～6月28日（4週間）

実習教科：英語、道徳

HK2016-021 出山 千紘

### ○はじめに

私は、母校の今治市立桜井中学校で4週間教育実習をさせていただきました。担当学級は1学年で、ホームルームは1年3組でした。

### ○実習前計画、取り組み

実習校との打ち合わせを5月31日（金）に行いました。打ち合わせでは実習中の注意点の確認や指導教諭の先生と顔合わせを行いました。また、担当する分野や範囲など大まかな打ち合わせを行い、事前に教材を研究して知識を身につけました。道徳に関しては、大学で模擬授業を行ったことがなかったので特に念入りに教材研究を行いました。

### ○実施、授業

1週目はまず、校長先生にご挨拶させていただき、職員朝礼と全校集会、担当クラスで自己紹介を行いました。この週は市の総合体育大会が2日にわたってあったので、先生に応援に連れて行っていただきました。普段の生徒たちの雰囲気とは違い、勝利を目指して真剣にスポーツに取り組む姿はとても輝いていました。また、先生方も積極的に各会場へと足を運んでおり、学校を上げて応援していました。

2週目は道徳の研究授業がありました。ボランティアについての題材だったのですが、中学校で行われているボランティア活動についても触れ、生徒たちのボランティア活動に対する意識が少しでも変わればよいと考えながら授業を行いました。グループワークでは机間巡視を行いながらアドバイスをし、生徒たちの話し合いが実りあるものになるようにしました。

3週目は英語の研究授業がありました。授業実習を先生に見ていただき、研究授業に向けての準備を進めました。張り物を活用するようにアドバイスをいただき、視覚的に分かりやすくなるような授業づくりを心掛けました。導入ではカウンティングじゃんけんを行うことで生徒たちの意識を英語へと向けさせ、アクティブな雰囲気で授業を進めることができました。

4週目は定期考査が行われたため授業はなく、その時間で学年通信を作成していました。すべて手書きで作成したのですが、とてもよい経験になったと同時に生徒たちにも喜んで

もらえました。また、担当学年の帰りのホームルームでは自分の経験について話させていた  
だき、生徒たちにたくさん話を伝えることができました。

#### ○検証、学生の反応

生徒たちは学年にかかわらずたくさん話しかけてくれて、様々な生徒と交流をすることが  
できました。生徒たちと打ち解ければ打ち解けるだけ自分に興味を持ってくれて、より集  
中して私の話を聞いてくれるようになりました。また、研究授業では生徒たちは積極的に授  
業に参加してくれて、とてもスムーズに授業を進めることができました。

#### ○改善点

生徒たちは、自分が思っているよりもはるかに学んでいることが少なく、授業で使える単  
語は限られていました。自分が担当する範囲を研究することも大切ですが、それより以前の  
ことについても視野を広げ、生徒たちの理解はどこまでなのかを把握しておくべきだった  
と感じました。

#### ○今後、実習へ行く後輩たちへ

教育実習が始まる前はもちろんですが、研究授業を行う前はとても緊張します。しかしだ  
からといって焦らず、自分がそこまで準備してきたことを思い出し、落ち着いて何事にも取  
り組むようにしてください。それでも反省点はたくさん出てくるとはありますが、落ち込んで  
しまったりマイナスに考えるのではなく、どうすればよかったのか、改善するためには何を  
すべきなのかを考え次に繋げてください。

教育実習生とはいえ生徒たちにとっては先生です。常に見られていることを意識してく  
ださい。先生として今の自分はどうなのか、責任をもった言動ができているのかをよく考え  
るようにしてください。とはいえ、生徒たちはとても自分に興味を持って寄って来てくれま  
す。授業準備や仕事をする 것도大切ですが、なるべくたくさんの生徒とコミュニケーション  
をとることも大切です。自分自身が成長することはもちろん、生徒にもいい影響を与え、  
共に成長できるようにしてください。大変なことも多いと思いますが、終わった後にはやっ  
てよかったと思える実習になるよう頑張ってください。

## 教育実習を終えて

実習校名：市原市立五井中学校

実習期間：10月15日から11月1日

実習教科：外国語（英語）

HK2016-034 宮島滉弥

### はじめに

私は、2学期のはじめから母校である市原市立五井中学校で3週間教育実習をさせていただきました。授業は2学年の4クラスを担当させていただきました。五井中学校は1学年8クラスある大きな学校でしたので多くの生徒と関わることができました。また、実習期間中に五和祭（文化祭）もあり、授業だけでなく行事指導についても学ぶ事ができました。

### 実習前の取り組み

実習前は教科教育法で習った通りに本文の分析や単語の意味調べ、既習事項と結びつけをどのように行うかを考えておきました。英語の教科書は新しい文法事項に加えて、既習事項も織り交ぜて構成されています。その為、新しい文法事項の説明だけ出来るのではいけません。ですから、関連する文法事項などもまとめておきました。新出単語もただ意味を説明するだけではなく、日常で使用されている話など少しでも覚えやすくなるような話も調べました。事前の打ち合わせで、デジタル教科書を使用した授業展開ができることを説明されていたのでどのように活用するかも考えました。

### 実践、授業

実習初日は2学期の始めということもあり、始業式場で全校生徒に自己紹介を行いました。その後はホームルームでも自己紹介を行いました。最初の1週間は指導して下さる先生の授業を見学させていただき、大まかな授業の流れや構成を学び、自分が行う授業の構成を考えることができました。毎時間の授業においては略案を作成し、担当の先生へ確認をしていただきアドバイスを頂きました。45分といっても生徒の集中は続かないので毎時間ゲームなどのアクティビティをうまく組み込み授業を展開すると良いということだったので毎時間何をするのかを考えました。私は、神経衰弱、ババ抜きなどを新出文法と結びつけてゲームを構成しました。カードなどのゲームで使用する物も自分で作成したので少し準備に時間がかかりました。

私が担当した単元はホームステイがテーマになっていました。私はホームステイの経験があった為、自分の体験談を話し、テレビを使用して写真を見せることもできました。写真の説明や体験談を話すときは簡単な英語を使用して話すように心がけました。大まかな授業の流れとしては、文法事項の導入を行い、口頭で新出文法の意味や使い方を説明しました。

その後、その文法事項を使用したゲームを行います。このゲームで自然に新出文法を使用してもらうことができます。その後、ゲーム終了後にゲームで出てきた分などを確認した後、ノートに文法事項をまとめました。次の時間で、前回学んだ文法の確認を行いその後、本文を読み、音読などを行いました。音読も読み方を毎回変えることを心がけました。音読後は本文の内容を確認しました。本文の内容確認のための○×プリントも作成しました。このプリントも回を重ねるごとに難易度を上げていきました。英語の授業は回数を重ねるごとに生徒の反応やペースなどをつかめるようになってきたので授業を行うたびに改善できることを改善していくことができました。

授業以外ではホームルーム、給食指導、清掃指導、部活指導、下校指導など多岐にわたりました。部活動の先生からは「生徒と関わるときはなるべく生徒と過ごして」とお言葉を頂いたため、放課後などもなるべく生徒と関われるように授業準備などは生徒の下校後に行いました。

#### 検証、生徒の反応

生徒とのコミュニケーションはとても大切だと思いました。中学生は素直なので思っていることや、考えていることを比較的話してくれるので授業などを行う時のヒントになります。実習が始まった頃は緊張してどんな話題を振って良いのかと迷うことがありましたが給食の時間などを利用して芸能ニュース、ゲームの話などで距離を縮めることができました。生徒は実習生に興味を持ってきているのでオープンに生徒と関わっていく事が大切だと感じました。授業中も机間指導を行う際に生徒に話しかけることで生徒の方から発言をしてくれるようになりました。

#### 改善点

私は授業中に私自身が生徒に投げかけた質問の答えをすぐに言うという事です。何か質問を投げかけた際に生徒からの反応が薄かった場合、その静かな時間を回避しようと私は自ら答えを生徒に与えてしまいました。しかし、その沈黙は生徒が考えている時間であったので、解答ではなくヒントを与えたりする手段を学び、教育支援が行えたら良いと思いました。

#### 今後、実習へ行く後輩たちへ

実際に教育実習に行く前は不安や期待で複雑な感情になってしまうかもしれません。ですが、過度な緊張や不安は失敗の元です。ただ不安になるのではなく、その不安のために今自分ができる対策を行ってください。そうすれば必ず楽しい実習を行えるでしょう。また毎日、良かった点や改善すべき点を洗い出し日々進化して行ってください。生徒と関わるときはいつも全力で事前準備をしっかり行い自分が出せるベストな授業を行ってください。分からないことなどはすぐに実習担当の先生に相談しましょう。報・連・相は大切です。

## 教育実習を終えて

実習校名：千葉県立茂原樟陽高等学校

実習期間：令和元年5月27日～6月14日

実習教科：英語

HK2016-057 渋谷剛海

### ○はじめに

私は、母校である茂原樟陽高等学校で3週間教育実習をさせていただきました。学科ごとにクラスが分かれていることもあり、男女比がクラスごとに違い、授業の進め方や活動の方法も幅広く身をもって学ぶことができました。

### ○実習前計画・取り組み

実習前は事前に指示を頂いた指導範囲の教材研究とワークシートの作成、及び指導案の作成を徹底して行いました。また、以前に教育実習に行った経験のある先輩から様々なアドバイスを頂き、実習への心構えをしっかりと持って実習に臨みました。

### ○実践・授業

第一週目は指導担当の先生の授業を教室の後ろから参観させていただき、授業実践において時間配分や活動の種類、またそれらの方法を学びました。加えて、茂原樟陽高校には工業科と農業科があるため、様々な分野における授業の行い方や、先生方によって教室の空気や生徒の姿勢が変わることも身をもって感じることができました。

第二週目からは授業実践が始まり、英語科の先生方の協力のもと、次々と自分の授業実践における改善点が見つかることに悔しさを感じながらも、少しずつ改善されていく授業内容に自分の成長を実感することができました。生徒から授業内で「英語が初めて楽しいと感じた」「先生の授業なら一日6時限英語でもいい」などというコメントをされたときには、教員になることへのモチベーションはもちろんのこと、教員という仕事のやりがいの一部を感じるすることができました。授業実践におけるアドバイスは英語科の先生方だけでなく、様々な科の先生方からも頂くことができました。教員採用試験に向けて多くの資料を用意してくださったことをはじめ、研究授業に関するアドバイスを頂いたり、緊張していた気持ちを察して声をかけてくださったりなど、多くの先生方に助けられながら、大変有意義な3週間を過ごすことができました。

研究授業においては、茂原樟陽高等学校の職員に限らず、高校時代にお世話になった先生方が他校から来てくださり総勢20名を超える先生方に参観していただき、大変貴重なご意見、ご指導を賜ることができました。中には研究授業における感想や所感をお忙しい中ワードで打ち込んでプリントアウトしてくださった先生もおり、どれだけ先生方に支えられてこの3週間を過ごせてこられたか、と心からありがたく思いました。

### ○検証・学生の反応

どの授業実践においても、生徒は非常に関心、意欲の高い態度で授業に臨んでくれました。自分の授業で英語に興味を持ったという生徒がいくつかのクラスから放課後に職員室を訪れ、留学や教職、英語の勉強方法などを聞きに来てくれました。先生の授業はとても分かりやすく、ワークシートも丁寧で、発言もしやすかったと実習最終日にホームルームを担当していたクラスの生徒から言ってもらえました。

### ○改善点

まだまだ授業実践において至らない点が多くあると感じています。クラスの雰囲気やその日の生徒のモチベーションによっても授業の進め方や活動の種類をうまく使い分けていく必要があると学ぶことができました。

### ○今後、実習へ行く後輩へのアドバイス

まず授業実践において聞き手である生徒のことを第一に考えて授業づくりに励むこと、そして実習をさせていただいているという意識を常に持ち続けることを強くお勧めします。初めての授業実践でどれだけ上手に授業が行えるかを考えてしまいがちだと思いますが、授業を受けるのは生徒なので、聞き手側が聞いていて興味を持てるような、楽しいと思えるような授業づくりを意識してもらいたいです。授業では生徒がその科目に対して最初から興味を持ってないこともあります。その時に、いかに生徒の興味を惹くことができる導入を行えるかでその後の授業の進み方も大きく左右されてきます。その科目の授業を行うにあたって、どうすれば興味を持つのかに着目して授業を行うことがより良い授業実践につながると私は思っています。そして、実習中は先生方が大変お忙しい中、実習生の面倒を見てくださることになります。その意識を常に忘れず、常に自分から何ができるかを考えて行動すべきだと私は考えます。朝早く出勤して職員室を掃除したり、初日に菓子折りを持って行ったりなど、小さな心遣いがあとで自分にとって大きなプラスとなって返ってくることを知っておいてほしいです。でもそれより、なによりも一番は「教育」を楽しんでください。素敵な教育実習になることを心から願っています。

## 教育実習を終えて

実習校名：福島県南相馬市立原町第一中学校

実習期間：令和元年6月3日（月）～6月28日（金）4週間

実習科目：社会科

HL2016-010 木幡 有貴

### ○はじめに

私は、6月3日から6月28日の4週間母校である福島県南相馬市立原町第一中学校で教育実習をさせていただきました。担当教科は社会科であり、第二学年の担当でした。母校でしたので、教師として毎日学校へ行くことは大変の引き締まる思いでした。期間中は、中体連・期末テスト・体力テストなどの行事などがあり普段の生活はもちろんですが、生徒の様々な頑張りと様子を拝見することができました。

### ○実習前の取り組み

実習前は大学の事前指導の中で、身だしなみや言葉遣いなど確認しました。実習では実習生ではありますが、教師と同じ立場なので常に意識して取り組まなければいけないと思いました。社会科教科教育法では、地理・歴史・公民の模擬授業を行いました。教材研究や展開の工夫や、掲示資料の精選などを自分なりに考えて行ってみました。同じく教員免許状取得を目指す学生が行う、模擬授業のいい点を真似したり、相談しあったり、知識を共有することができ大変有意義な時間となりました。

### ○実践・授業

1週目は、校長室・職員室・放送室で全生徒へ挨拶を行いました。そのあと、担当クラスで挨拶や質問に答えたりしました。初めての授業見学は第一学年の地理の授業を見させていただき、生徒観や授業の進め方を主に注目して見ることができました。1週目は、中体連もあり、クラスの生徒がどの部活に所属しているか積極的に尋ねて、生徒の様子も把握できました。

2週目は、初めて歴史の授業を行いました。事前に、略案作成や教材研究を徹底的に行いましたが、納得のいく授業を行うことができませんでした。講義式の授業を行ったので、生徒が退屈と感じているように見えたり、スピードについていけなかったりと、自分と生徒の温度差を感じました。放課後、板書の練習を行うなど事前にイメージをつかむことは非常に重要だと感じました。その中でも、はっきりとした声で教壇に立ち、板書をとにかく綺麗に書く工夫をしました。

体力テストでは、生徒の教室での様子とは違う姿を見るきっかけになり、特にクラスの役割をこなす生徒をしっかりと見つけて声をかけてあげたり、サポートを行ったり、意識をして参加しました。

3週目は、2週目の授業を踏まえて、授業を行いました。私の課題は、生徒との対話式の授業がなされていなかった点でした。一方的に、話すようにならないように発問工夫や、生徒に考えさせる場を設定する意識をしました。3週目は、防犯教室があり教師として生徒の身を守らなければいけないと実感する時間でした。

4週目は、道徳と歴史の研究授業を行いました。3週目にて道徳の授業参観を行い、参考にして研究授業を取り組みました。私は、和食の題材を取り扱いましたが、ねらいとゴールが一致できなかつたです。板書の時間を省く案として、フラッシュカードを利用し、また、自分で実際に撮った写真を利用して、生徒の関心を集めることはできたと思います。歴史の研究授業では、班活動を取り入れた授業を行いました。班活動における、生徒への指示に難しさを感じました。事前のイメージの段階で、教師の発問と、生徒の予想される言動がつなげることに難しさを感じました。

#### ○検証・学生の反応

第二学年の生徒は、クラス感がそれぞれ異なっており把握の難しさを感じつつ、しっかりと授業に参加してくれる生徒ばかりなので安心して取り組むことができました。特に歴史の授業を行い、戦国時代に関心のある生徒が積極的に話しかけてくれたのでうれしく思いました。板書では、誤字があったときに間違いを教えてくれたり、字が綺麗だとほめてくれる生徒がいたり、とても助かり、さらによい授業をしようと思いました。

担当クラスの生徒の自学ノートを見させてもらい、コメント記入を行いました。

#### ○改善点・課題点

改善点は多くありましたが、特に生徒側に立って考えることができていなかったと思います。例えば、資料を掲示したときに、見る時間・考える時間・発表する時間十分に与えていなかったため、生徒が混乱してしまったと思います。生徒に理解・関心を持ってもらえるような授業をできるようにすることが課題点です。

#### ○これから実習に行く皆さんへ

私は、実習へ行く前非常に緊張していました。生徒とうまく関われるか、担当教科のプロとしての能力があるか不安に思っていたのを覚えています。4週間という時間は、実習校の先生方への受け入れていただき、困ったときに手を貸していただき感謝の気持ちはもちろんですが、生徒にとっても自分にとっても貴重でかけがえのない時間だと思いながら過ごしました。授業のために、次の日の歴史の教材研究を行っている不安な気持ちもありますが、同時に自分が準備してきた話について、どんな反応をしてもらえるだろうか楽しみな気持ちもありました。私は4週間では、改善点だらけでしたが、なにか一つでも喜びを見つけることができれば、さらに教師になりたいという気持ちが強くなると思いました。

## 教育実習を終えて

実習校名：私立木更津総合高等学校

実習期間：令和元年6月3日～6月21日（3週間）

実習教科：地理歴史科（世界史A・B）

HL2016-032 小倉 悠喜

### ○はじめに

私は、母校の私立木更津総合高等学校で3週間教育実習をさせていただきました。担当教科は、世界史Aと世界史Bを担当させていただき、一学年1クラス、二学年3クラス、三学年1クラスの授業を行いました。ホームルームが2年13組を担当させていただきました。また、実習期間中には、数回しか参加出来ませんでしたが、空手道部の練習に参加させていただき、インターハイ予選の応援にも参加させていただきました。教員の立場として生徒を応援することは貴重なものであったと思います。

### ○実習前計画・取り組み

実習校と打ち合わせを5月27日（月）に行いました。打ち合わせでは実習中の注意点の確認や指導教諭の先生と顔合わせを行いました。また、担当する教科、単元、範囲を大まかに打ち合わせし、事前に教材研究、指導案の略案を作成し知識を身に付けました。

### ○実践・授業

教育実習初日は、朝の職員会議で先生方に挨拶を行い、その後全校集会に参加し全校の前でも挨拶を行いました。母校であった為、存じている先生方もいらっしゃいましたが、実際に、「先生」と呼ばれるようになるのと教育実習生という立場であるということを実感しました。授業見学では、多くの先生方の授業の展開方法、発問の仕方、授業内の生徒指導等を学ばせていただき、クラスの雰囲気や、生徒たちの様子などを細かくメモを取り自分が授業実践をする際に役立てられるように心がけました。

主な実習中の一日の流れは、朝7:20に出勤して、8:30の職員会議まで教材研究を行いました。職員会議では、一日の予定と生徒への連絡事項を共有し、終了後、担当教員の先生と確認をし、担当学年のクラスにて朝のホームルームを行いました。実習校では、漢字、英語、数学の小テストを毎週朝のホームルームで行っていたので空いている時間は、教材研究と採点を行っていました。実習3日目から教壇授業を行いました。緊張と50分間授業をやりきることで精一杯になってしまい、上手く生徒と交流しながら授業を行うことが出来ませんでした。また、黒板をうまく使い熟せていなく、板書の構成自体も見にくかったので生徒がノートを見返した時に瞬時に授業の内容を思い出せるように意識しながら板書することを指導してもらいました。板書は、経験と慣れが大切だとアドバイスを頂いたので、放

課後にクラスの黒板をお借りし板書の練習をしました。研究授業では、生徒の支え、先生方の支え、練習の成果もあり、自分が納得のいく研究授業を行うことが出来ました。多くの方々の支え、何より生徒たちが、「先生に協力するよ！！」と一緒に頑張ってくれた生徒に感謝の気持ちでいっぱいです。授業を行うことだけが教員の役割ではないことを実感しました。

授業の中でも生徒指導を行い、どんな時でも生徒のことを考え行動し、常に生徒に寄り添うのが教員だと感じました。

#### ○検証・学生の反応

生徒と笑顔で接することの大切さを感じました。はじめは打ち解けることが出来ず、距離があったが、共通話題、進学について、部活についてなど生徒に興味をこちら側から示すことで生徒の方からも挨拶や話しかけてくれる様子が増えました。授業では、授業に参加しない生徒や寝ている生徒が何人かいましたが、発問を増やしたり、発問内容を生徒の目線まで落とし込んだ例えば変更したり、写真や資料を多く使用したことによって最終週の授業や研究授業では、積極的に発表したり、目線をこちらに向けてくれていました。歴史に対して興味を持ってくれた授業になったのではないかと思います。

#### ○改善点

教員は授業の専門知識だけでなく、生徒の思いや行動の理由に常に意識を向けられる色々な角度や立場で考える力が必要なのだと感じました。また、教材研究したことだけを授業でやるのではなく、生徒の反応や、単元の要点に沿ってどこが重要で生徒に伝えたいのかを常に意識しながら行うことが大切だと感じました。

#### ○これから実習に行くみなさんへ

実習までの期間はとても不安で、考えれば考えるだけ自信が無くなっていくと思いますが、不安や緊張をなくすためにこそ、教材研究や準備を怠らないようにしてください。授業の中ではほんの少ししか取り扱わない内容でも、自分の中でそれ以上の知識があるということを授業事態にも心の中でも余裕が生まれてくると思います。そして、一番は実習前、実習中ともに自分のためではなく「生徒のために」という思いを常に持ち続けるようにしてください。笑った顔や、真剣な目で授業を聞いてくれる生徒の表情を思い出しながら、一日一日を全力で取り組んでください。そうすれば充実した自分達の成長に繋がる実習になると思います。頑張ってください。

## 教育実習を終えて

実習校名 宇都宮短期大学附属高等学校  
実習期間 令和元年5月27日～6月14日 3週間  
実習教科 国語

HL2016 - 047 山口 剛正

### ○はじめに

私は、令和元年5月24日から6月14日まで、母校の宇都宮短期大学附属高等学校で3週間、教育実習をさせていただきました。担当教科は国語で、1学年、2学年、3学年の普通科を担当し、学級によって授業時間は異なりましたが、多くの経験をする事ができました。また、HR活動は指導教諭の先生が担当する、1学年の学級でお世話になりました。

### ○授業前計画・取り組み

4月19日に、実習校と事前打合せを行いました。事前打合せでは、教育実習の心得、日程の確認、指導教諭・担当クラスの説明、指導単元の確認、教育実習を行ううえでの注意事項などの説明を受けました。指導教諭の先生との打合せでは、担当する学年・学級、単元の確認を行い、十分な教材研究・準備をしておくように指示を受けました。

### ○実践・授業

実習期間中の空き時間は、授業準備や日誌の記入などを行い、よりよい授業ができるように努めました。

教育実習期間の1週目は、担当するHRの生徒の顔と名前を覚えること、参観授業で様々な先生から学ぶことを目標にして取り組みました。清掃の時間やSHRの前後の時間に、生徒たちと積極的にコミュニケーションをとり、生徒から声をかけられる機会も増え、生徒たちと打ち解け始めていると感じました。また、参観授業では、ipadやパワーポイントを利用した授業もあり、クラスに合わせた様々な授業の仕方があることを学ぶことができました。

2週目は、実習授業が始まり、約40人の生徒を目の前に緊張もあったが、授業を重ねるごとに緊張もなくなり、楽しく授業を行うことができました。また、実習授業の反省・打合せを、指導教諭・補佐の先生方に空き時間を利用し、行なっていただきました。授業準備をして実習授業に臨んだが、不十分などころがあることを実感することができました。

3週目は、実習授業を行いながら、研究授業の準備に力を注ぎました。指導教諭・補佐の先生方と話し合いながら、研究授業の授業展開を考え、お忙しいなか、模擬授業の時間もつくっていただきました。研究授業に向け、短冊や学習プリントの作成を行いました。また、3週日には、学校行事である「スポーツフェスティバル」がありました。授業を担当した生徒や、担当以外の生徒ともスポーツを通し、関わることができ、とても良い経験をするこ

ができました。

#### ○検証・学生の反応

生徒たちと積極的にコミュニケーションをとり、授業以外でも声をかけてくれる生徒が増え、楽しい実習生活を送ることができました。担当 HR の生徒は、はじめ距離を感じる生徒もいましたが、清掃の時間や合唱コンクールの練習の際に声をかけるなど、名前を覚えておくことで、生徒たちも打ち解けてくれると実感しました。そのため、研究授業もテンポよく進めることができたと感じています。

#### ○改善点

授業の時間配分が、適当でなく授業の進みが遅かったり、時間が数分余ってしまったりなど、予定通りに展開することができない授業が、しばしばありました。

また、教材研究が不十分だったと考えられます。板書案をノートに作成するなど授業準備を行い授業に臨んだが、ノート通りに進めようと気にしすぎました。そのため、ノート、教科書、黒板を見る時間が長くなってしまい、肝心の生徒たちへの目配りが少なくなっていました。教材研究を十分に行い、できるだけ生徒への目配りを心がけ、その他への視線は最小限にするように改善します。

#### ○これから実習に行くみなさんへ

教育実習期間中、つらいこともあるかもしれませんが、それよりも楽しいことの方が多いと思います。はじめは緊張したり、不安になったりすることがあるかもしれませんが、しかし、先生方や生徒たちも協力してくれるので、自信をもって教育実習に臨むべきです。そのためにも、教材研究、授業準備をしておくこと、先生方、生徒たちと積極的にコミュニケーションをとり、決められた時間の中で、よりよい経験ができるよう心掛けてほしいです。

## 教育実習を終えて

実習校名：青森市立筒井中学校

実習期間：令和元年 5 月 7 日（火）～ 6 月 3 日（月）

実習科目：社会科

FF2016-027 鈴木 真彩

### ○はじめに

私は、5月7日～6月3日の4週間の間、青森市立筒井中学校で教育実習をさせていただきました。

### ○実習前計画・取り組み

教育実習開始の2週間程前に事前訪問をさせて頂き、打ち合わせを行いました。事前の打ち合わせでは、教育実習の概要の確認と指導教諭との打ち合わせを行いました。実習開始までは、頂いたクラス名簿を元に生徒の顔と名前を覚えることと教材研究と授業準備を行いました。

### ○実践・授業

実習初日は、先生方に挨拶をした後に2年3組のホームルームを参観させて頂き、そこで生徒に自己紹介を行いました。

第1週目は、学校・学級経営、経営組織と服務心得、教育課程・行事・日課表、実践研究計画、生徒指導等の説明を受けました。また、第2学年の社会科の授業参観をさせて頂き、各学級で授業開始時に自己紹介をさせていただきました。

第2週目は、運動会を控えていたこともあり、運動会に向けた練習を参観させていただきました。長時間に渡って生徒の練習の様子を観察出来たことでクラスの雰囲気や特徴、生徒一人ひとりへの理解が深められました。

第3週目は、社会科だけではなく他の教科の授業参観もさせていただきました。授業参観では、グループワークをしている生徒の机間指導もさせていただきました。また、第3週目の終盤から第4週目は、授業研修をさせていただきました。歴史的分野の江戸幕府の成立と鎖国の全4回の授業を行いました。初めての授業研修は、緊張してしまい、声が小さく、指示が生徒全員に伝わらないことやグループワークに積極的に取り組んでももらえなかったりと反省点は多かったです。反省点を改善するためにはどうすべきか、他クラスでの授業を踏まえ考えた結果、まず、授業を行う上で生徒との関係性を構築しておくことが必要不可欠であると改めて実感しました。そこで、朝登校してきた際、休み時間の学年フロア巡回時等に積極的に生徒とコミュニケーションを図るよう心がけました。少しずつ生徒と打ち解けることが出来たことで、授業時に積極的に発表する生徒が増えたことや自分から質問をする生徒がいることなど、生徒の様子に少しずつ変化が感じられました。生徒理解を深め、わずかな変化にも気づき、そのクラスにあった授業

を行えるようにと、生徒主体の授業の実施に努めました。研究授業は、学習指導案作成時から多くの先生方にご指導を頂き、改善を重ね、作り上げました。実際の授業では、伝えたいことが多いこと、計画通り授業が進行しないこともあり、全体の6割程度しか授業を行うことが出来ませんでした。計画通りに授業を行うことにとらわれ過ぎてしまい、時間配分が上手くいかなかったため、そこをもう少し意識し授業展開を行わなければいけないという気づきがありました。

部活動指導においては、毎回というわけにはいきませんでした。なるべく参加させて頂き、より良い演技を行うために生徒と共に悩んだことは、とても良い勉強になりました。

#### ○検証・学生の反応

自分から積極的に生徒とのコミュニケーションを図ることで、生徒の方からも話しかけてくれるようになりました。生徒に興味・関心を持ち関わることで生徒も私に興味を持ってくれ、関係性を構築していくことが出来ました。

#### ○改善点

授業で行ったグループワークでは、全員に積極的に取り組んでもらうことが難しかったです。全員がグループワークに参加することが出来るような環境作り、生徒との関係性の構築、適切な机間指導が必要であったと思います。

#### ○今後、実習へ行く後輩へ

教育実習生は、学校の門をくぐると学生ではなく1人の先生です。責任感を持って、一生懸命取り組んでほしいと思います。教師という職については、授業参観を通して先生方から授業の展開方法等を学ぶ機会はほとんどないと伺い、なるべく授業参観には積極的に参加させて頂いていました。これから教育実習に行く皆さんも是非積極的に授業参観をさせて頂き、多くを学んでほしいです。

## 教育実習を終えて

実習高名：市川市立南行徳中学校

実習期間：令和1年10月21日～11月12日（15日間）

実習教科：社会科

FF2016-039 仁多見郁美

### ○はじめに

私は母校ではない南行徳中学校で15日間実習をさせていただきました。教師という立場で実習ができたことで、様々なことを感じることができました。

### ○実習前計画・取り組み

10月3日の事前打ち合わせでは、初日の集合時間や着任式・離任式の流れ、給食費の打ち合わせを実習生全員で行いました。その後、教科ごとに指導教諭・担当するクラスの先生との打ち合わせを行いました。

私は、指導教諭と担当するクラスの先生が同じでした。教科指導については、全学年の社会科の授業を見学してから授業を作成し、授業前日に模擬授業をして確認を行うという流れでした。クラスについては初日に全校生徒の名簿を渡されるため、特に打ち合わせることはありませんでした。

### ○実践・授業

実習初日は、職員朝会で先生方に挨拶をした後に、学年ごとのに集まり連絡事項の共有を行いました。1時間目は、指導教官と授業をするクラスを決め1週間の授業の流れについて打ち合わせをしました。2時間目は、実習指導教官から校内の説明を受け、全校生徒の名簿を1人1つずつ配布され、生徒の名前と顔の確認を行いました。3時間目は、生徒指導の先生から、実習についての注意点や学校の方針について話していただいた後、校長先生から実習についての心構えについて話していただきました。4時間目からは、実際に授業を見学に行き、どのように授業を展開しているのか、どのように生徒の興味・関心を引き出しているのか、どのようにまとめにはいつているのかを重点的に観させていただき、7日目から授業をやらせていただきました。

実習中の1日の流れとしては、朝7時45分に登校し授業準備を行い8時に先生方に挨拶をし、指導教諭から1日の説明を受けてから教室に向かい、朝のホームルームを行い、1～4時間目まで授業や授業準備を行いました。給食は教室で生徒たちと一緒に食べ、昼休みがあり清掃を行います。昼休みは担当学年の廊下を巡回したり生徒たちとコミュニケーションを取ったりしていました。また、南行徳中学校の清掃は独特で、生徒が主体で黙って行う「黙働清掃」をし、指導・監督として教室や廊下を見ていました。その後、5～6時間目が

あり、放課後は部活動見学や授業準備、模擬授業を行い 19 時頃に退勤する毎日でした。

担当させていただいた授業の単元は、社会科地理の「北アメリカ州」でした。授業見学では主に社会科の授業を観に行き、授業の入り方や黒板の使い方、目標設定の仕方やまとめの仕方など様々なことを学ばせていただきました。授業の雰囲気は先生によって全く異なっていたため、どの授業も大変勉強になりました。実際に教壇に立って授業を行うことは難しく初めは思うように進まなかったが、回数を重ねていく度に授業展開がスムーズにできるようになっていると感じることができました。

#### ○検証・学生の反応

生徒との信頼関係が非常に大切だと感じました。夏休みの課題を学校で行う「学びくらぶ」に夏休みに何度か参加していたため、実習中に生徒の方から声をかけてもらうことが多く、信頼関係を築くことができました。しかし、生徒全員の名前を覚えることが中々できず、授業の休み時間も早めにクラスに行き、生徒とコミュニケーションを取りました。そうすることで、授業の盛り上がりや生徒の関心・意欲をより高めることができました。また、道徳の授業の話し合いの場では多くの意見が飛び交い、非常に良い授業を展開できました。

#### ○改善点

私の改善点は、授業内容の情報不足でした。社会科は答えがなくどこまでも探究することができる教科です。授業で教える内容以上に調べ、授業では調べたうちの 3 割を話すように意識した方が生徒から変化球な質問が来ても迅速に対応する事ができると指導をいただきました。また、時間を意識して授業を展開できたなら良かったと思いました。

#### ○今後、実習に行く後輩たちへ

教育実習は長いようで非常に短いです。終わってみると、もっと実習をしたいと感じます。そう思うには、充実したと思える実習をすることが大切だと思います。実習を充実させる方法は様々で人それぞれであると思うが、私はたくさん挑戦して失敗して乗り越えようと頑張ることだと思いました。今まで実習に行った先輩方も私たちもみんな必ずといっていいほどたくさん失敗しています。授業は、回数を重ねればどんどん良くなっていくので落ち込むことなく次に向けて頑張っていたいただきたいです。また、自分ひとりで悩みを抱えるのではなく、先生方や実習生、友達などに話して 1 日 1 日切り替えていくと良いと思います。

教育実習は辛いことも多いと思いますが、教員を目指している目指していないは関係なく、それ以上に自分にとってとてもいい経験を得ることができると思います。教育実習を素晴らしいものにできるように頑張ってください。

## 教育実習を終えて

実習校名：茂原市立東中学校

実習期間：令和元年 6 月 3 日～6 月 21 日（3 週間）

実習教科：社会科

FF2016-087 中 條 弓

### ○はじめに

私は、母校の茂原市立東中学校で 3 週間の教育実習をさせていただきました。担当教科は 2 年生の社会科で地理、歴史ともに 3 クラスで授業を行いました。担当学級は 2 年 C 組で、明るく活発な生徒が多いのが印象的でいつもクラスの生徒から元気をもらっていました。部活動は陸上部の見学と参加をさせていただきました。

### ○実習計画・取り組み

実習校との打ち合わせを令和元年 5 月 8 日に行いました。打ち合わせでは実習中の留意点、心構え、出退勤の仕方などの他、先生方との顔合わせから、担当学級や担当授業の範囲などの打ち合わせを行いました。実習期間中に宿泊学習や中間テストなどがあるため、教材研究の時間を多くとり、授業準備を進めました。

### ○実践・授業

初日は、職員の方々への挨拶と担当クラスでの自己紹介を行いました。担当クラスに入った瞬間に生徒が喜んで迎えてくれた光景が印象的でした。2 年生は 1 週目に宿泊学習を控えていたため、学年全体での集会やレクリエーションの機会に関わることができ、すぐなじめたように感じました。

1 週目は教科や学年問わず、授業見学に積極的に参加し、今の中学生への授業方法や各クラスの特徴を観察しました。担当クラスでは積極的に話しかけ、クラス全体の特徴と、1 人 1 人の生徒の名前を覚えるよう、コミュニケーションを取っていきました。また、先生方から服務や学校経営、部活動などについての講義も受け、学校についての理解が深まりました。

2 週目はクラス全員に話しかけることを目標に毎日、休み時間や、給食、掃除の時間も生徒との関わりを積極的に行いました。朝・帰りの会や健康観察など、担任の先生としての役割もやっていきました。さらに、実際に地理の授業を行い、生徒主体の授業を実践していきました。授業では、毎回反省する点があり、その都度、フィードバックを基に改善しました。クラスによって雰囲気は全く異なるため授業の進め方もクラスに合わせて臨機応変に対応していく大変さや、教材研究・準備がどれほど大変か、身をもって実感しました。

3 週目は学年全体の生徒から話しかけてくれることが増え、生徒と話すことが楽しみの 1 つになっていました。授業は歴史の範囲になり、モニターを使うことも増えていきました。

最終日の研究授業では、導入に実物を使用し興味を引き出し、展開では作成したワークシートで生徒全員が自由な発想を表現できる工夫をすることにより、全員参加の授業を目指しました。多くの先生方が見に来てくださる中、あまり緊張せずにはできたのは、目の前の生徒に集中し、一方的に教えるのではなく、生徒と一緒に授業を楽しみながら臨めたからだと思っています。研究授業を大成功に収められたのは、担当の先生、クラスの生徒の力があつたからだと感じているため、周りの環境に感謝しています。

#### ○検証・学生の反応

授業では、積極的に授業に参加する生徒が多くスムーズに進めることができました。リアクションやレスポンスも多く、生徒に助けられているなど感じました。生徒主体の授業にするために、知識を問うのではなく、誰もが考えられる、身近な話題を導入や発問に取り入れることで授業に参加し、興味を持ってくれる姿が一目瞭然でした。3週目になるとクラスや男女問わず話しかけてくれることも増え、クラスにいても自然な存在になれていることの嬉しさを感じました。

#### ○改善点

地理の授業では資料を読み取らせる個人作業が多くなってしまったため、モニターに写したり、生徒に板書してもらうようにしたりなど改善し、生徒が授業に参加するということを意識しました。どの資料を見るのかといった指示が全体に通らないこともあり、その都度板書に提示するなど指示を明確にするよう気を付けました。歴史の授業では、事実を伝えるのではなく生徒に、どうなったのか、自分だったらどうするかを考える発問をするようにしました。話す内容も端的にし、説明する時間が多くならないようにしました。またノートを取るなどの生徒を待つ時間の確保や、作業時間を何分までと提示するように改善しました。

#### ○今後、実習へ行く後輩へのアドバイス

不安や緊張、大変なことや、失敗などを経験できる貴重な機会だと思います。しかし、思い返すと楽しかったという気持ちが大きく、最終日には、かわいい生徒たちとの別れが悲しかったです。その涙を生徒の前で見せることで先生も人間なんだということを生徒に伝えることができるそうです。ぜひ、生徒の前で泣いてください。そして毎日たくさん笑って、生徒との思い出を笑顔でいっぱいにすることができれば実習は大成功だと思います。

そのためには、しっかり準備をして臨むことと社会的な一般常識が必要です。先生方や生徒、同じ実習生といった、周りの環境を大切にして実習頑張ってください。応援しています。

## 教育実習を終えて

実習校名：北海道帯広市立帯広第八中学校

実習期間：令和元年 8 月 21 日～9 月 10 日 3 週間

実習科目：保健体育

AG2019-001 工藤 竜平

### ○はじめに

私は 8 月 21 日から 3 週間母校である帯広市立帯広第八中学校で実習をさせていただきました。当時の先生方はほとんどいらっしゃらなかったのですが、サッカー経験している先生方が多く、サッカーの話から様々なアドバイスをいただく事ができました。教育実習を帯広第八中学校で行うことができ本当に良かったと思います。

### ○実習前計画・取り組み

私は科目等履修生ということもあり今年お願いをし、教育実習を受け入れていただきました。本来なら去年のうちに内諾を取らなければいけないところですが、急なお願いにも卒業生ならと受け入れていただきました。忙しい中急なお願いを受け入れていただいているので、覚悟をもってしっかりと準備をして教育実習に臨もうと心掛けました。実習の前に事前指導が行われました。その際に教科の説明や範囲などの確認をしました。本来なら教育実習生は 1, 2 年生を受け持つのですが、ベテランの先生がいなくてということで 3 年生を受け持たせてもらうことになりました。実習期間の 3 年生の授業はテストが多く実習中の授業は期末テストの範囲に被ると言っていたので実習までの間教材研究をしっかりと行いました。保健の単元は 3 年生の喫煙と健康、体育は 1 年生女子のハンドボールと 3 年生男子のバレーボールを授業させていただくことになりました。

### ○実践・授業

実習初日は、職員室で先生方に挨拶をした後に、担当のクラスで挨拶、そして 1 時間目が全校集会だったので全校生徒の前で挨拶をさせていただきました。2 時間目は校長先生からの教育実習での注意事項の確認と学校方針のお話をさせていただきました。3 時間目からは教科担当の先生の授業見学をさせていただきました。どのように授業を展開しているのか、どのように生徒の関心・興味を引き出しているのか、どのようにまとめているのかを観察しながら授業を見学させていただきました。

そして次の週から実際に授業をさせていただきました。実習中の 1 日の流れは朝 8 時に登校し、職員室で先生方に挨拶をした後、待機教室で授業の準備をし、8 時 15 分から職員室で 1 日の打ち合わせをしました。打ち合わせが終われば、担当のクラスに行き朝のショートホームルームをおこないました。それから 1～6 限まで授業を行い、帰りのホームルームと教室を清掃し、課外活動にでて帰宅し後自宅で教材研究という毎日でした。

私はこの教育実習を終えて多くの事を学ぶことができました。その中でも特に感じたことが「人の前に立って話すことの難しさ」と、「生徒の立場になって授業をする難しさ」です。教育実習中誰かの前に立って話す機会が多くあり、そのたびに苦手だと感じました。朝のホームルームと帰りのホームルームで生徒に対して話をする機会をいただきました。話す内容は何でもいいのですが、緊張して早口になったしまったり、何を話しているか伝わらないことがありました。ですが学級担当の先生のアドバイスや他の先生の話し方を真似することで自信をもって、落ち着いて、ゆっくり話すことが大切だと学びました。このような機会を私のために作ってくださった先生に本当に感謝しています。

体育の指導案を作って実際に授業をしたのですが、できない生徒や授業に参加しない生徒がいました。指導案を作る際に私が当時中学生だった時何ができて何ができなかったのか、学年や性別などを考えながら生徒主体になって授業作らなければ生徒は理解できないことを学びました。自分の感覚で授業を考えるのではなく生徒はできないと思い「生徒の立場になって授業をする」ことが大切なのだと分かりました。

この教育実習でしか学ぶ事のできないことが多くあり充実した教育実習でした。

#### ○検証・生徒の反応

生徒との信頼関係がとても大切だと感じました。初めは話かけても全く会話が進まず生徒からも声をかけてもらうことはありませんでした。ですが話をする時に生徒の名前を呼んでから話することで会話が続き生徒の方からも話しかけてくれるようになりました。そこから積極的に話しかけることで自分がどんな人間か、どんな生徒なのか理解していく過程で信頼関係ができてきたと思います。また、授業の時に明るく、面白い授業にしようと思えることが大切だと感じました。そのおかげで研究授業の時にはクラス全体が積極的に授業に参加し、助けようとする姿勢が感じられました。至らないところもありましたが生徒たちに助けられ、研究授業を終えることができました。

#### ○改善点

私の改善点は体育の時に話だけで説明しても伝わりづらい事がありました。その時に生徒に協力してもらって、実際に何をするか行うことでより生徒に伝わると分かりました。話は短く分かりやすくすることで、生徒も意欲的に取り組んでいたと思います。

#### ○今後、実習へ行く後輩へのアドバイス

謙虚な気持ちを大切に、生徒のとても大切な時間をいただいていることと、忙しい中ご指導していただき先生方に感謝の気持ちを常にもつことがとても大切だと思います。教育実習には数多くの貴重な体験があるので一つでも多く吸収できるように教育実習に取り組んでほしいと思います。

## 幼稚園実習報告書

AF2019-001 大野貴寛

実習先：暁幼稚園

### 1. 実習で取り組んだ内容

私は暁幼稚園で3歳児のクラスに5日間、4歳児のクラスに4日間、5歳児のクラスに11日間の計20日間実習させて頂いた。3歳児のクラスでは、子ども達が幼稚園に少しずつ慣れ始めてきている様子で、朝の支度の流れを一緒に傍に付いて援助を行い、シール帳を出す所からその日の日付にシールを貼れているかなど確認など行った。3歳児のクラスではトイレトレーニングもあり子ども達に声を掛けて、子ども達のトイレができるよう声掛けをして援助に取り組んだ。4歳児、5歳児のクラスでは、幼稚園での生活習慣の流れが出来ているか確認し、子ども達同士の関わり方、遊び方など子ども達と一緒に遊び、子ども達と積極的に関わる事に取り組んだ。そして、年長組さんでは責任実習を行わせて頂き、活動では、折り紙で動物の折り紙を折り、その後に「猛獣狩りに行こうよ！」の室内遊びを行った。また、帰りの会が終わった後、バス待ちの時間に毎日15分間実習生が、紙芝居や読み聞かせなど考えてきた遊びや活動をする時間があり、色々な遊びを準備する事に取り組み、子ども達にどのように声掛けをしたら伝わりやすいか、子ども達同士楽しめるような声掛けなど工夫して活動を進める事に取り組んだ。そして、二週間に一回、幼稚園の畑に行きサツマイモの水やりをするという体験保育に参加させて頂いた。

### 2. 実習の目標と達成状況

私は実習での目標を2つ立てた。1つ目の目標は子ども達の健康や安全についてどのような配慮がされているか学ぶ事である。達成状況については、熱中症対策で水分補給を細目に摂るよう声掛けをする保育者の配慮を見て学ぶ事が出来た。子ども達が健康に給食を食べる前に手洗いうがいを行った後、子ども達の手には保育者が毎回アルコール消毒をして衛生面に気を配っている姿を見る事が出来た。そこから私は、安全に子ども達が給食を食べられるようにする為の衛生面への配慮が大切だという事を見て学ぶ事が出来た。その後、実際に私は、外遊びで体を動かしている子ども達などに水分補給の声掛けを行う事が出来た。

2つ目の目標は、保育者同士の連携を学ぶ事である。達成状況については、保育者同士の連携には声を掛け合う事の大切さを学ぶ事が出来た。そして、朝の全体朝礼の際に今日の行事や流れなどの情報を共有し合って報告する姿を見る事が出来た。また、全体朝礼が終わった後、年少、年中、年長と各学年の担任の保育者同士で集まり更に具体的に流れを話し合う姿を見る事が出来た。それから、保育者同士で声を掛け合う事で各クラスがトイレに行く際などに子ども達がトイレに一気に押し寄せて怪我をしないよう保育者同士で声を掛け合って連携する姿を見る事が出来た。また、保育室にある電話を使うことで必要な情報を伝えて保育者同士で共有する姿を見る事が出来た。

### 3. 実習で学んだこと・反省点・今後の課題

1つ目に私が実習で学んだ事は、事前準備を行う大切さである。責任実習での室内遊びの活動をした際の導入で、子ども達に説明が伝わりにくい声掛けをしてしまい、子ども達が途中で間違ったやり方をしてしまう子が出てきてしまった。また、主活動では、勝ったチームを盛り上げる際、私の声のトーンが小さくなってしまい盛り上がりには欠けてしまった。保育者の方に後から、活動に入る前の導入では、事前に声掛けや、どのように伝えたら子ども達に伝わりやすいか考えて準備する事が大切だとアドバイスを頂いた。そして、主活動では、勝ったチームを盛り上げる際に声のトーンを上げて盛り上げると良かったとアドバイスを頂き、また、どういう声掛けをしたら子ども達が盛り上がるかなど事前に考えると良いとアドバイスを頂いた。それを踏まえて私は、改めて事前準備をしっかりと行う事の大切さを学ぶ事が出来た。

2つ目は、子ども達を見守る大切さである。子ども達同士のちょっとしたトラブルの中で、私はすぐに声を掛けてしまい手助けをしてしまう事が多かった。その為、保育者の方に、子ども達同士で関わる中で、子ども達だけで解決できることもあるので実習生がすぐに手助けせず見守る事も大切だとアドバイスを頂いた。私は、子ども達のなんでも手助けしてしまうのではなく、子ども達の様子を近くで見守りどのようにして解決していくのかを見届ける事も必要だと感じた。勿論、危険だと感じたらすぐに声掛けをする事も必要な為、子ども達同士のやり取りを逃さずに見守ることがとても重要になってくると思った。それを踏まえて、私は子ども達を広い視野で見守る事の大切さを学ぶ事が出来た。

私が今回実習を行った中で、反省点は3つある。1つ目の反省点は、私は手遊びや室内遊びを知っている数が少なかったところである。給食の前の時間や帰りの会が終わり、子ども達がバスを待っている時間に、手遊びや簡単な室内遊びを行う時間を私に任された際、同じ手遊びをしてしまう事があった。2つ目の反省点は、朝の会や帰りの会で弾くピアノが上手く弾くことが出来ず、躓いてしまったところである。子ども達の様子を見つつ、歌詞を歌いながら弾くのを途中で何度も止まってしまい子ども達が戸惑ってしまう事があった。3つ目の反省点は、実習日誌を記入する際、書くことをまとめきれずたくさん書いてしまい雑な字になってしまったところである。私が書きたい事を書きすぎてしまう事や、雑な字で書いてしまった為、保育者の方に見て頂いた際、分かりづらい日誌になってしまった。

今後の課題は、事前に準備をしっかりと行い、手遊びや簡単な室内遊びなど、その場その場で臨機応変に対応出来るように、常日頃から、本などで調べて、レパートリーを増やす事である。また、朝の会や帰りの会で弾くピアノは出来るように、毎日練習して歌いながら弾いていきたい。さらに、実習日誌は保育者の方に見てもらうので、気になった部分は具体的に書き、字は急いでいても綺麗に書けるよう意識して書いていきたい。また、実習日誌を書いている際、もし気になる事があった際は、後日空いている時間を見て、保育者の方に積極的に質問をしていきたい。

## 1. 実習で取り組んだ実習内容

3、4歳児では1日観察実習を行い、5歳児では観察実習、部分実習、半日実習、一日実習、精練実習を行った。8時半から14時まで主に子どもたちの様子を見守り、年齢や発達に応じて食事や排泄、着替えなどの援助を行った。部分実習では給食の時に配膳を行い、子どもたちの様子を見守りながら声掛けなどを行った。また、降園時には読み聞かせや手遊び、ピアノを弾きながら歌を歌った。半日実習では登園から給食前まで、給食から降園時まで子どもたちの様子を見ながら声掛けをし、安全を見守った。一日実習では登園から降園まで一日担任となり子どもたちに次何をするのかを伝え、子どもたちが活動しやすいように環境構成を整えた。精練実習では手活動のダンボールリレーを行いながら、一日担任として実習を行った。

## 2. 実習の目標と達成状況

実習の目標は2つあり、1つ目は子どもたち全体に対する声の掛け方を学ぶことである。この目標では、声掛けをする際に手遊びをすることで、子どもたちを早く集めることができるということを学べた。話す時になかなか集まらなかったため、話を始めることができなかった。「みんな待っているよ」と問いかけても急ぐ子もいれば、マイペースの子もいる。全員の準備が終わるまで待っていると、早く準備ができている子を待たせてしまっていることになる。手遊びをすることを実践したら早く集めることができ、待たせてしまうこともなくなった。また、子どもたちに話す際、一方的に話すのではなく、子どもたちに問いかけながら話を進めることで興味を引くことができ、話が進められるということも学べた。

目標の2つ目は子どもたち同士の喧嘩や言い合いなどの対応の仕方を学ぶことである。この目標では、子ども一人一人には個人差があるので一人一人に合わせた適切な声の掛け方が大切だということを学んだ。私は子どもが喧嘩していたところを保育者が止めているところを実際に見て、どういう風に声を掛けているのかを見た。喧嘩の間に入る際、どのように声掛けをすればいいのかを聞き、アドバイスを受けた。そして、そのアドバイスを参考にしながら声を掛けたら喧嘩の解決ができた。実際に間に入り、話を聞く時に両方の話をしっかりと聞き、子どもの気持ちに寄り添いながら話を進めていくことが必要だと感じた。子どもと話す時には「どうしたの?」「何かされたの?」「叩かれたの?」「嫌なこと言われたの?」など聞くことも必要であるが、子どもの気持ちを聞き出すために待つことも必要だと感じた。一方的に責めるのではなく、なぜそのようなことをしてしまったのか問いかけ、気持ちに寄り添うことで話をしてくれることがわかった。

今までの実習では、子ども同士の言い合いや喧嘩などがあっても解決できなかったため、避けてしまっていた。しかし今回の実習を通して子どもたちにどのように声を掛けていけばいいのか分かってきたので、進んで子どもたちの間に入り、解決ができるように

なった。子どもによって感じ方や受け取り方が違うので、適切な声の掛け方を探していくことが必要だとわかった。また、子どもがどのような子なのかを理解した上で、声の掛け方を変えていかなければならないということを学ぶことができた。

### 3. 実習で学んだこと、反省点、今後の課題

私が幼稚園実習で学んだことは、今何をしなくてはいけないのかを子ども自身に気づかせていくように援助していくことである。子どもたちに「〇〇忘れてるよ?」、「〇〇の時間だよ!」など言うことや手助けをすることは簡単であるが、子どもの成長のためには自分で自分のことをする、自分で気づくということが必要である。そのためには「〇〇忘れてるよ?」ではなく、「何か忘れていない?」と問いかけたり、「〇〇の時間だよ!」ではなく、「今何する時間だっけ?」など問いかけたりして、子どもたちに気づかせていくように声掛けをしていくことで、子どもの成長の援助ができるということが学べた。また、手助けをするのではなく、子どもたちの様子を見守ったり、励ましたり、認める言葉掛けをして周囲の様子に気づかせるようにしていくことは保育者として必要だということを学べた。

そのほかに、子どもを預かる立場として、安全面の配慮、見守りなどが大切だということも学んだ。安全面に関しては子どもたちの様子を見守りながら危険なことがあれば注意をしていくことが必要である。常にどんなことが起こるのかを予測したうえで、危険が起こる前に対応できることがあれば危険なことが起きないように工夫していくことが大切だと学んだ。また、子どもはいつ何をするかわからないので、1人の子どもだけではなく周囲の様子を確認したうえで、保育者同士、注意を払って確認し合うことの大切さを感じることもできた。

反省点としては主活動を通して1人の子に寄り添ってしまって、他の子たちを見ることができなかった。危険なものを使う時などはしっかり全体に目を向けて全体を見渡せる位置につかなければいけなかった。危険なこと、してはいけないことの説明を子どもたちにわかるように説明をしなければならなかった。

今後の課題として、子どもたちに話をするときには、危険なこと、してはいけないことを伝えるだけではなく、子どもたちに問いかけながら危険なことの確認を十分に行ったうえで、活動をしていきたい。そして全員を見渡せる位置につき、危険なことが起こらないように見守っていく必要がある。もし危険なことが起きそうであったら、すぐに駆け寄り、「これは危険なことだよ」としっかり注意をする。また、注意をする際には顔の表情に変化を付けたり、声のトーンに変化を付けたりすることで、子どもの気を引き、これは危険だということがわかるように説明していこうと思っている。

私は子どもと関わるときに手遊びやわらべ歌などをしていきたいと思っているので、すぐにできる簡単な手遊びやわらべ歌などを、本などを参考にしながら学んでいき、自分のレパートリーを増やしていきたい。また、手遊び以外にも、どのようにすれば子どもたちの気を引けるのかなどを学び、身につけていきたい。そのために、保育者の行動をみたり、本などを参考にしたりして、子どもが興味を持ちそうなことを見つけていきたい。

## 幼稚園実習報告書

FF2016-011 江尻佳苗

実習先：太陽幼稚園

### 1. 取り組んだ内容

今回の実習では、4週間同じ5歳児クラス（太陽組）で教育実習をし、観察実習・参加実習・責任実習を行った。具体的な内容として、観察実習では園生活の一日の流れを把握し、保育者の声かけの様子や子ども一人ひとりの様子を観察した。

参加実習では、実際に子どもたちと触れ合い、遊びを通して子ども一人ひとりの性格や特徴への理解に努めた。また、観察実習で学んだ子どもたちへの声かけを実践した。

責任実習では、園での1年間のテーマ（水と雨）に沿った指導案を作成し、その指導案を元に1日担任の代わりとなった。朝の会や帰りの会ではピアノを演奏し、主活動の導入として絵本の読み聞かせを行った。主活動では、園でのテーマ（雨）や季節に合わせ、雨に興味を持てるよう、てるてる坊主の作成を行った。友だちの作品に触れ、イメージを共有することを狙いとしていたため、1番初めに完成した子の作品をみんなの前で紹介したり、他の子の作品に触れられるよう作品を展示した。また、ハサミを使う作業工程があったため、ハサミの使い方が苦手な子には特に注意を払いながら個々に合った声掛けを意識し、取り組んだ。

子どもたちと触れ合う時間以外は、子どもたちが安心して園に登園し、清潔な空間で園生活を送るためにも、園内の掃除に取り組んだ。また、子どもたちが主活動で使う教材をあらかじめ作成し、いつでも使えるよう事前準備に取り組んだ。

### 2. 実習の目標と達成状況

私は今回の教育実習の目標として、(1)教育課程で学んできた事柄を実際の教育・保育の場でどう現場の保育者が実践をしているのかを学ぶ、(2)子どもにとっての遊びの価値・意味を学ぶ、(3)子どもが自発的に楽しい遊びを見つけられるような環境構成や教材の工夫を学ぶ、の3つを設定し、実習に臨んだ。

一つ目の達成状況として、まず、この目標を達成するために、観察実習・参加実習を通して幼稚園で行われている幼児教育について理解することに努めた。様子を見てみると、保育者は小学校を見据えた様々な教育を日々行っていることを学べた。朝の会では日直が今日の予定や自己紹介などをみんなの前に立ち、伝えることで、小学生になり人前に立った時に意見を言えるように取り組み、また、七夕の短冊にお願い事を書くことで、文字に触れ、興味を持ち、書く力を身につけるよう促していた。この幼稚園は、自然豊かな環境の中に位置するため、その環境を生かし、捕まえた生き物(カタツムリ)を教室内で飼うことで、季節の生き物に触れ、命を大切に、飼育することで相手を思いやる気持ちを養うよう促していた。そして、生き物の名前を子どもたちで話し合っ決めて決める場を提供し、グループ討論をすることで、自分の気持ちを伝えること、相手の意見を聞くこと、友だちの意見を聞き、それにつ

いて考えること等、沢山の学びを得て人と関わる時のマナーやルールを身につけるよう促していた。就学前までに様々なことを身につけられるよう、日々繰り返し行っていくことが重要であると学んだ。

二つ目の達成状況として、日々の子どもたちの様子を見てみると、子どもにとっての遊びとは「学び」だと自分なりに解釈をした。遊びを通して子どもたちはイメージをし、表現する力を学び、物の貸し借りをすることで相手を思いやる気持ちを学ぶ。また、ルール遊びをすることでルールを守ることの大切さを学び、友だちと一緒に何かを作ることで協力をする力を学ぶ。そして、折り紙で友だち同士教え合いながら折ることで人に伝える力を学び、かけっこなどで順位を決めることで競争心が芽生え、更に上を行こうと自分を高めようとする力を学んでいた。このことから子どもにとっての遊びは「学び」だと感じた。

三つ目の達成状況として、自由遊びの様子を見てみると、保育者はコーナー保育を行うことで、子どもたちが好きな遊びをできるよう展開をしていることを学んだ。コーナー保育のメリットとしては、子どもたちは各々自分がしたい遊びができるため、強制的にやらされるよりも自分の力を最大限に発揮でき、自由に表現できることである。また、コーナー保育は違う遊びをする友だちに触れることができるので、友だちが違う遊びをしている様子を見て、自分もあの遊びをしたいと自発的に遊びに取り組める。そのため、子どもが自発的に楽しい遊びを見つけられるような環境構成の一つとして、コーナー保育があるということも学んだ。教材への工夫では、コーナー保育をするために様々な種類のものを用意し、各々が自由に遊べるよう工夫していることを学んだ。また、何人の子どもたちでも遊べるよう、多めに教材を用意して工夫していることも学んだ。

### 3. 実習で学んだこと・反省点・今後の課題

この4週間の実習を通して、保育者は前に立って指導する立場であるからこそ、間違えて何かをした際、自身が不安に思い、声掛けが小さくなりがちであるが、子どもたちにも不安な気持ちが通じてしまうので、間違えた時こそ、その後の声掛けの際に声を大きく出して、不安を感じさせないようにすることが大切であると学んだ。

反省点としては、特に責任実習では、自分のことで頭がいっぱいになり、子どもたちが製作をしている様子を見られず、作品に対する声掛けが十分にできなかったことや、クラス担任の保育者に気を使ってしまい、個々への声掛けはできていたものの、全体への声掛けが不十分であったことが挙げられる。

今後の課題としては、反省点を踏まえ、指導案を作成する際は、普段の様子から子どもの姿を細かく推測した上で活動を計画し、実際に子どもがいることを想定しながらシミュレーションを行ない、事前準備を徹底することである。そうすることで、気持ちに余裕が持て、全体に目を配ることができ、視野を広げることが出来るようになる。個々へ気を配ることはもちろん大事だが、多くの人数の子どもを見守る立場である保育者にとって、全体として捉える力はとても大切である。

## 1. 取り組んだ内容

今回の実習では、3歳児クラス（はな組）で4週間実習を行った。その中で部分実習や責任実習を行った。

具体的な内容としては、クラスでの1日の流れに沿って、子どもたちと一緒に外・室内遊び、体育遊び、英語遊び、楽器遊びを行った。月齢や発達の違い、障がいの有無を理解・把握し、一人ひとりに合った食事や排泄、着替えなどの援助をした。また、製作活動の際には見回りながら、困っている子どもに声掛けをし、一緒に糊付けをしたり、はさみで紙を切ったりするなどの援助を行った。部分実習としては、絵本の読み聞かせや手遊び、朝の会・帰りの会・給食前・歯磨きの際のピアノの伴奏などを行った。責任実習では、朝・帰りの会の進行などを行った。主活動としては、子どもたちと一緒に月刊絵本を読んだ。ペーパーサートを使いながら歌を歌ったり、シールを貼ったりしながら、季節や行事、交通ルールなどを子どもたちに伝えた。子どもたちが園生活を楽しく送れるように、遊具の点検や整備、園舎や園庭などの清掃、誕生日会などの行事の事前準備なども行った。

## 2. 実習の目標と達成状況

今回の実習では、子どもたちが安全に楽しみながら活動できるように、保育者はどのような工夫をしているのか学びながら、保育者がどのような事前準備や教材研究をしているのか理解するということと、保育者がどのようなことを考え、声掛けや対応を行っているのか学ぶということの二つを実習の目標とした。

1つ目の達成状況としては、保育者一人で全体に目を配ることは難しく、目が行き届かないことがあるので、複数の保育者と一緒に子どもたちに目を配り、保育者同士がお互いに声を掛けながら、未然に危険が起こらないように配慮しているということを学んだ。また、製作活動の際などでは、保育者は、前もって折り紙を切っておいたり、一度事前に作ってみて、どの順番で行っていけば子どもたちが作りやすいか、どのくらいの時間がかかるのか、どのようにすれば安全にはさみなどを使用することができるのか考えたりと、事前準備を行っているということを保育者に質問をしたりして学ぶことができた。月刊絵本の活動の前にも、実際に読み込み、子どもたちにどのように伝えるか、どのようなことを知ってほしいかなどを考えていることを学んだ。実際に責任実習で月刊絵本を行う際には、学んだことを生かし、事前に読み込み、何を子どもたちに伝えたいか考えたり、子どもたちと一緒にどのように読み進めていくか考えたりした。

前回の実習よりも子どもたちの安全に配慮し、全体に目を配りながら保育することができていたと思うが、責任実習の際に、活動を進めることを考え過ぎてしまい、子どもたちがページをめくる前に読み始めてしまったりと学んだことを生かすことができなかった。また、子どもが楽しみながら活動できるように、保育者はどのような工夫しているのか、今回

の実習だけでは学び切ることができなかつたり、教材研究をどのようにしているのか学ぶことができなかったりした。

2つ目の達成状況としては、実際にどのように子どもたちに声掛けや援助を行っているのか、保育者に質問したり、観察したりして学んだ。保育者は、普段の生活の中で、手洗いやうがいの大切さや、お休みの友だちがいないことがどれほど幸せなことか伝えたりしていた。誕生日会などでは、「拍手しようね」などと声掛けをしたり、「おめでとう」と言い、お祝いをするということなどを伝えていたりした。実際に子どもたちと関わる際には、学んだことを生かし、子どもの発達状況を把握し、どこまで援助したらいいか考え、一人ひとりに合った援助を行うように心掛けた。また、基本的に全体に向けて声掛けをし、様子を見ながら個々に合った援助をしていくということを教えて頂いたので、声掛けをする際には、ただ「着替えようね」と声掛けをするのではなく、「ズボン履こうね」など、一つ一つ丁寧に声掛けをすることを意識した。

### 3. 実習で学んだこと・反省点・今後の課題

今回は約一か月間の実習だったが、その約一か月という短い間の中で、ボタンを一人で留めることができなかった子どもが一人で留められるようになったり、「できない」と言って泣いていた子どもが、泣かずに「先生やって」と伝えられるようになったりするなど、日々少しずつ成長していることを感じた。その成長に合わせて、保育者は援助していくことが大切であるということ学んだ。また、子どもたちの発達には個人差がある。一人ひとりの入園時期や発達を把握し、その子どもに合った援助していくことが大切だと学んだ。そして、その子どもに合った声掛けや援助の仕方はどのようなものか、常に試行錯誤を繰り返しながら行っていくことを学んだ。

反省点として、子ども一人ひとりの発達状況をしっかり把握できていなかったため、その子どもに合わない援助や過剰な援助をしてしまうことがあったり、日誌に子どもたちの良いところではなく出来ていないことを多く書いてしまったりした。

今後の課題としては、子どもたちと関わる前に月齢や障がいの有無、発達などを把握・理解し、一人ひとりに合った関わり・援助ができ、そして子どもの成長を感じることができるようにならなければならないと考える。どのような声掛けや援助が合っているのか試行錯誤しながら保育するためには、子ども一人ひとりをよく観察し、深く関わることで見えてくると思うので、今後保育の現場で実践していきたいと考えている。また、求められている保育は何か考えたり、保育者としてのスキルを向上させるなど、子どもたちと一緒に自分自身も成長していかなければと思った。

今回は今までの実習に比べ、全体に目を配りながら、保育することができてはいたが、まだ保育の現場で働いている方に比べて、目を配ることができていないなど、至らないことがたくさんあると実習を通して感じた。将来保育者として、実際に働く際、子どもが安全に楽しく過ごすことができるように今後、ボランティアなどで子どもと関わりながら、経験を積み、全体に目を配り、より良い保育ができるようにならなければならないと考えている。

## 1. 実習で取り組んだ内容

今回、私は4週間の実習を行った。主に担当する5歳児の年長(ゆき組)のクラスになった。はじめの1週間は3歳児(もも組)、4歳児(つき組)、5歳児(ゆき組)クラスそれぞれに入らせてもらい、観察実習を行った。それから、手遊びや絵本の読み聞かせをする時間、給食を配膳し、片づけを終えるまでの時間等、様々な時間で部分実習を行った。そして、幼稚園での生活の流れを理解し、徐々に慣れてきた14日目、午前中の登園時から給食前までの実習をし、翌日に1日実習を行った。16日目は親子お楽しみ会があり、親子のふれあいや職員との関わりを観察した。週が明け、4週目に入った17日目、給食時～降園時までの半日実習を行い、その翌日に精練実習を行った。

まず部分実習での手遊びは「はじまるよ」や「いっぽんゆびのはくしゅ」を実践したが、子どもたちは真似をして楽しそうに手遊びをする姿を見ることが出来た。絵本の読み聞かせでは、「ぐるんぱのようちえん」や「かえるのかさやさん」など、季節の絵本や発達状況に合った絵本を選択し、読み聞かせを行った。1日実習では、「新聞紙リレー」と「じゃんけん列車」を計画した。使用する道具と音源の確認や、子供たちが遊ぶ様子を想像しながら、年齢に合わせて工夫した。

最後の精練実習では、「魚釣りゲーム」を行い、魚の制作から始め、作り終わったらチームを組んで魚釣りゲームをするまでの指導案を立て、実践した。

## 2. 実習の目標と達成状況

今回の実習では、(1)幼稚園と保育園の違いを理解すること、(2)子どもたちへの声掛けや注意を引く話し方などの実技を習得すること、(3)園児同士のトラブルへの対応の方法を学ぶこと、(4)保護者支援においてどのような支援を行っているのかを知ること、という目標を立てた。

まず、1つ目の目標達成状況については学んだことが2つあった。まず保育園はあそびと主活動をはじめ、保育者に見守られながら午睡をしたりおやつを食べたりすることで愛着関係を大切に、子どもの生活の基盤を育てたり、食べる大切さを教えたりする場所であった。それに対し、幼稚園ではあそび以外にも夏場にはプール活動をするための掃除や、花壇の花の苗を植え替える活動を行っていた。このことから、友達と協力して目的に向かって力を合わせることで達成感を得たり、自信を高めたりする場が多く、協調性を養う場所であることが分かった。また、幼稚園は行事が多く、教育面で充実していると感じた。言葉や歌など勉強の面はもちろん、集団行動の大切さや規律を教えてくれるのが幼稚園であると理解した。

2つ目の目標達成状況については、保育者が前に立ち話をする際、騒がしくなっている子

どもたちの注目を向けるようにするためには、話す声のトーンを工夫することが効果的であることが分かった。具体的には、大きな声で引き付けたり、逆に小さい声で集中させたりと、オーバーリアクションで話すことが子どもたちの注目を向けやすい方法であると理解できた。

3つ目の目標達成状況については、トラブルがあった際、ケガをするような恐れがない限りはしばらく見守り、自分たちで解決できそうにないというタイミングを捉えて声を掛けることが重要であると分かった。そして、一方的に善し悪しをつけるのではなく、双方の話をしっかり聞き、自分はどうだったのかを考えさせ、お互いが納得できるよう声掛けをすることが大切だと分かった。

最後に4つ目の目標達成状況としては、具体的な保護者支援について理解を深めることができなかった。しかし、実習園では親参加型の行事も多く、保育者と保護者のコミュニケーションを取れる場があり、保護者支援の面は充実していると考えられた。

### 3. 実習で学んだこと、反省点、今後の課題

今回の幼稚園実習を経て学んだことは、子どもたちが色々なことを学ぶ場として最も大切なのが“遊び”だということだ。5歳児のクラスを担当し、外で遊ぶ際に「バナナ鬼」をすることがあり、子どもたちで鬼を決めたり、ルールを守って遊んだりする姿が見られた。ゲームや鬼ごっこなどのルールのある遊びを経験することで、人との関わりや、マナー等を知ることができ、応用していけると学んだ。子どもたちにとっての遊びは、生きていくうえで大切な基礎になる部分がたくさん隠されていて、幼児期に関わった保育者の言葉かけや遊び方が影響してくると考えるとこの仕事の重要さが感じられ、保育者が自ら遊びを楽しむ子どもたちと接する事が大切だと感じた。

次に反省点としては、部分実習や半日実習、精練実習などに取り組み、声掛けや子どものトラブルへの対応をしたが、思うように出来なかったことが多々あった。1日実習や精練実習で、活動に「新聞紙リレー」や「じゃんけん列車」、「魚釣りゲーム」を取り入れたが、予期せぬトラブルが重なってしまい、1日の活動を遅らせてしまうことにとどまらず、子どもたちが満足する遊びが出来なかった。また、私自身思ったように活動が進まず、焦ってしまったり、ルールの説明が上手くできなかつたりしたため、その行動が子どもたちを不安にさせてしまい、楽しく活動を終えることが出来なかった。これらの実践の結果から、子どもの活動の予測や環境構成の準備の甘さなど、保育の力不足を実感した。

今後の課題としては、上記の失敗と学びを活かし、活動に対する子どもたちの反応や動きを十分に予測し臨機応変に対応できるようにすることと、言葉と遊びのバリエーションを増やすことである。保育士の立場になり現場に出れば、また新しい環境の中で困難な壁にぶつかることもあると思う。そのためにも、残り少ない学生生活も勉学に励み、子どもたちの年齢や発達段階で動きにどんな特徴が表れるか等の知識と理解を深めていきたい。

## 幼稚園実習報告書

FF2016-026 鈴木卓也

実習先：東庄町立こじゅりんこども園

### 1. 取り組んだ実習内容

今回の実習では、最初の1週間を観察実習、2週間目を参加実習、3週間目と4週間目に指導実習と責任実習を行った。6月の18日～20日と7月の1日、2日に、にじ組に入り、それ以外はそら組（5歳児）で実習を行った。具体的な内容としては、1週間目に子どもたちの名前をいち早く覚え、積極的にかかわりを持ちながら、1日の保育の流れを把握していった。そら組と、にじ組どちらも5歳児のみであったが、園が開園されて間もないこともあり、発達の個人差が大きく、一人ひとりの理解を進めていくことで過剰支援に注意しながら関わっていった。2週間目には朝の会で前に立ち、子どもたちが前に集合し、朝の会を始められるようにするための手遊びや、紙芝居を読むなどの部分実習を行った。保育者の方の姿を見て学び、実践していくことで、責任実習の進め方など考察しながら活動した。気温が高くなってきたこともあり、体調面に気を配る関わりを意識した。3週間目と4週間目には、責任実習と指導実習を行った。保護者を交えた交通安全教室と給食では、ほかの保育者と連携しながら誘導と環境作りを行いながら、保護者対応について学んだ。責任実習では、今の季節の移り変わりに興味を湧くように話をしながら、てるてる坊主の製作を行った。子どもの実態に合った教材を研究し、適切な説明の仕方をほかの保育者の方を参考にしながら進めていった。

### 2. 実習の目標と達成状況

今回の教育実習では、大きく2つの目標を立てて実習に臨んだ。1つ目は保育者の方の動きをよく見て、自分のものにできるよう吸収していくこととした。達成状況としては、保育者の方の動きを真似するだけでなく、自分なりの関わり方に変えた上で、関わる事ができた。朝の会や製作の前など、子どもたちの気持ちが切り替わる関わり方で、手遊びや言葉掛けをして注目を集めることだけでなく、静かになるまで気づきを待つことなど、場面により関わり変えていた。室内遊びから片付けの切り替えができなかった子や、列になる時最後尾になりたくて、すぐに整列せずお友達とトラブルになっていた子が、その時の気分や6歳になったことなどきっかけで行動出来ていた時に、皆の前で評価をすることで習慣化を促すとともに、周りにも良い影響が及ぶようにしていた。一人ひとりの個性を理解しながら、苦手意識を楽しく克服する、良いところを伸ばしていく関わりがとても大切であるご指導頂いた。それを踏まえ、ザリガニの観察画を書く時間に、絵を書くことは好きだが、活動となると自分の思ったとおりに書けず、苦手意識を持ってしまう子がおり、何から書いて良いのかわからない様子であった。その子に寄り添い、「どこから書いてみようか」「何色をしてるかな？」など言葉掛けをすることで、順番に思うように描き始めていった。1匹かけた喜びを一緒に味わい、沢山褒めると「もう1匹書く」と楽しそうに活動を進めていく姿を見る

ことができた。責任実習では保育者の活動の進め方、気をつけるべき点について見て聞いて学び、よくシュミレーションをした上で活動を進めていくことが出来たと感じた。また、言葉掛けをすべて真似て行うだけでは、上手く伝わらない場面があることを知ることができた。保育者の方と私では、立場や、子どもたちとの信頼関係の築きに大きな違いがあるため、静かになるよう言葉掛けをする場面で、保育者の方が1度言うと静かにするが、自分が同じような言い方をしても、なかなか静かにならず困惑することがあった。保育者の真似をするだけでなく、私と子どもとの関係を考慮した自分なりの関わり方を沢山試していくことが出来た。メリハリのある関わりを意識することで、子どもたちに意図が伝わり、活動を促進していくことが出来た。

2つ目は、子どもたち一人ひとりが特に頑張っている部分などに気づき、様々な活動に対して意欲が湧くよう、多様な褒め方を身につけていくこととした。達成状況としては、関わる中でその子が工夫している、こだわりを持っている部分に気づき言葉掛けを行うことで、子ども一人ひとりの反応から適切な言葉掛けを学ぶことが出来た。ひまわり時計の製作活動を見回っていると、針の色ついで様々な色をつかっていたり、自分なりの模様を付けてみたりと、その子のこだわりが見られる部分があり、「いろんな色があって綺麗だね」「素敵な模様だね」などポイントを押さえた言葉掛けや「先生思いつかなかった。」など驚いてみたりすると、より活動に取り組む姿勢が強まると感じられた。

### 3. 実習で学んだこと・反省点・課題

今回の教育実習で、小学校教育への接続期としての学びの連続性を意識した教育課程について学びを深めることが出来た。まだこども園が出来て間もなく、5歳児のみの2クラスであったが、発達に個人差が大きく見られ、一人ひとりに合わせた関わりをする事で、苦手意識を少しずつ無くしていき、基本的な生活習慣と豊かな人格形成を育てていくことが重要であると学んだ。そのためには、子どもたちの細かな変化や行動の意味を汲み取り、保育者が連携して適切な対応を考えていくことで、園全体で子どもを見守っていくことが必要であると感じた。責任実習の主活動では、子どもたちの実態に合った製作を用意し、説明をする時も、保育者の方を参考に段階的な説明をすることで子どもたちが理解しやすいよう工夫をした。全体を見ながら個々の進行に気を配り、誰一人取りこぼすことなく工程を進められるよう意識して責任実習を終えることが出来た。

反省点としては、てるてる坊主を吊るす紐の準備が甘く、当日先生にアドバイスをもらい、変更したことで準備が遅れてしまったことや、子どもに合わせてもう少し難易度の設定が出来るようにするなど、工夫の余地が残ってしまったことであった。

今後の課題は、発達にあった教材を用意できるよう発達の理解と教材研究を進めていくことである。そのために、より発達モデルの理解と様々な教材に触れ、自分が関わる子ども達に照らし合わせながら教材を用意できるよう知識を付けていきたい。

## 幼稚園実習報告書

FF2016-033 田高田萌

実習先：千葉白菊幼稚園

### 1. 取り組んだ内容

今回の実習では、最初の1週間は年少（わかば組）に1日、年中（くじら組）に2日、年長（ほし組）に2日入り、観察実習を行った。残りの3週間は年中（くじら組）に入り観察実習と部分実習、責任実習を行った。具体的な内容としては、観察実習では、幼稚園の1日の流れに沿って子どもたちと一緒に活動をし、子どもと積極的に関わりながら一人ひとりの性格や特徴を捉え、教師がどのような意図を持って声掛けや援助を行っているのかを見て学んだ。また、学んだことを活かし自分も声掛けを行った。部分実習では朝の活動を行い、帰りの活動では何度か絵本の読み聞かせを行った。責任実習では、朝の活動と主活動（転がしドッジボール）を行った。毎日7時頃に出勤し、清掃を行い、朝礼・終礼に参加した。また、子どもたちが降園した後は清掃を行い、子どもたちの書き取り・数字の丸つけや行事や制作活動の準備を行った。戸外遊びでは様々な年齢の子どもと関わり、年齢別の遊びや遊び方の違い、異年齢で遊ぶ子どもの様子などを自分も一緒に遊びながら学ぶことができた。責任実習後は反省点を踏まえた上でもう一度教師の声掛けや援助の仕方を見て、自分が出来ていなかったこと、教師がどのように子どもたちと関わっているのかに注意して取り組んだ。

### 2. 実習目標と達成状況

今回の実習の目標は、（1）幼稚園の特徴を理解する、（2）子ども一人ひとりの発達の違いを理解した上で、それに応じた声掛けや援助を行う、（3）教師がどのような意図を持って声掛けや援助を行っているのか学ぶ、（4）教師が子どもたちにどのように遊びや活動を展開しているのか学ぶ、であった。

1つ目の目標については毎日自分の目で見たり、教師に聞いたりすることで達成しようとした。実習園では「ヨコミネ式教育法」を取り入れており、毎日体操や読み取り・書き取り・数字の時間などがあるが、この根本には一貫した考え方があり、人間として「自立」をさせることを目的としていることを理解することができた。また、子どもにはやる気にさせるスイッチがあり、教師や子どもたち同士が「やる気スイッチ」を押すことを大切にしていることも理解することができた。インターネットを使い「ヨコミネ式教育法」について調べることにより理解を深めようとし、保育方針・理念の1つとして学ぶことができた。実習園は挨拶にも力を入れており、子どもの手本となるように姿勢や表情を意識して、挨拶をするように努めた。

2つ目の目標については子ども1人ひとりと毎日積極的に関わり、特徴をとらえ理解しようとした。書き取り・数字の時間や体操の時間には、1人ひとりに求めるレベルを変え、その子どもが成長できるような声掛けを意識して行った。また、ただ応援する声掛けをする

のではなく、具体的にどこが良かったのかも伝えるようにも意識して行った。

3つ目の目標については教師の日々の声掛けや援助をする姿を見て、書き取りや数字の練習をしている時は、子どもたちが気持ちを切り替えられるように厳しめに書き順や書き方を指導したり、やらずに遊んでいる子にはしっかりと注意するなどして、普段の声掛けとは違いメリハリをつけた声掛けを行うことで、子どもたちが自主的に集中して取り組むようにしていることを学んだ。また、困っている子どもや泣いている子どもにすぐに手を差し伸べるのではなく、その子どもや周りの子どもたちが自分たちで解決しようとする姿を見守りながら援助をすることで子どもたちが成長できる機会を作っていることを学んだ。

4つ目の目標については教師が活動や遊び一つひとつが子どもたちの持つ可能性を引き出すことに繋がるように展開していることを学んだ。教師が活動や遊びを展開する姿を見て、徒競走を行う時は必ず順位をつけ、子どもに競争心を持たせるようにしたり、体操ではただ褒めるだけでなく、できることを増やしていき、それを認めてあげることで子どもに達成感を持たせ、学習意欲を高めるようにするなどしていることを学ぶことが出来た。

### 3. 学んだこと、反省点、今後の課題

実習ではたくさんのことを学んだが、その中でも挨拶と声掛けは自分の中で印象的だった。挨拶は実習園ではとても力を入れていることであり、実習中は何度も目線や指先、首の角度など挨拶の仕方について指導していただいた。これまで挨拶について細かく指導されたことがなかったため、とても勉強になった。しっかりと挨拶することが出来ると相手に良い印象を与えることが出来るため、これからも指導していただいたことを忘れずに子ども達の手本となる様な挨拶を意識していきたいと思う。

声掛けは、私は今までは子どもに指示をするような声掛けばかりだったのだが、先生方が子どもに声掛けをする姿を見て、子ども達が自分で考えて行動するような声掛けをすることで、子ども達が成長する機会を作ることが出来ると学んだ。また、遊んでいる時の声掛けと活動の時での声掛けでは、雰囲気や音を変えてメリハリをつけて行うようにするといいと学んだ。これからも以上の2つのことを意識して、声掛けをしていきたいと思う。

反省点は責任実習で予想される子どもの姿を考えておくことが出来なかったため、指導案の通りに進められず、困ることが多くなってしまった点である。指導案には上手くいった時の流れしか書いておらず、上手くいかなかったり、スムーズに進むことが出来なかった時のことや想定外の子どもの姿を書く必要があったと反省している。日々の子どもの姿を見た上で、もっと細かく活動での子どもの姿や行動を想像して、考えられようにしていきたいと思う。

今後の課題は指導案をより具体的に書けるようになることである。実習では子どもの姿を上手く書くことができなかったため、書く時には特に子どもの姿を具体的に書くようにしなくてはならない。そのためには子どもの年齢ごとの発達の違いをもう一度勉強し直し、子どもと関わる機会を増やしていきたい。

## 幼稚園実習報告書

FF2016-036 富田真琴

実習先：学校法人こざくら幼稚園

### 1. 実習で取り組んだ内容

今回の実習では、前半の観察実習を元に朝の活動や給食の時間、帰りの活動とペープサートの部分実習を行い、月末に精練実習を行った。観察実習では一日を通して子どもとふれあい、クラスの時間の流れや子どもごとの特徴を学んだ。

子どもたちの理解とともに信頼関係の構築に努め、実習二日目からは帰りの活動前の手遊び・紙芝居の朗読も行った。

精練実習では、一日の計画・進行をおこなった。主活動では新聞をちぎり、てるてる坊主の制作あそびを行った。

### 2. 実習の目標と達成状況

私は実習に臨み、一人ひとりに合わせた保育を実践することと、子どもの興味を引く遊びの展開を学ぶことという二つの目標を立てた。

一つ目の目標「一人ひとりに合わせた保育」の達成状況としては、子ども一人ひとりの違いを意識した対応や声掛けを行え、十分に達成できたと考える。

一日の終わりに、その日にあったことやそれに対する自分の対応等について先生に報告・相談・質問を行い、先生が普段どんなふう子どもを見て、接しているのか教えていただきながら実践を繰り返した。実習で入ったクラスには活動に制限がかかったり、特別に援助のいる子がいた。観察実習の中でその子に多くつく機会を設けていただき、着替えや排泄、活動の援助を行った。実践する中でクラスにいるイレギュラーな子の対応や、その子を見ながらほかの子にも気を配ることなどを学んだ。その子の他にも発達に遅れのある子が複数居り、工作や日常の活動の中で、周りについていけず失敗してしまう場面が多くあった。その時、最初から間違いを指摘するのではなく、まず挑戦できたことを褒めて行動を認めることで次の活動に前向きに臨めること等を、アドバイスをいただいた。そして子どもがどんな欲求を持っているか、それにどのように対応したらいいかを学び、積極的に実践を行った。

一か月過ごす中で繰り返し子どもの特徴などに合わせた声掛けや援助の仕方を学び、日々成長する子ども自身やその変化の理解に努めることの大切さを日々変わる対応の中で改めて実感した。それを元に指導案を作成し、活動ごとに注意しておくべき子やその子に対する対応を把握し精練実習に臨むことができた。

当然だが子どもには一人ひとりに育った家庭環境や性格の違いがあり、普段しっかりしているように感じるが食事は遊び食べが直らなかったり等それぞれに得手不得手があり、それぞれに向けた対応があるのだと改めて実感した。

二つ目の目標「子どもの興味を引く遊びの展開」の達成状況として、場面に応じた有効な声掛けや注意すべき点など学習できたことが多くあったが、それを実践に移せないという課題も残る結果であったと考える。

主に観察実習の間に行う活動の様子で先生に行っていた声掛けの意図を尋ねたり、自分の行動についてアドバイスをいただく中で、子どもの特徴を踏まえ、予め生活の場面ごとに集中が切れやすくうまくいかない子、発達等の差により難しく感じてしまう子を予想しておくことで素早く対応できることを学んだ。折り紙でペンギンを作る活動があった時、先生は一度子どもの前で作って見せた後、「先生作り方忘れちゃった！この後どうするんだっけ」と声掛けを行った。この声掛けに対して子どもたちは積極的に先生に手順を教え、さらに先生が難しいポイントでわざと間違えて見せることで注意を促す等の場面があった。このように何か説明する際の子どもの体制の整え方や、その説明をどこまで行うか、子どもの持つ見通しなどについても学ぶことができた。

一方で、注目の集め方や子どもへの説明の仕方など学んだ声掛けの仕方がなかなか実践出来なかったり、活動を進めることに集中してしまい子どもへの注意がおろそかになってしまったりする場面があった。

### 3. 実習で学んだこと、反省点、今後の課題

実習に際し、立てた目標のほかにも、一人ひとりではなくクラス全体の特徴というものがあると学んだ。これは、集会などがあつた際にクラス全体に指示を出す場合、どのくらい説明が必要なのか、見通しはどの程度持てるのかを把握する必要があるということだ。私の入ったクラスは比較的話を落ち着いて聞ける子が多く、説明もその先30分ほどの分を一気にしてしまってもある程度説明通りに活動できていた。しかし同じ学年のほかのクラスでは、10分毎くらいのペースで一工程ずつ説明を行っていた。さらに精練実習での主活動で、説明の際に背中を向けてしまい伝えたいことがうまく通らない子への対応を新たに学ぶことができた。背中を向けてしまっていた子に手元が見せられず、物の扱いなどの指示が通らなかったことがあつたが、その後の先生との反省で作業を行っている子どもをしっかり見て回ることで通らなかった指示のカバーができると教えていただいた。

今回の実習の反省点は、一つのことに集中し視野が狭まってしまったことである。精練実習では特に、一日のスケジュールを予定通りに進めることに執着してしまい、活動中での道具の扱いに困っている子や、活動のルール以外の遊び方をしてしまう子を見逃してしまう等、子どもの様子を十分に見られなかったり注意を怠ってしまったりする場面が多々あつたと感じる。

今後の課題として、現場に慣れることで余裕を持ち、視野を広げることが必要であると感じた。そのため実技の授業でいただいた時間を最大限生かし、活動を進めるうえでどのようなことに気を付けるべきか、自分に足りていないものを再確認しつつ学んだことの実践に努めたい。

更に、今回の実習で子どもの活動における音楽の大切さを改めて感じたため、ピアノの練習にも力を入れる必要があると感じた為、教室に通い始めた。そこで特に苦手な弾き歌いから、ただピアノが弾けるようになるだけでなく、コードや初見での演奏などを身に付けられるよう努力を行っている。

## 幼稚園実習報告書

FF2016-037 中嶋美穂

実習先：学校法人上越学園 たちばな春日認定こども園

### 1. 実習で取り組んだ内容

クラスの配属は2歳児に4日間、3歳児に1組・2組各2日間、4歳児に1組・2組各2日間、5歳児1組に8日間であった。責任実習は5歳児1組で実践した。

実習で取り組んだ内容は室内遊び・園庭遊び・絵本読み聞かせ・ピアノ伴奏（さんぽ・大きな古時計）・活動を行う際の子どもの援助や安全面の配慮であり、1日の流れに沿って一緒に活動を行った。部分実習では、風船渡しリレー・風船運びリレーを行った。責任実習では朝の会から帰りの会まで行った。

### 2. 実習目標と達成状況

幼稚園実習での実習では、(1) 保育者が行う活動の展開方法を学ぶ (2) 認定こども園での教育・保育を一体的に行っている園の機能を理解し、現場でしか知ることが出来ない技術・知識を学ぶ事の二つを目標とした。

一つ目の達成状況について、子どもたちの意見を聞ながら遊びの展開しているところを観察できた。保育者も子どもたちと一緒に全力で遊び、保育者が持っている知識を遊びに繋げ、子どもたちの遊びの展開を行っていた。特に印象に残った場面は、人形劇である。4歳児が自由時間に人形劇を行う子どもと観客の二手に分かれて遊んでいると、保育者が入り進行役として人形劇を始めた。すると、子どもから「ディズニーシー作りたい」という声が聞こえ、その意見から保育者が作ろうと子どもたちに提案していた。子どもたちも賛成し遊ぶ姿を見た周りの子ども達も参加する子どもの姿も見られ、全体を巻き込んで遊んでいた。新聞紙を水と見立てたプールを使い展開されていた。子どもたち一人ひとり役柄を決めてショーが始まり、後に参加した子どもは観客となり遊びの世界を作っていた。

翌日私も遊びの展開を実践した。自由遊びで「昨日の続きをしたい」の意見から一緒に遊んだ。私が進行役となり「これからショーが始まります」と呼び掛け、子どもたちはショーの準備へと移る姿が見られた。実習生の声を聞いて周りの子ども達も興味を持ちお客さん役としてなりきっていた。それから「写真撮りたい」という意見が聞こえ「では、これから写真を撮りたいと思います」と声を掛けると子どもたちが真ん中に集まり、私がカメラマンとなって写真会へと展開した。その後、再びショーが始まり次は握手会へと展開をした。

こうした経験から、遊びを展開する事は難しい事であるが、一緒に遊ぶ中で子どもの意見を聞いたり姿を観察したりして思い浮かんだ遊びを提案出来る事に気づいた。また、展開していく中で子どもたちも楽しむ姿も見られ私も楽しい時間であったと感じた。

次に二つ目の目標の達成状況について、認定区分によって子どもたちの降園時間が異なるが、生活に合わせて子ども達が満足のいく保育を行っていることを学んだ。午後からの活動は自由遊びであるため、家庭にいるような雰囲気であった。誰と遊ぶかも自由であるため、ホールにて異年齢で遊ぶことも出来、保育室でゆったり過ごすことも可能であった。降園時

間が早い子どもは保護者のお迎えを楽しみにしている。一方、お迎えを楽しみにしている子どもの様子を見て寂しい表情をする姿が見られたが、保育者が寄り添って安心できるような雰囲気を作っていた。子どもたちの安心する姿が見られたのは、保育者が子ども園の機能を理解しているため、過ごしやすい環境を作れるのだと考える。

また、実習期間中に急性胃腸炎が園で流行し、午前に園が臨時休園となった。そういった緊急時の保育者や保護者との連携など普段見る事のない経験が出来た。緊急ということもあり、保護者に緊急メールを送信するが迅速にお迎えに来る保護者は、降園が早い家庭が多かった。降園が遅い保護者は仕事でメールが気づかないということもあった。緊急時に一早く連絡が届くようにするために、感染者が出始めの頃に手紙で緊急連絡をする場合があると伝えることで、保護者の方も気に掛けるのではないかと考える。こういった解決策を積極的に提案していきたい。

### 3. 学んだこと・反省点・今後の課題

今回の実習では、子どもが理解しやすい表現にしたり、意欲が湧くような言葉の投げかけをしたりという保育者の意図を学んだ。その中でも3, 4歳児クラスは、難しい言葉を使うのではなく、簡単で理解しやすいような言葉で話す姿が見られた。5歳児になると難しい言葉や新しい言葉が出てきたら簡単な言葉を並べていた。そして、制作物や物を使用する際の約束事には、保育者がお手本をやってみせていた。言葉の説明だけでなくやってみせるだけでも子ども達は、やってよいこと・やってはいけない事の判断が出来るようになっていくと考えた。

反省点は、子どもとのコミュニケーションのための知識や話題を十分に持っていなかった事である。保育者は子どもに興味ある物や文化・身の回りの知識を多く持つことによって子どもたちとの会話を弾ませたり、探検をする際には木や花・生き物の名前など紹介していた。知識が不十分のため子どもとのコミュニケーションが上手く取れない場面もあった。

また、子ども達の前で疲れを見せてしまう場面もあった。どんなに疲れていても子どもたちの前では笑顔であたたかい環境を作らなければならない。保育者によって雰囲気も変わるため、疲れていたら子どもたちのやる気や元気もなくなるだろう。保育者は子どもたちに安心できる場を提供しなければならないため疲れがあっても笑顔で、自身の体調管理をしっかり行おうと考える。

今後の課題は子どもが興味あるものや自然物・身の回りの知識を得ることである。そのために本を読んだり、戦隊ものやアニメなど調べたりし知識を増やそうと考える。遊びの展開も自身のアイデアや経験した事を踏まえて提案できるようになるために考える力も課題である。この4年間で大学の先生方から学んだ発達や遊び、心理学、などの知識をもう一度思い返し現場で活かしていきたい。

また、疲れを見せないようにするためにも体力をつける事も課題である。楽しみながら適度に運動や栄養をしっかりと取って体力をつけていこうと考える。

## 幼稚園実習報告書

FF2016-041 福地千里

実習先：東金市立丘山幼稚園

### 1. 実習で取り組んだ内容

4週間の幼稚園実習では5歳児クラスのさくら組に入り実習に取り組んだ。

取り組んだ実習の内容は5歳児の観察実習、3、4歳児の観察実習、手遊び、読み聞かせ、ピアノの弾き歌いなどの部分実習、2日間の半日実習、精錬実習である。

また季節の行事や他園との交流会に実習生も参加し教師の動きや子ども達の動きを観察し、子ども達がスムーズに遊びに参加できるように声かけなどをして援助を行った。

1日を通して登園時の子どもの支度の見守りと、適度な声かけと促しを行い、自由遊びを子どもと一緒にいった。戸外遊びの際は、子どもに今日は何をして遊ぶのか問いかけ子どものやりたい遊びを一緒に行った。給食活動の際は担任教師と配膳活動を行い子どもがどのくらい食べれているかを見守った。給食後は15分程度座って遊べる玩具や絵本、描画を用意してお腹を休める様に子ども達に伝え、その後は自由遊びを行い、実習生もその遊びに参加をして様子を見守った。その後は降園準備をする様に全体に声かけを行い、支度が滞っている子どもがいた場合促す声かけを行い、全員の支度が終わったのを確認した。帰りの集まりに実習生も参加し、降園する子ども達にさようならの挨拶を行った。

### 2. 実習の目標と達成状況

今回の幼稚園実習では2つの目標を掲げた。(1)教師の子どもへの声かけ、生活での援助、遊びの展開方法を観察して自らの行動に反映して取り組み、教師に選択した遊びの理由や心がけている点を質問して学びを深める事、(2)子ども達の表情や活動にしっかりと着目して、子どもの意欲を高められる様に配慮して関わる事である。

1つ目の目標で学べた事は、ただ教師が遊びの中の学びを全て伝えてしまうのではなく、いかに子ども達自身が学びに気付けるのか、そのきっかけを作る声かけの重要性である。実習生も子どもに遊びの全てを伝えるのではなく、「どうしたらいいと思う」「こうしても楽しそうかもね」「そう思ったならやってみよう」など教師の声かけを真似して子ども達に問いかけてみた。こうした問いかけを行う事で、子ども達が遊びについて考え「じゃこうしてみよう」「こうすれば良いと思う」「それで作ってみよう」と子ども自身で遊びを考え広げていく場面をこの目標と学びで経験することが出来た。

2つ目の目標で学べた事は、子どもがよい提案を実習生に伝えてきた時は、周りにいる子どもを巻き込んで褒めてみたり、クラス全体で大きな手作りおもちゃが完成した時は全員で喜びを分かち合えるように配慮することで子どもの満足感や次の遊びへの期待感に繋げられる事である。しかし、子ども達の遊びを広げる際に、実習生が定めているねらいに沿う様に誘導して適切な判断をしっかりと行う必要があると御指導を頂いた。子どもの意欲を高めつつも、ねらいに沿うように子どもの提案を拾い上げ、遊びの幅を広げる保育スキルの

重要性と難しさを改めて学ぶ事が出来た。

### 3. 実習で学んだこと・反省点・今後の課題

4週間の実習と精練実習を通して、表情や声のトーンをオーバーアクションにすることで、より子どもは興味や反応を示し活動に入りやすくなり、活動を楽しめるようになるという事を学べた。園長先生からの御助言でいくら楽しい活動を子ども達に提案しようとしても、実習生が固い表情や薄い反応をしていれば子どもの意欲は高まりづらくなること、教師という役者になりきってどんな風に子どもと会話すれば良いのか、どんな風に子どもの前で振る舞えば良いのか、どんな風に行動すれば良いのかを客観的に気にしながら取り組むことが重要であると学べた。

また精練実習を通して、実習生が考えたねらいと子どもが展開したい遊びにずれが生じない様にする、臨機応変さの重要性を学べた。実習生が設定するねらいに対して、違った方向で遊びを展開しようとする子どもがいた場合子どもの意見を尊重しつつも「素敵なお考えだね、今度の遊びでやってみようか」と遊びの軌道修正をすることも教師には必要だと学べた。遊びに合わせた意見を拾いつつその意見で遊びがどんな方向で広がっていくのかを見据える重要性を学べた。ねらいに対して沿わない意見が出たとしても教師がフォローをしっかり入れることで次の意欲に繋がれることを学ぶことが出来た。

反省点については子どもが意欲的に取り組める様な盛り上げ方や満足感、達成感を味わえるように工夫すること、設定するねらいの意味やねらいを達成する為の工夫を考え理解することである。これらの反省点を掲げた理由として、精練実習をこなす事に手一杯になってしまい、子どもの反応や遊びに対する気づきを薄い反応でしか返せなかったためである。もっと多彩な声かけや関わり方をしていけばより子ども達は満足感や達成感を味わえたのではと思う。設定するねらいについては、自分が考えているねらいで子ども達は本当に成長できるのかの見極めが甘くなっており、結果的に精練実習では数人の子どもが活動から興味をなくしてしまい、教頭先生から「現在の子供達に合わせる事が大切で、難しいねらいを設定しても意味がない」との御助言を頂いた事が反省点として掲げた理由である。

これらの反省点を今後克服するために、以下の課題に取り組んでいこうと思う。子どもの発達心理学、保育の心理学1、2を学び直し、理解が足りていなかった部分、読み込みが足りなかった部分を補い、その時期の子どもの発達に沿った活動の提案や、子どもの認知・思考の発達、教師としての適切な関わり方を学び直したいと思う。また指導案で設定した遊びやねらいの意図、考え方、どの様に工夫して関わっていけば子ども達はねらいを達成できるのか、それらを学び直す為に幼児教育研究(遊びの授業)や保育内容指導法、幼児教育方法論の授業を振り返りたいと思う。課題をこなしながら指導案の書き方も見直し、書き上げた指導案の内容は先生方や友人等に添削をお願いして、子どもの発達に沿った内容になっているか、主活動の準備、導入、締めが細かく考えられているかを見て頂こうと思う。これらの課題をこなしてより専門的な保育スキルを高めていきたいと思う。

## 1. 実習で取り組んだ内容

今回、私は4週間の教育実習を行った。1週目は3歳児クラスに配属され、観察実習を行った。子どもの様子や保育者の援助の仕方等を観察し疑問に感じたことを自分から積極的に質問しに行った。2週目以降からは4歳児クラスに配属され、参加実習を行った。保育者の動きをよく見て、質問をしながら自分にできそうな仕事や子どもへの声掛け、援助を行った。また、登園から朝の会、給食、室内遊びの片付けから降園と、3度の部分実習も行った。その際、指導案の提出もした。4週目の月曜日に責任実習を行った。担任の保育者とよく相談をし、子どもたちの特徴や発達考えながら主活動の内容を決めていった。主活動は、絵の具とペットボトルを使った色水製作と混色遊びを行った。子どもたちが色の変化やその美しさ等を楽しむことをねらいとした。作った色水は遊びにも取り入れられるようペットボトルのキャップにビニールテープを巻きつけ、それを片付ける用の箱も用意した。その他にもプール活動やカレーパーティー、お誕生日会など様々なイベントもあり、お誕生日会ではプレゼントの一つとしてエプロンシアターも披露した。

## 2. 実習の目標と達成状況

今回の実習で、私は主に二つの目標を立てた。

一つ目は「子ども一人ひとりの発達や特徴を理解し、援助する」である。この目標については、「子どもの目線になりその思いや考えを正しく汲み取ろうとすること」が大切であると学んだ。毎日子どもと積極的に関わることで、その子の特徴を知ることができ、その子に合った声掛けや援助の仕方を考えることができるようになる。同じ子ばかりではなく、なるべく全員の子どもと関わり、その中で一人ひとりの発達や特徴を理解していった。そして保育者のやり方も見ながら、様々な援助の仕方を行った。ひとりの保育者だけではなく多くの保育者のやり方を観察し試していくことが大切であると実感した。うまくいかないこともあったが試行錯誤しながら、子ども一人ひとりに合った援助方法を探していった。そうすることで子ども達とも信頼関係が築かれていき、よりよい援助を行うことができた。

二つ目の目標は「保護者への援助について学ぶ」である。この目標については、園で行われる様々な行事の必要性を学ぶことができた。子ども達だけでなく保護者への援助はどのように行っているのか学びたかったが、バス通園の為あまり保護者と直接関わる機会が少なかった。稀に家庭の都合で保護者が送り迎えに来ることもあった為、その際は挨拶をし、受け入れや見送りをを行った。担任の保育者とは今日の子どもの体調や様子の話をしていた。育児について不安なことの相談や会話等は日常生活の中では見ることはできなかった。その代わりに、保護者参観や保護者参加の歯磨き教室、園の奉仕活動等、園全体で保護者とながれる行事があり、それを通して保育者は保護者とコミュニケーションを取っている様子が見られた。普段の生活ではなかなか保育者と直接コミュニケーションをとることがで

きないため、このような行事が保護者にとってとても大切になっているのだと感じた。また保護者同士で会話をする様子も見られ、近年、育児をするにあたって孤独を感じやすくなる環境が多い中、保護者の気分転換や育児支援としても人との関わりをもつことのできる行事は貴重な時間になっていると感じた。

### 3. 実習で学んだこと、反省点、今後の課題

今回の4週間の実習を通し多くのことを学んだが、特に「経験することの大切さ」そして「過剰支援をしないこと大切さ」について学んだ。

子どもは普段の生活の中で多くのことを体験し、それを学んでいく。しかし、ただ事物を教え、知ることが大切なのではなく、その体験の中で驚きや気付きがあり、何故だろうと考えたり、子ども同士で共有するという経験が大切なのである。そのため保育者が過剰支援をしてしまい子どもの経験を奪うようなことはしてはいけない。子どもたちがよりよい経験し学ぶことができるよう、園の環境構成や声掛け、援助をしていくことが保育者の役割なのであると学んだ。

実習の中で、クラス全体で折り紙を折る際、折り方を教えようとするあまり、つい手を出してしまいその子が折り紙をする経験を奪ってしまった。また、子どもが重い鉢植えを運んでいる際、手出しをしそうになったことである。その際は保育士に止められた為、様子を見ていると、別の子が「もってあげるよ。」と言い、子ども達で協力し運び始めていた。このようなことから、子どもが多くのことを経験し学べるよう、保育者は事物を見極め、時には見守ることも大切であると学んだ。

また、実習の中でダンゴ虫が脱皮をしているところを見つけた子が「なんでダンゴ虫白くなってるの？」という質問に対し、「脱皮をしているんだよ。」と教えるのではなく「どうしてだと思おう？」と子どもに自由に考える声掛けをした。すると、「病気なのかも」「ワラジムシになるのかも」等、何人かから意見が出た。このように発見したことの答えを教えるのが学びではなく、子どもが様々なことを考え、自分から調べてみることで、経験となりその子自身の学びへと繋がるのである。

今回の実習の反省点は、責任実習を行う際に事前の準備や考察が不十分であったために、当日に焦りが出てしまい子ども一人ひとりと向き合うことが疎かになってしまったことである。活動中での子どもの気付きや考え、言葉を保育者が拾うことは子どもにとって大切な経験に繋がっていく。活動を進めることに集中し、子どもへの対応が疎かになってしまっは本末転倒である。今回のようなことにならないためにも、普段の生活の様子から子ども達の行動や考え方を細かい面まで予測し、それを元に準備をすることが大切である。そして焦らず落ち着いて保育をすることで子どもの言葉一つひとつも逃さず拾うことができると考える。

今後の課題としては、事前の準備や考察を行い、子どもの姿のイメージをしっかり持てるようにするため、全体を見ながらも子ども一人ひとりに寄り添った援助ができるよう、子どもの気付きや考えを大切にし、子どもとさらに密に関わっていくことである。

## 幼稚園実習報告書

FF2016-049 渡部彩華

実習先：佐倉くるみ幼稚園

### 1. 実習で取り組んだ内容

今回の実習では4、5歳児のクラスに1日ずつ入り、残りの18日間は3歳児のクラスに入り観察実習と責任実習を行った。責任実習では雲のような型の紙にクレヨンで色を塗り、花の形の折り紙をのりで張り付けていく活動を行った。5歳児のクラスでは鼓笛隊の練習があり、ピアノ担当の子どもと一緒に課題曲の練習を行った。3歳児のクラスでは先生がおむつを交換する子の援助を行っている時や、担任の先生が送迎バス担当の時は教室にいる子どもと手遊びを行ったり、朝の支度をしたりするよう声をかけたり、着替えの援助を行った。2週目からは園で歌われている歌の伴奏を行った。6月生まれの子どもの誕生会を行ったり、土曜日には公開保育を行っているところを観察したり、活動の手伝いを行ったりした。各年齢、個々に合わせて着替えや活動の援助、声掛け、おむつ替えや排せつの援助などに取り組んだ。また預かり保育では、絵本の読み聞かせや手遊びを行ったり、預かり保育に入らなかった日は、次の製作の準備やトイレ、教室、プール、園周りの掃除等の環境整備を行ったりした。

### 2. 実習目標と達成状況

実習の目標は(1)子どもたちが自発的に活動を行えるような環境構成や援助がどのように行われているのかを学ぶ、(2)子どもの興味を自分に向けたり、気を引けるようにしたりすることを学ぶ、(3)様々な先生の子どもや保護者との関わりを見て、どのように信頼関係を築いているのか学ぶ、であった。

1つ目の目標の達成状況については、自分で考えて行動したり、自発的に行動できるような声掛けを多く行っていることに気が付いた。出席をとった後に担任の先生が子どもに1日の流れをただ説明するのではなく、説明した後に「この後はなにをするんだっけ」のような質問をしたり、次の作業に入る前にも「この後何をやるんだっけ」など、次にすることを子どもに質問したり、何か子どもに聞かれても「どうしたらいいと思う？」の声掛けを行っていた。

また遊びには連続性や、将来の自分に希望が持てるような環境を構成していくことが大切だということを学んだ。園庭にある大型遊具には工夫がされており、どの年齢の子でも遊べるようになっていた。正面から見て右側から左側に向かっていくにつれ、対象年齢が上がっていくというもので、1番右にあるのは滑り台、その隣にはクライミングネットが設置されており、一番左にボルタリングがあった。その中でもクライミングネットは、1番低い位置にあるネットは年齢が低い子どもでも登れるような高さになっており、2段目からは少しずつネットの幅が大きくなっていった。そうすることによって、子どものやってみたいという気持ちも大切にすることができたり、クライミングネットの上のほうにいる年長児を見て、自分も高いところまで行きたいという思いが芽生えられるようにしていた。

2つ目の目標の達成状況については、3歳児とは3週間近く一緒に活動してきたので一人ひとりを理解し、それを踏まえて興味を引けるような援助の仕方を学ぶことができた。何か活動に入る前などは、わざと小さい声で話したり手遊びをしている時に立ち歩いている時には手遊びをしながらその子どものそばに行き一緒にやったり自分なりに工夫することができた。

3つ目の目標の達成状況については、何か保護者が相談事や気になることがあったときは連絡ノートを使ってやり取りをしたりして信頼関係を築いていることがわかった。実習園では、毎月行われる誕生会や、父、母の日などがあるときは保護者が幼稚園にくるので、降園前に親子で廊下に並んでもらい、保護者全員と必ずコミュニケーションをとれるよう、順番に挨拶をしていた。

### 3. 実習で学んだこと、反省点、今後の課題

今回の実習では、子どもが泣いても、時と場合によっては少し離れたところで見守ることが大切であると学んだ。戸外遊びに行く前の着替えが終わらずに泣いている子がいた時、私はその子のそばで「頑張って着替えてお外で遊ぼう」と声掛けをしていた。しかし、園長先生に「園庭に出て泣いている子の様子を見ていてごらん」と助言を頂いたので、園庭で様子を見た。するとその子は泣きながらも自分で着替えを済ませていた。

また、自分で様々なことに気が付けるよう声掛けをすることの大切さを学んだ。戸外遊びの時に園庭で鬼ごっこしている子に「気を付けてね」「前見て走ってね」という声掛けをするときに特に深く考えないで声掛けをしていたが、子どもが走っている時にそのような声掛けをすることによって「〇〇をしている時は△△に気を付けなければならない」と考えられるように声掛けを行っていた。

反省点は子どもと一緒に活動するにあたって準備不足だったことと、緊張しすぎてしまったことだ。3歳児クラスに入ったときは先生が不在の時など、クラスをまとめなければならないことが多々あり、手遊びを行っていたがクラスに入りたての頃は緊張してパッと手遊びが頭に浮かんでこず、空白の時間ができてしまった。日が経つにつれて慣れていったが、責任実習での活動を終わる声掛けをするために手遊びをしようと考えた時、緊張で頭が真っ白になってしまい空白の時間を作ってしまった。子どもを引き付けられるような楽しい話や子どもの興味を沸き立たせる声掛け、声の使い方があまりうまくできなかったこと、歌の伴奏をするとき、ピアノを弾くことに精一杯になってしまってなかなか子どものほうを見ることができなかった。

今後の課題は、反省点を踏まえて卒業までに自信をもって子どもの前で手遊びをすることができるくらい手遊びを練習することだ。福祉型児童発達支援センターにボランティアをしに行く機会が多くあるので、そこで子どもと手遊びをしたり、落ち着いて子どもとかわわっていけるように努めたい。また、ピアノの練習ももっとしっかりと取り組んでいきたいと考えた。

## 幼稚園実習報告書

FF2016-059 井上莉子

実習先：名護市立 大北幼稚園

### 1. 実習で取り組んだ内容

すみれ組を主とし、観察実習や参加実習、部分実習や責任実習を行った。最初2週間は、運動会練習を中心とした実習だった。実習1週目は観察実習と参加実習を中心に行い、先生と子どもたちの関わり方を見て学び、子ども一人ひとりの性格や個性を自分なりに理解できるように努めた。実習2～3週目は、参加実習と部分実習を中心に、手あそびと絵本の読み聞かせや給食時、歯磨きから掃除までなどの部分実習で、子どもに合わせた声掛けを意識して行った。また、2週目の最後には運動会が行われ、反省会にも参加した。3週目からは、普段通りの幼稚園生活を知ることができた。実習4週目は、部分実習と責任実習を中心に行った。部分実習で、朝の会や帰りの会、製作を行い、責任実習ではゲームを行った。他にも、お誕生日会や英語あそびなどにも参加したり、ばら組にも1日参加したりした。

### 2. 実習目標と達成状況

今回の実習目標は2つあり、1つ目は『目の前の子どもだけではなく、クラス全体を見て行動する』で、2つ目は『現場の先生方の声掛けを見て学び、自分自身の声掛けの引き出しを増やす』であった。

1つ目の目標については、個々の様子を見ながら全体をまとめられるような関わりを意識したが、タイミングが上手くいかないことがあった。部分実習や責任実習では、全員がしっかりと落ち着いて話を聞ける環境を作る前に説明を始めてしまい、1度の説明だけでは、全体で同じ活動をするのが難しいこともあった。子どもたちがルールを守り、楽しく活動を行うためにも落ち着いて話を聞ける環境を作ってから話し始めるべきだった。また、絵本の読み聞かせでは「読んでいるときに子どもに反応すると、その子どもは嬉しいけど、周りの子どもの世界観は壊れてしまう。反応することもいいことだけど、様々な読み方があるから試せるといいね」とアドバイスもらったが、子どもに反応してしまっただけで絵本の世界観をうまく作ることができなかった。一方、自由遊びの際には、大人数で遊ぶことも多く自分から輪の中に入ることが難しそうなお子に声を掛けたり、様々な遊びに参加したり、遊びの中心にいる子ども以外への配慮も意識できた。

2つ目の目標については、多くの方の声掛けのタイミングや、話し方などを見て学ぶことができた。また、直接注意するのではなく、できている周りの子どもを褒め、やる気を引き出す方法、できるだけ否定的な言葉を使わず子どもが自ら考えてできるようにする方法もあった。他にも、同じような声掛けでも、普段の生活で築いた関係性にもよって子どもの反応が変わることを学び、改めて信頼関係を築くことや自分なりの声掛けは大切だと感じた。例えば、同じような状況で、同じ子どもに対しても、「今練習しないなら教室帰っていいよ」と注意し子どものやる気を引き出す先生や、「大丈夫？熱あるの？測ってみようか」と言い「熱がないから頑張れそうだね」と励まして子どものやる気を引き出す先生もいた。

しかし、今回の実習では子どもたちが一人ひとり発表する機会が多くあり、子どもたちの発表に対しての反応は難しかった。日々の帰りの会で担任の先生が行っているのを見て、スラスラとコメントをして、話を広げていた。部分実習で実際にやってみるととても難しく、4人目以降の子どものコメントが出てこなかったり、独特の感性をもつ子どもへ「上手に描けているね」と一言で終わってしまい、話を広げることができなかったりした。その反省も踏まえ、責任実習以降は子どもたちの感想を予想し、あらかじめ様々なパターンのコメントを考えたり、担任のコメントに改めて注目したりすることで回数を重なるにつれ自分なりの対応ができるように努めたが、とても難しかった。

### 3. 実習で学んだこと・反省点・今後の課題

今回の実習では、褒めることの大切さを改めて学んだ。先生方は、子どもたちが悪いことをして注意した後でも「A君はこんないいところあるからね。先生は約束守れると思う」と言って、子どものモチベーションを上げていた。また、自分自身もできない事が多く落ち込んでいるときも、先生方から褒めていただきとても嬉しく、意欲を持ち続けて実習を続けることができた。褒めることの大切さを改めて感じる事ができたので、子どもたちの良いところを沢山褒め、良いところを伸ばせるようにしていきたい。

また、先生方は様々な場面で連携し臨機応変に対応しており、素早く対応する大切さを感じた。運動会当日に台風の影響により体育館で開催することが決まったが、先生方は開会式前の数分で印のテープを貼ったり、子どもたちにわかりやすく説明したり、演技の邪魔にならないように入退場のサポートをしていた。そのお陰で子どもたちも運動場でのリハーサル以上の演技ができていた。私もどのような場面でも臨機応変に対応できるようにしたい。

今回での実習での反省点は2つあり、1つ目は『先入観から決めつけて声掛けをしてしまったこと』である。戸外遊びの片付けの際に、普段から自分のやりたいことを優先し、掃除や片付けをあまり積極的しないA君に対して、ただ遊び足りないから片付けをしたくないだけだと思い、「片付けの時間だよ」といつもと同じ声掛けをした。ある程度片付けが終わっても同じ場所において、声を掛けたが反応がなく近くに行き話を聞くと、A君なりの理由で落ち込んで片づけをしていないことがわかった。最初から子どもの様子に目を配り、いつもの違いに気付き配慮すべきだった。2つ目は『ピアノが弾けなかったこと』である。担任の先生は少しの時間でも季節の歌や、子どもたちのリクエストに応えピアノを弾き子どもたちが歌あそびをできるようにしていたが、私は全く弾けなかった。

今後の課題として、日頃から子どもをしっかりとして見て、小さな変化にも気づけるように意識していけるようにしたい。また、どんな場面でも子どもの意見に耳を傾けなければならないと改めて思った。先生方から「日々勉強だよ。正解とかはないから子どもたちにとって良いことを手探りで探し続けていかなければいけない仕事だよ」というお言葉をいただいたので、保育者になってからも、子どもたちにとってより良いことができるように成長していきたい。また、ピアノのレパートリーを増やしていけるように練習し、どんな曲でもスラスラ弾けるようにしたい。

## 実習報告書

FF2016-065 加藤幸大

実習先：なるとうこども園

### 1. 実習で取り組んだ実習内容

今回の実習では、最初の5日間は3,4歳児で観察実習を行った。その後は5歳児に入り観察実習、部分実習、責任実習を行った。

具体的な内容として、3歳児では1日の流れを把握し、子どもたちと触れ合いながら、発達に応じて食事、排泄、着替えなどの援助を行った。また、戸外遊びでは、蜂などの危険な虫に近づいていないか、危険な遊びをしていないかなどを見守りながら過ごした。

4歳児では、園の1日の流れに沿って子どもたちと一緒に活動した。戸外遊びでは、子どもの安全を見守りながら、鉄棒や雲梯などの遊びの補助を行った。給食では、配膳の援助、取りに来る順番の呼びかけを行った。

5歳児では、1日の流れを確認するとともに、時間をいただき、手遊びからの読み聞かせという流れでの部分実習を行った。責任実習が近づくにつれ、朝の会や帰りの会、給食やおやつの部分実習も行った。

責任実習では、指導案に沿って、子どもたちを迎え入れるところから、合同保育に移るところまでの1日を行い、紙コップを使った製作活動や、手遊びゲーム、戸外遊びの見守りなどを行った。夏祭りが近いということで、おみこしの製作や担ぎ方の練習にも参加し、子どもたちの活動している姿や保育者の進め方や声掛けについても学ぶことができた。

### 2. 実習の目標と達成状況

今回の実習では、二つの目標を立てた。まず一つ目は、教具をどのように使い分けているのかということ学ぶことである。達成状況として、観察実習を通し、年齢ごとに教具を使い分けることで子どもたちの発達に合わせた保育ができることを学んだ。例として、絵本の読み聞かせでは、年齢ごとに読む本を変え、3歳児ではどちらかという絵が多く描かれているものを選んでいった。これは、3歳児の発達に合わせて、保育者がこの時期の子ども達がどの程度文字を理解できるのか把握して、文字ばかりであると絵本に興味を持たない子も出てきてしまうということから、絵の多いものにしていくことが分かった。また、絵を見て想像力を豊かにしてほしいという狙いがあることも学べた。4,5歳児になると、文字の理解も少しずつ出来るということから、比較的文字の多く、数字や英語が含まれた絵本を選択していた。これは、文字や数字、英語に興味を持ってほしいという狙いのもと、行われていた。その他にも、月に一回配られる月刊誌を使って、全員で読むことで、動物や植物、星座などその季節に合ったものに関心が持てるようにしていることを理解できた。

二つ目は、保育者の保護者とのコミュニケーションの取り方についてである。まず、どんな時でも笑顔で関わるということが重要だと感じた。そして、1日の子どもの姿を伝えるだけでなく、給食をたくさん食べたこと、友達に玩具を譲れたこと、今まで出来なかったこと

が出来るようになったことなど、細かいことまで伝え、子どもの日々の成長を伝えていた。こうすることで、保護者も安心するとともに、子どもの成長と一緒に感じ、喜ぶことが出来るのだと理解できた。

### 3. 実習で学んだこと・反省点・今後の課題

今回実習で学んだことは、保育室の環境構成を年齢ごとに変えて保育していることである。3歳児では、すべての玩具を出すのではなく、子ども達が日頃興味を持って遊んでいるもの、遊びたいという気持ちを引き出せる物を、保育者が選んで出していること、そしてこれらをバランスよく配置することで、一つのコーナーに密集して、怪我などが起きないように配慮していることが理解できた。4歳児では、少しずつ自分のことが出来るようになってきている子、そうでない子と様々で、その中で「やってみよう」「できた」という思いが感じられるよう環境構成だけでなく、声掛けもしていることが分かった。片づけや給食の準備など、自分達で身の回りのことをやるだけでなく、見通しをもって進めていけるよう保育者の援助が重要になってくることを学べた。5歳児では、遊びの際の環境構成や身支度は自分たちで考えて進めていくということで、保育者は必要に応じて声掛けや援助を行っていた。その中で、身支度せずに遊んでしまっている子、片づけに参加していない子に対しては、個別に声掛けをしたり、クラス全体で話し合うことで、どうしたらよかったか子ども自身が気づけるよう工夫していることが保育者の姿から学ぶことが出来た。製作活動では、4歳児では、保育者がアドバイスしている姿が多く見られたが、5歳児では、自分たちで完成まで進めている姿が見られ、保育者もホワイトボードに作り方の手順を書くなどして自分たちで作業しやすいよう構成していた。この他にも、環境構成の面では、最初は玩具を適当に出してしまっている部分があったが、意味を理解した後からは、子どもが遊びたいと思えるよう、配置や種類を考えながら環境構成に努めた。

反省点としては、責任実習でのマラカス作りでコップの中の素材を音の違いがはっきりするものを選ぶべきだったことである。この活動では、様々な音の出方を楽しむということを狙いとしたマラカスの制作活動を行った。私は、コップの中に入れる素材をビーズと貝殻にしたのだが、音の違いが子ども達に伝わらず、分かりにくくなってしまった。私たちが分かるからと言って子ども達も同じように分かるとは限らないので、音の違いがはっきりとした素材を入れるべきだったと反省した。

今後の課題としては、普段の子ども達の園での生活を観察して、どの程度なら理解を示せるのか把握し、発達に合わせて活動を考えることである。子ども達の発達においては様々であるため、この点を踏まえ全員が理解を示せるよう活動の進め方、難易度を調整し考えていく必要があると考えた。今回の実習では、子ども達の発達や個性を理解しようと過ぎていたが、期間が限られており、一か月という短い期間で理解することは難しいことが分かった。そのため、実習が終わった今できることと云ったら、今までの授業での資料や教科書を見直すことと、もう一度子どもの発達を理解し直すことだと考えた。

## 幼稚園実習報告書

FF2016-066 加納七海

実習先：なぎさ幼稚園

### 1. 実習中に取り組んだ内容

今回の実習では、年長クラスに 20 日間入り、観察実習、部分実習、責任実習を行った。部分実習ではお迎えの部屋に移動してから保護者が迎えに来るまでの間、手遊びやクイズの導入をして紙芝居の読み聞かせを毎日行った。

台風の影響もあり、実習初日が運動会で始まり歩行訓練、芋ほり遠足、ハロウィンパーティー、防犯訓練、10 月の誕生日会、津波訓練と最初の 2 週間は行事が多かったため観察実習と参加実習をメインに行った。ハロウィンパーティーでは子どもたちも保育者好きな仮装をしてハロウィンの雰囲気味わえるようにしていた。3 週間目から徐々に発表会練習が始まり、4 週間目はオペレッタだけでなくピアノカ奏の練習も始まりどのように練習していくのかを見ることができた。また、毎週専門体育と英語があった。専門体育では怪我につながるため絶対にふざけないように注意し、逆上がりなどもわかりやすいようにアドバイスをしながら最低限の援助を行い、子どもたち自身の力で行えるようにしていた。英語では外国人の先生が来て歌やダンス、ゲームなどで楽しみながら英単語が学べるように工夫されていた。責任実習では、朝の会を行った後、主活動でフクロウの形に切った画用紙に折り紙のちぎり貼りをした上から羽に見立てた落ち葉 2 枚と顔を貼りフクロウを製作した。お弁当を食べた後は戸外遊びを行い、帰りの会をして降園するまでを行った。

### 2. 実習目標と達成状況

今回の実習目標は、(1)保育園との違いを学ぶ、(2)子どもたちに伝わりやすくするために声掛けにどんな工夫をしているのかを学ぶ、(3)環境構成の工夫について学ぶ、の 3 つであった。

まず(1)については、保育園と違い一人担任での何かトラブルが起きた際の対応について学ぶことができた。保育園では複数担任なので役割を分担して対応することができるが責任実習の際に一人担任だと全体と個人どちらを優先すればいいのか迷ってしまう場面があった。その場の状況に合わせてどちらを優先するのかを決め、個人に話をする必要がある場合は先に全体への指示を出すなど臨機応変な対応が求められることを実感した。

次に(2)については、子どもたち一人ひとりに合わせた声掛けの重要性について学ぶことができた。子どもたちの行動には全て理由があり、保育者がただ頭ごなしに叱るのではなく、その理由をしっかりと聞いてあげることで対応の方法も変わってくるのが分かった。私自身は、ふざけている子はいマイナスな声掛けをしてしまうことが多かったが、担任の先生はその子がどんな性格なのか、どんな特徴があるのかを把握したうえでふざけている子にもプラスの声掛けをして子どもたちのやる気を引き出していた。子どもたち一人ひとりの性格が異なるため、同じ声掛けをしてもやる気が出る子もいれば逆にやる気なくなっ

てしまう子もいた。子どもたちとその状況に合わせて適切な言葉を選んで声掛けをすることはとても難しいがその反面楽しさも感じる事ができた。また、読み聞かせの際などにただ「静かにして」というよりも「誰が一番かっこいいかな」や「今は何の時間だと思う？」など子どもたちに静かにする理由を考えさせる声掛けを行ったほうが静かになりやすいことも学んだ。声掛けだけでなく手遊びやクイズなどを行い、子どもたちの興味を引くことで自然と読み聞かせの態勢を作り出すことが必要だと感じる事ができた。

最後に(3)については、幼稚園では保育園と違い全クラスで教室の環境構成が統一されておりクラスごとの環境構成の工夫は学ぶことができなかった。しかしその中でも常に次の活動を頭に置きどうすれば次の活動がしやすくなるかを考えて机の配置や子どもたちを配置していくことが大切だということ学ぶことができた。

### 3. 実習で学んだこと・反省点・今後の課題

今回の実習では「直接体験」の大切さを学ぶことができた。芋ほり遠足では、始まる前は虫がいるからやりたくないと言っていた子が始まった瞬間に顔が変わり大きな芋を楽しそうに掘っている姿を見て直接自然に触れ、実際に体験することの大切さを学ぶことができた。また、ハロウィンパーティーの時も子どもたちと保育者が実際に好きな仮装をすることで子どもたちはよりハロウィンの雰囲気を理解でき、楽しむことができていた。

また、実習の途中から発表会練習が始まったためオペレッタや合唱、ピアノ演奏をどのように作り上げていくのかを学ぶことができた。オペレッタはお弁当や室内遊びの時間のCDを流すことで子どもたちが自然に歌やセリフを覚えていた。合唱の歌は毎日の朝の会、帰りの会で練習を行っていた。ピアノ演奏は音階や指番号を丁寧に教え、室内遊びの時も練習出来るようにすることで自らピアノ演奏の練習をする子がたくさんいた。

反省点の一つ目は、声掛け、手遊びなどすべてのことにおいてレパトリーが少なかったことが挙げられる。一人ひとりに合った声掛けを行おうとしてもそもそも自分の中のレパトリーが少ないため何個かの声掛けが効かなかった際にどうすればいいかわからなくなってしまったことがあった。また、少しの空き時間にできる手遊びやクイズももっと用意しておく必要があったと感じた。

二つ目は計画を立てるときの時間配分の甘さが挙げられる。責任実習の際に朝の会の時点で時間が押してしまいその影響で主活動の後の戸外遊びが5分程度になってしまった。戸外遊びを短くすることでお弁当や降園時間などは遅れずに済んだが計画通りに進めることの難しさを実感した。

今後の課題としては、二つの反省点から自分のレパトリーを増やしていくことと時間に余裕を持ち計画を立てられるようにすることが挙げられる。自分の中で声掛け・手遊びなど引き出しを増やせるようにこれからも勉強を続けていきたい。また、計画を立てるときには色々な事態を想定し時間を設定できるようにしていきたいと思う。時間が押してしまった場合や余ってしまった場合などにどこでどう調節するかも考えておくことで当日に計画通りに進まなかった場合でも焦らずに保育を行えるようにしていきたいと思う。

## 幼稚園実習報告書

FF2016-068 小池晃史

実習先：聖公会 聖母こども園

### 1. 実習で取り組んだ内容

今回の実習では、2つある5歳児のクラスに2週間ずつ入り実習を行った。その中で、紙芝居や絵本の読み聞かせ、手遊び、朝の会の進行、ピアノの伴奏の部分実習を行った。また、実習後半に責任実習を行った。

具体的な内容としては、室内遊びでは子ども達の遊びを観察しながら一緒に遊び、室内でできる「じゃんけん列車」や「はないちもんめ」などの運動遊びを子ども達に知らせた。戸外遊びでは子ども達と一緒に汗をかきながら思い切り遊び、子ども達が危険な遊び方をしていないか見守った。体育教室や英語教室などの活動では子ども達の様子を観察したり、職員の方の指導の工夫を見て学んだりした。運動会や出前講座などの行事では子ども達と一緒に活動をしながらか子ども達の様子を観察し、必要に応じて援助した。

また、職員の方の援助の工夫を見て学び、活動の狙いを考察したり質問をしたりして理解を深めた。

### 2. 実習の目標と達成状況

実習目標で設定した2つの目標を毎日意識しながら実習に取り組んだ。

1つ目は、職員の方の工夫を学ぶことである。具体的には子ども達が楽しめる、集中して取り組めようにどんな環境構成をするのか、どんな言葉掛けや関わり方をするのかを学ぶことである。個人差を考えて一人ひとりに合った保育者の言葉掛けや援助の工夫、園外に出かけて普段とは違う環境や子ども達が遊び込めるような空間づくりなどの環境構成、子ども同士のトラブルの際にしっかりと両者が納得いくように話をまとめる仲裁の仕方、子ども達が安全に楽しく過ごせるように保育者同士の連携、就学を意識した取り組みなど多くのことを学ぶことができた。

その中でも特に意識して理解を深めたことは、就学を意識した取り組みである。日々の生活の中で自分の身の回りのことは自分で始末できるように声掛けをしたり、やり方を知らせたりすること、学習の時間には正しい姿勢と正しい鉛筆の持ち方を知らせ真剣に静かにするということを頑張りながら集中して取り組めるようにしていること、食事の時には椅子の座り方や食器をもって食べるといった食事のマナーを知らせること、園外に出かけるときには安全に過ごせるように約束事を守ることや地域の人に挨拶することを知らせること、これらを子ども達に伝えるための言葉掛けや援助の工夫と子どもの頑張った姿を認める大切さを学ぶことができた。

2つ目は、現場の子ども達との関わりの中で子ども達の反応や関わりの工夫を学び、自分の今後の課題を見つけることである。実習初日から子ども達と積極的に関わることを意識して、遊びの様子を観察し子ども一人ひとりの特徴を理解できるように努めた。最初は寄ってきてくれる子との関わりが多かったが、保育者の助言から遊びたいと思っても自分

から声を掛けることができない子もいるということを知ることができたので、それからは子ども達の様子をみて色々な子どもと関わるように心掛け、どの子とも自然に関わることができて、少しずつ子ども一人ひとりの特徴を理解することができた。その結果、その子にあった声掛けや援助の工夫がわかり、自分なりの保育を行うことができた。

また、部分実習と責任実習を通して、どの場所からも絵本や手遊びが見えやすいかどうか子どもの視線を考えること、難易度や運動量、ルールが複雑すぎではないかなど年齢に合った活動を考えること、本番を見据えて実際の場所での活動のイメージをすること、子ども達が混乱したり、他のことに気が散ったりしないように次の指示や活動を展開するなど様々な課題を見つけることができた。部分実習と責任実習を行った日には保育者に反省会の時間を設けてもらい、やってみて自身の上手くいった点と改善点を話した後、保育者から助言や指導を受けて、主観では気が付かなかったことや保育者の工夫を知ることができ、改めて自分の技術と今後の課題を明確化することができた。

### 3. 実習で学んだこと・反省点・今後の課題

実習での一番の学びは運動遊びの時の職員の援助の工夫である。以前から運動遊びに興味があり、実習以外でも授業などで何度か学生を対象に運動遊びを実践していた。そのため、今回の実習では運動遊びの時の職員の援助の工夫についてより理解を深められるように学ぶようにした。

今回の実習園では保育者の企画する運動遊び以外にも、外部講師が来て行う体育教室もあり様々なことを学ぶことができた。まず説明の仕方では、子ども達が理解しやすいような言葉はもちろん簡潔にわかりやすく身振り手振りをつけながら知らせることや子ども達がちゃんと理解できたか確認することを行っていた。次に活動中には安全に行えること、子ども達がルールを覚えて守って行うことなどに気をつけながら言葉掛けをしていた。最後に保育者や外部講師は活動中に子ども達全体に視野を持っていて、子ども達の動きや反応を逃さず拾い上げていたことが特に印象的で身につけたいスキルだと感じた。

反省点は、責任実習での運動遊びの時に本番を見据えた実際の場所での事前のシミュレーションと様々な予測が足りず、年齢に合わない運動量で活動を始めてしまい子どもに無理をさせてしまった。また、全体に向けてルールの説明をしたが理解していない子がいて、その子への援助が足りなかった。休憩が終わった後の指示をしてなく、子ども達は好き勝手に遊び始めたり、何をしたらいいのかわからず混乱したりした。その結果、全体的には楽しい活動ができたが個々でみると適した運動量でなかったり、ルールの理解に時間がかかった子がいたりして、みんなが楽しめた活動ではなかった。

今後の課題としては反省点であげた現場での事前のシミュレーションや様々な予測、全体だけでなく個々にも気を配れるような広い視野を持てるようになることである。そのためには、座学だけでなく現場での子ども様子や活動を知っておく必要があると思うので、ボラティアなどで現場での経験を積み、技術を身につけたい。また、これまでの実習日誌を見直して、今までの実習で学んだ保育者の技術や工夫を改めて理解する。

## 幼稚園実習報告書

FF2016-079 高師萌珠

実習先：茂原市ふたば幼稚園

### 1. 実習で取り組んだ内容

年少に4日間、年中に7日間、年長に9日間の合計20日間に渡り実習を行った。1日の流れは、朝礼・掃除を済ませ、いつでも子どもたちを迎えられるように準備を行った。天気によって準備するものが変わり、雨の日はタオルを多めに用意、天気のいい日はテントを用意して戸外遊びの環境を整えた。子どもたちが登園してから、自分は主に子どもたちと戸外遊びをして子どもたちの様子や保育者の動きなどを観察していた。子どもたちとただ遊ぶだけではなく、鬼ごっこをするにも全力で子どもたちと鬼ごっこをしたり、虫探しも子どもたちと一緒に探すなど、何をするにも全力で子どもたちと関わることを意識して取り組んだ。活動時では、全体の様子を見て、進みが少し遅れている子がいれば一緒に進めたり、分からない事を聞きに来た子にはできる限り分かりやすく説明したり見本を見せるなどをして最後まで自分たちで進められるようにサポートをした。英語指導では一緒に発音練習をし、体育指導では一緒に活動するなど子どもたちと同じ視線からも見るように取り組んだ。昼食時は子どもたちと会話を交えながら楽しく食事をし、子どもたちにとって食事が苦にならないように言葉を考えて声掛けを行った。

部分実習ではまつ1組の年長さんでだるまさんの1日を行った。その後、先生方からの提案で小学生のころからやってきた剣道を子どもたちに披露してほしいと話があったため、2回に分けて子どもたちに剣道を披露した。対象の子どもは年長のまつ1組とまつ2組で行った。1回目は礼儀作法と素振りを子どもたちに見せ、その後礼法について子どもたちに説明し一緒に礼を行った。次に剣道で使う防具の説明をしてその日の部分実習は終わった。2回目は双子の弟に協力してもらい、素振りと防具を着装し、技、打ち合いを披露した。

### 2. 実習目標と達成状況

実習を行うにあたり以下の2つの目標を立てた。

1つ目は子ども達への声掛けについてと活動や遊び時、どのような声掛けで子ども達の興味・関心を引いているのか、又、支援方法としてどのような工夫がされているのか学ぶことである。2つ目は保護者への支援について幼稚園ではどのような保護者支援を行っているのか、保護者との関わりについても実際に見て学ぶことである。

1つ目の達成状況として、子ども達への声掛けについては声の大きさを変えて活動の説明をしたり机を出して道具を用意して子ども達に見せながら遊びを始めたり、ピアノを使ったりなどをして、保育者一人ひとり違うやり方で工夫していることを学ぶことができた。又、子ども達への興味・関心を引くためには、一つひとつ活動・行動をするに対してもだらけないように子どもたちが飽きないように20分ごとに活動内容を変えるなどして工夫していることも学ぶことができた。

2つ目の保育者支援では、保護者との信頼関係を築くためにも丁寧に礼儀正しく行うこと

も一つの方法であることを改めて学ぶことができた。あまり保育者と保護者とのやり取りや支援については観察することができなかったが、朝の保育者と保護者の様子を見て保育者は必ず保護者の方と子ども達が見えたら一度その場に止まり、しっかり頭を下げた挨拶をしていた。その姿を見て、どんなに保護者の方が忙しくても保護者の方も笑顔で挨拶を返していた。その一つひとつの行動を丁寧に行っているためか、保育者からのクレーム・問題などほとんどないことを聞くことができた。

### 3. 学んだこと、反省点、今後の課題

学んだことは、2つある。まず1つ目は、専門指導員を呼んだり教材を使ったりなどをして子ども達の伸びしろを刺激し、保育者が子どもたちの能力を最大限に引き延ばせるよう支援していることを学んだ。Si 遊びやジオパズルでは、保育者は子どもたち自身で考える力を妨げないよう勧めていた。Si 遊びは、正解を出すことではなく答えを自分で導き出す過程を大切にしており、自分で考える力こそ生きる力に繋がるのではないかという意味で行っていた。小さい頃から正解に拘らずに、自分で考える力を身に付けていれば、自ら先の事を考えて行動できる人材になるのではないかと考える。実習園では大人になり社会に出てから何が必要とされるのかをも考えながら慎重に教材選びをしていることを知ることができた。

2つ目は、活動時はメリハリをつけて行うことである。具体的には、自由活動をするときと、集団活動をするときなどの判断を子どもたち自身で行い、状況に応じてその場に適した行動をすることである。そのためには保育者も声掛けや行動で子どもたちに手本を見せなくてはならない。実習園では遊ぶ時はおもいきり遊び活動時ではきびきび行動すること意識して取り組んでいた。これからの社会では切り替えの早さが求められていくと考える。そのための土台作りとして子どものときから身に付けていくという園の方針には自分自身にも実習中に日頃の行動を考え直す期間があった。

反省点は、部分実習時になんとなくはじまりなんとなく終わってしまったたり、予定よりも早く終わってしまったたり、年長にはとても簡単な活動になってしまったなど、時間配分や内容の濃さ、活動時のメリハリなどもう少し考えて行うべきであったことである。いきなり部分実習を行うのではなく、リハーサルを行ったり先生方と相談をするなど前もって準備すべきだと思った。1回目の部分実習に挑むための準備が全体的に不足していたと考えられる。剣道の部分実習では、子どもたちにわかりやすく説明しようとしたが、どう説明したらいいか分からなくなってしまい言葉が詰まったりしてしまったのでその部分も改善しなくてはならないと思った。礼儀作法や防具の説明など、何を伝えたいかをある程度まとめておくことで子どもたちにも伝えやすかったのではないかと考える。

今後の課題として、自分自身の行動を素早くメリハリをつけて物事を進められるように普段の生活から意識して過ごしていこうと思う。言葉遣いにも気にしながら、相手にどう伝わるのかも考えていこうと思う。

## 幼稚園実習報告書

FF2016-086 内藤慶

実習先：東金市立大和幼稚園

### 1. 実習で取り組んだ内容

私が、実習4週間で取り組んだ内容は観察実習、部分実習、半日実習、一日実習、精練実習である。

観察実習では、3歳、4歳、5歳とすべてのクラスに入り、活動の違いや発達の応じた援助などの観察をした。部分実習では、手遊び、絵本、歌、登園時指導、給食時指導、降園時指導と徐々に時間帯を増やしてもらい、行った。最初に行った手遊びと、絵本の読み聞かせでは、絵本に関係のある手遊びをした。次に行った、歌の部分実習では、6月の課題曲である大きな古時計を弾き語りした。登園時指導では、登園時の挨拶をしっかり行い、園児たちの体調などを視診した。また、その日に行う活動に期待が持てるような声かけを行った。給食時指導では、苦手なものでも挑戦して食べてみようと思えるような食育を行った。降園時指導では、一日の振り返りが出来るように活動の感想などを聞いたり、話したりした。半日実習では、給食時指導から降園、登園時指導から給食時指導と分けて行った。一日実習では5歳児クラスで傘袋と紙コップを使った制作を行い、精練実習に備えた実習をした。精練実習では、一日実習での反省を生かし、紙コップを使ったけん玉づくりを行った。

### 2. 実習の目標と達成状況

私の実習目標は、職員同士の連携をしっかりと観察し学ぶこと、活動を行う中で園児たちが活動に飽きないためにどのような工夫がされているか学び、それを責任実習で生かすことであった。

1つ目の目標については、園児たちの安全を守ったり、園児が楽しんで生活を送ったりするために職員同士の連携は大切であると学ぶことができた。例えば横断歩道がないところを園児たちが渡る際、まず補助の職員が車の来ていないことを確認し道路の真ん中に立ち、それを担任の職員が確認してなお安全に渡れるように連携をとっているのだと感じた。

2つ目の目標については、活動を行う中で園児たちが活動に飽きないよう、導入で期待を十分に持たせることの大切さを学ぶことができた。そして活動中には頑張っている園児たちを褒め自信を持たせていくことが大切であると学ぶことができた。自信を持たせるとともに、周りの子に次は自分が褒められるなどと思わせるようにしていくことが大切であると感じた。責任実習では、学んだことを活かし、活動にスムーズに入れるように活動に関連のある導入をしたり話したりして取り組むように心がけた。しかし導入で期待の持たせ方が甘く、園児たちが楽しんで行える活動でも戸惑ってしまう場面があった。また、スムーズに入ることを意識してしまい話の流れを無理やり活動に持って行ってしまった。そのため興味を持たせるような話術が私には足りないと感じ、もっと話術を学んでいくことが必要であると感じた。

### 3. 実習で学んだこと・反省点・今後の課題

私が実習で学んだことは、自由な遊びの時間と活動の時間の区切りをきちんとつけて、かわることである。例えば、活動の時は真面目な顔で指示や声掛けをし、しっかりと聞いていることを確認する。自由遊びの時は、園児たちとともに笑顔を絶やさず楽しく一緒になって遊ぶ。この時間の区切りをつけること大切だと感じた。また園児に話すときに、大きい声で引き付けたり、逆に小さい声で集中させたりと、話術を身に付けることも教師の資質の一つであると感じた。

次に、園児と親しく接することは大切だが、指導者である立場を常に意識しておくことが大切であることを学んだ。例えば、園児同士のトラブルがあったときは、しばらく見守り自分たちで解決できそうにないというタイミングを捉え、声をかけ、一方的に良し悪しをつけるのではなく、双方の話をしっかり聞いて自分はどうだったのかを考えさせる。そしてお互いに納得できるような解決策を講じることが大切であると感じた。実際トラブルがあり、双方の話をしっかり聞くとお互い悪いことや、自分が悪かったことなどが話をしているうちに園児たち自身で気づき、解決につなげることができた。お互いが納得して解決していくことができるように話しを聞くことはとても大切であると感じた。

反省点として挙げられるのはピアノ伴奏である。私は、ピアノ伴奏がとても苦手でピアノを弾くことに必死になってしまい、伴奏しながら園児たちの様子を見ることができず、十分な指導ができなかった。また、責任実習などで行った活動の練習がおろそかになってしまったことが反省点である。工作の活動の際、話すこと、活動を進めることなどに必死になってしまい園児たちを見ることができている時があった。そのため、園児たちが活動を最後まで集中して行うことができていなかった。さらに目配りができていなかったことも反省点である。自由遊びをしている際、個々の園児とかかわり楽しく遊ぶことはできても、全体に目を向けどこで誰が何をしているか、危ないことはしていないかなどを見るができなかった。

今後の課題として一つ目の反省点については、活動はあくまで園児たちのための活動であることを意識し、苦手だからという理由をなくしピアノ伴奏の練習に励み。園児たちが自信をもって歌えるように率先して声を出してより良い活動にしていくことである。また二つ目の反省点については、前もって予行練習を行い、園児たちの予想外な行動・発言にも動じず、対応しながら活動がスムーズに進められるように、心の余裕を持つておくことである。さらに三つ目の反省点については、複数のことを同時に行えるようなゆとりと、心配りをしていくことである。教室で遊ぶ園児もいれば廊下で遊ぶ園児もいる。園児がけがをせず遊べるように私が教室の園児と遊んでいるときは、廊下の園児に視線を送ることで見ていることを伝えることで度が過ぎた遊びがなくなり楽しく遊べると感じる。

## 幼稚園実習報告書

FF2016-091 藤田まどか

実習先：学校法人小川学園 土気中央幼稚園

### 1. 実習で取り組んだ内容

5歳児クラスを中心に、観察実習や部分実習、精練実習を行い、4歳児・3歳児クラスでは、観察実習と部分実習を行った。その他、キッズルーム（預かり保育）を年長・年中・年少と全て参加し、おやつの前後の紙芝居の読み聞かせを行った。

実習1週目は、他実習生の集大成の週であったこともあり、観察実習がメインであった。そこで他実習生と子どもの関わり方・保育者と子どもの関わり方それぞれをよく見て学ぶことができる良い週となった。私自身、子ども達を知る探りの週でもあった。主に制作活動の援助を行った。4日目には、年中のクラスに入り、手遊びや絵本の読み聞かせ、給食の配膳の援助を行った。2週目からは、朝の活動や給食の挨拶、帰りの活動の進行の援助とピアノ伴奏を担当した。その他、姉妹幼稚園との交流会でリレー対決を行い、子ども達の誘導や援助をした。3・4週目は、活動時の援助や手遊びを行った。また、第3週の15日目には精練実習を行い、七夕の吊るし飾りを作った。

### 2. 実習目標と達成状況

今回の実習の目標は、1)子ども達一人ひとりに対しての関わり方の違いや工夫の仕方を学ぶこと、2)発達や年齢に合わせた環境構成の仕方を学び、活動の発展に繋がるような環境を子ども達に提供する、であった。

一つ目の目標については、子ども一人ひとりや個々のその時の感情に沿った援助をするためには、どのようなことを意識して言葉を選んだり、声を掛けたりするのかなどを考えることの重要性を学んだ。しかし、実際にトラブルが起こった際、どこまで介入して良いのか、どのように話したら双方が納得できるのかなど、その日その子どもの気持ちによって関わり方が異なるため、答えのない問題に葛藤する毎日であった。双方から話を聞いていても、次の活動が始まり、話が終わらないうちに、席に戻ってしまうといったことが多々あった。また、目の前のことだけに集中してしまい、周りが見えなくなることも多かった。そのため、近くでトラブルが起きてもすぐに気が付けなかったり、介入してもお互いが納得できるまで話を聞いてあげられなかったりした。直前の出来事しか聞き出してあげることができず、その前にどのような状況であったのかまで、ひとつずつ振り返ることができなかったことが、ひとつの原因だと感じた。一方で、今回の実習では主に5歳児クラスに入っていたこともあり、子ども達との関係やそれぞれの性格などを理解しやすい環境にあった。自然と子ども達との会話も増え、たくさん関わることもできた。

二つ目の目標については、年少や年中クラスに入った際に、年齢によって掲示の仕方が異なることを学べた。例えば、身支度に必要なものであれば、年少はひとつずつ買い物形式で楽しく支度ができるように、イラストを見ながら保育者の声掛けに合わせて行っていた。年

中では、同じようにイラストと文字が書かれており、少しずつ平仮名を取り入れていた。発達に繋がるような環境を提供することに関しては、決められた期間の中で行うことは難しく、子ども達の気持ちを優先することが多く、実践で取り組むことはできなかった。

### 3. 実習で学んだこと・反省点・今後の課題

実習では、声掛けの工夫と保育者と子どもの関わり方を学んだ。私自身、声を通る方ではなく子ども達の声にかき消されてしまうため、大きな声を出して注意を引くことは容易でなかった。そこで、保育者から頂いた助言を用いて、子ども達が気付くまで黙ってみたり、小さい声で話してみたりした。声色に表情をつけることで注意を引くことができ、話にもメリハリをつけることができるということを実感した。

また、保育者は、子ども達自身で物事を解決しようとする姿勢を傍で見守っていた。それでも解決しない時には、お互いの行動をひとつずつ振り返り、確認していた。そうすることで子ども達も自分が何をしていたのか、なぜそうなったのかななどを思い出し、整理ができるため、友達とも自分とも向き合えるということを教えて頂いた。

一つ目の反省点は、ピアノの練習不足が挙げられる。実習前に楽譜が配られ、練習をしていたものの、実際に子ども達の前で弾くイメージができていなかった。教室の後ろから見ていた雰囲気とは全く異なり、実際に子ども達の前に立つと無意識に緊張していた。子ども達の歌に合わせると全く弾けず、担当クラスが一番大切にしている挨拶がきちんとできない日もあった。ピアノに対して自信がなく、不安や緊張がピアノの音に反映し弱々しい伴奏になり、子ども達に私の気持ちが伝わってしまうことを痛感した。

二つ目の反省点は、「報告・連絡・相談」の欠如が挙げられる。3歳児クラスで外遊びをしている際、平均台に座ろうとした男児がバランスを崩し、後ろに倒れ頭を打ってしまったことがあった。軽くだったものの、頭を打っていたのでその場に座らせ、近くにいた子どもにグラウンドにいる保育者を呼ぶように伝えた。偶然、教室から出てきた保育者が子どもから話を聞き、すぐに対応して頂いた。対応してもらえた安堵から、グラウンドにいた保育者にその旨を伝え忘れてしまった。その結果、保育室に戻り、次の活動に入っている時に子どもから頭を打った男児がいないと言われ、その場にいないことに気が付き、探す、といった事態が起きてしまった。

今後の課題として、これらの反省点から保育者として現場に立つことを忘れずに、1)「報告・連絡・相談」をきちんと行えるように、日ごろから意識していくこと、2)子ども達の前で自信を持って行い、活動を子ども達と一緒に楽しめるように、年齢や発達について復習し、ピアノの練習をすること、3)小学校との接続があることを見据え、ねらいや目標を立て活動に取り組むこと、を意識していきたい。

今回の実習を通して、保育を行う楽しさや難しさを、身を持って体験することができ、改めて保育者という職業に魅力を感じた。これまでの保育所実習などで学んだことも含めて現場で発揮できるよう努め、これからも真剣に保育と向き合い、挑戦していきたい。

## 幼稚園実習報告書

FF2016-096 門馬瑞希

実習先：学校法人 志賀学園平第一幼稚園

### 1. 取り組んだ内容

今回の実習では、3歳から5歳児のクラスに1日ずつ入り、最後の2週間は責任実習の5歳児のクラスに入った。全てのクラスで部分実習を毎日行った。部分実習では、絵本の読み聞かせ、朝・お昼・帰りのお集り、ピアノ伴奏、エプロンシアター、手遊び、クイズを行った。それぞれのクラスでは、ファミリープレーダーの補助、給食の配膳、制作活動の補助、ピアノ伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊びを行った。

3, 4歳児の実習では、クラスの流れの沿って一緒に活動をしなが、主に子どもたちの見守りをした。異年齢保育では、年齢や発達に応じた援助をしなが一緒に活動をした。5歳児で行った責任実習では、1日は保育者として活動をし、主活動では「宝集め鬼」を行った。また、子どもたちと関わるだけでなく、環境の整備を行った。毎朝、理事長室、ホール、階段、玄関の清掃、放課後はトイレや廊下の清掃を行った。保育者や子どもたちが過ごしやすいように丁寧に清掃した。

### 2. 目標の達成状況

今回の実習目標は2つある。第一に、子どもたち1人ひとりに合った声掛けや子どもの興味関心を持つような援助の仕方、遊びのバリエーションを学ぶ、第二に、実習生から全て遊びを提案するのではなく、子どもの発想を生かせるようにする、である。

第一の達成状況については、一人ひとりに合った声掛けの工夫の大切や絵本やエプロンシアターを行うポイントを実践的に学べたため達成できたと考える。父の日の制作活動の時、子どもたち1人ひとりのペースを大事にして、それぞれに合った声掛けをし、達成感を味わえるような声掛けをしていたことが勉強になった。また、手遊びと絵本、エプロンシアターでは、途中で飽きてしまう子や友達とおしゃべりしてしまう子に対して、その子の名前を呼び、集中する方向を自分の方に向けたり、ページを向けるときは、一言添えたりして子どもの興味が持てるような工夫のしかたがいくらかもあるということが発見できた。自分が好きな本を一冊でもあった方が子どもたちにも読み方で、自然と伝わると思った。

第二の達成状況については、子どもたちの発想を生かせるようにするためには、子どもたちが遊ぶ様子や友達との関わり方をしっかり把握し、促したりするということが大切であるということ学べたため達成できたと考える。ある日、手形ハンコをしているとき自分の手形を見て、Sさん、Mさん、Hくん、が「みんな、違う色だね。みんなの手が妖怪みたい」と言って妖怪ごっこを始めた。そのあと、手を洗っても色が残っていたようで、自分の手を妖怪に見立てて遊んでいた。遊びや活動の中での、子どもたちの想像は豊かなので、子どもたちの発する一言一言を大切にしていきたい。子どもたちが作る世界観を尊重しながら保育していきたいと思う。また、子どもたちの会話に耳を向け、適切なタイミングでその時に必要な物や言葉を促す必要があると思う。

### 3. 実習で学んだこと・反省点・今後の課題

今回の実習では、自ら率先して仕事を見つけ明るく笑顔で子どもたちと積極的に関わることができた。子どもたち一人ひとりに性格や個性があるため、その子に応じた声掛けの工夫が必要であると学んだ。実習生に甘えてくる子どもたちに、全て承諾してはいけない。そのため、1歩引いて見守ったり、具体的な声掛けで励ましたり、そこ子が頑張っているところを見て、出来たことを共に認め喜び、褒めることでその子の自信になるということを学んだ。保育者は常に、子どもたちの会話に耳を傾けながら、適切なタイミングで、その時に必要な物や言葉を提供する必要があると思う。

責任実習と部分実習を行い、担任として「今から〇〇します」とはっきり伝えるとき、子どもたちに「〇〇するの?」と問いかける場面など、その場の状況をしっかりと判断してメリハリのある言葉掛けをする必要があると学んだ。実際に担任になってみると、見る視点が違い子どもたちの見え方が変わるのはもちろん、援助の仕方や関わり方が具体的に、頭を悩ますことが増えた。その際、年齢や発達、その子のその時の状態に合わせた言葉掛け、働きかけをどのようにするかなど、臨機応変に行動し状況判断することの大切さを学んだ。責任実習の「宝集め競争」では、普段同じように行っている活動でも、少しアレンジを加えることでまた違った子どもたちの姿を見ることができた。競争とは言っても、ただ早いだけではいけないこと、仲間を応援することの大切さや相手を思いやる気持ちなど多くの経験をするのできなのかなと感じた。一つひとつの活動においても、まずは先生が「楽しい」という気持ちで活動を楽しむことで、子どもたちも「やってみたい」という気持ちになると気づくことができた。他に気づいた点として、ゲームをしている際トラブルが起きると、子どもと一緒に考えてみるという方法をとったが、これでは、せっかく楽しんでいるところに水を差し、子どもの意欲を削いでしまうことに繋がると思った。そうならないためにも、ルール設定は事前に説明しておくことや実際にゲームを進めていき子どもたちの様子を見て、新しいルールを加えていくなどをして、遊びの幅が広がるような援助をしていくべきだと思う。

反省点は、全体に対する言葉掛けばかりしていたように感じ、個々に対する声掛けや細かな配慮が欠けていたことだ。「まず、全体を進めていかなければならない」という思いで精一杯だった。そのため、主活動から外れてしまう子や別の遊びを始めてしまう子への配慮が欠けていた。また、子どもの前で話をする際、素早く判断して、保育者としての立ち位置を決められるようになれば、子どもの活動を途切れることなく進めることができたと思感した。

今後の課題としては、クラス全体に呼びかけて次の活動を展開しながらも、集団活動から外れてしまう子どもにも、適切な言葉掛けができるようになることだ。そのためにも、あらかじめ子どもの姿を具体的にイメージして活動を考えていく必要がある。また、予想していなかったことに対して臨機応変に対応していき、自分の保育観をよりよくするために、目配り、気配りを意識して学びを続けていきたい。

実習校 東金市立城西小学校	実習期間	令和元年6月3日～6月21日
	学籍番号	NS2016-012
	氏名	齊藤 明奈

「養護実習目標に基づく実習の学びと課題」

実習校先では、学校教育目標や、めざす子ども像を達成するため、「健康で安全な生活を送るために必要な習慣や態度を養い、心身の健全な発達を図る」ことを学校保健目標としている。また、特に重点目標においては「(1) 自主的に健康管理の出来る子どもの育成①基本的な生活習慣を身に付けさせることにより、生活習慣を予防し、生きる力を育てる。②健康診断等で自分の身体を正しく知ることにより、自分と友達、物や動植物を大切に想う心の育成。(2) 学校生活環境衛生の整備改善の強化①トイレ・手洗い場の清潔、消毒管理の徹底。廊下・階段の埃除去。感染症予防のための常時換気。②校内、通学路の安全に配慮し、安心、安全な環境を維持する。」としており、これを達成するために様々な保健活動が行われていた。

(1) の自主的に健康管理の出来る子どもの育成については、朝の挨拶の後に担任の先生が実施する健康観察カードにおいて児童の今日の健康状態を知るだけでなく、ティッシュとハンカチを持ってきているかについても一人一人確認してもらうようにしてもらうことで、ティッシュ、ハンカチを持ってくることを児童が意識し、習慣化できるようにしていく等の活動があることを知った。また、担任の先生にも膨大な仕事があるため、健康観察カード時にティッシュ、ハンカチ確認を実施する等、何かと同時進行に行うことも効率良くするための工夫が必要と知った。

また、健康診断の際、事前に児童に対しピクトグラムを用いて健康診断の項目や内容、結果の見方を説明することで、場合によっては健康診断に対する不安も軽減されることや、児童が自身の身体について知ることができる。さらに、健康診断の結果から、養護教諭として健康問題を抽出し、健康教育や保健指導を通して、児童が周囲の友達を思いやれるように活動していくことが重要となってくると考える。

(2) 学校生活環境衛生の整備改善の強化については、校内巡視で児童の様子を観察しながら換気を行うことやトイレ・手洗い場の清潔状態の確認、清掃や消毒の確認、廊下・階段の埃を除去することは、感染を防ぐために基礎的なことであるため、養護教諭は学校に来てまず実施することが必要である。実施後は、例えば〇年〇組のトイレの清掃ができていない、階段下の埃が除去されていない等、把握し、掃除担当の先生や児童に対し、掃除の重要性について伝えることや、保健委員会にポスターの掲示をしてもらう等の活動を行ってもらい、担任や児童も意識して感染を誘発する因子を除去するように行動していくことが必要であると知った。

その他にも、児童と健康状態の把握や健康問題の対応にあたり、養護教諭としての役割について学んだことがある。

まず、来室した児童の健康状態の把握の際には、児童の来室時、問診カード(ケガの記録、病気の記録)を用いて問診を行うことで、その日の来室状況や、過去のデータと比較して児童の健康状態を把握することができることを知った。

問診カードは、児童により自分で記入できるところは、記入してもらうことで自身の傷病のことを冷静に考えられることに繋がると考えた。

全体の児童の健康問題を把握するためには健康観察カードの集計が必要であり、欠席者や健康状態を記入するようにし、欠席表には○年○組、名前、欠席理由を記入し、管理職に報告することで学校全体でも把握し、長期欠席している児童については職員会議において校長・教頭先生・学年主任・クラス担任・養護教諭・カウンセラー・相談員・言葉の教室の先生と連携をし、今後の対応について検討することが必要となることを知り、チーム学校として児童を把握していくことが養護教諭として活動していく上で重要となる。

学校医との連携においては、養護教諭は学校医がより効果的に健康診断が行えるようにするため、事前に保健調査や保護者からの情報提供で児童の健康状態を把握し、学校医に報告・相談することや、必要となる物品の準備、診断の結果受診が必要となった場合、保護者にその日に連絡することが必要となる。また、養護教諭だけでなく管理職や保健主事、担任とも連携し、学校全体として健康診断に取り組むことが必要となる。そして、健康課題を把握し、健康教育へとつなげていくことが役割の1つとして求められると考える。

学校薬剤師との連携においては、児童がプールで安全かつ衛生的に泳げることができるよう、病原性のウイルスや細菌が持ち込まれた場合を想定して、感染を予防するためにプール水が常時消毒されている必要がある。そのため、学校薬剤師と連携し、遊離残留塩素濃度だけの検査だけでなく、水素イオンや濃度過マンガン酸カリウム消費量、大腸菌、一般細菌について検査の実施がされていた。

水質検査の結果、プール実施可能となった際の養護教諭の役割として、水泳前の健康管理においては、手紙を保護者に配布し、水泳の授業の参加の有無や保護者から注意してほしいことについて記入してもらうようにすることや、プール学習について保健日より保護者や児童に伝え健康管理を意識してもらうこと、水泳授業当日の朝の児童生徒の健康状態を把握するために水泳のための「健康観察カード」を作成し、保護者から児童の健康状態をこのカードで通知してもらい、それを担任の先生や養護教諭が把握し、水泳による健康被害を防ぐようにすることが必要となることを知った。

日々の児童との関わりについては、業間休みや昼休みなど同じ時間に来室する複数の児童に対し、保健室内でもトリアージを行うことで冷静に対応できることに繋がることや、学校にいる時だけの情報を取捨するのではなく、来室する児童に対し、コミュニケーションを通して児童の家庭環境(食事内容、両親のこと、兄弟、習い事、休日の過ごし方等)についても情報収集することが児童の健康問題の背景を知るために必要であることを実感した。

児童の対応については、来室する児童に対してただ処置をするのではなく、児童に合わせた安心できる声かけをし、興奮状態を落ち着かせ、傷病の経緯について質問することを同時

進行で行いながら把握し、対応することが必要であることや、傷病の程度(擦り傷など軽傷病)から児童の理解度に合わせて、児童自身が出来る対応について根拠をもって説明することが、児童が健康行動を習得できるきっかけになることを知り、全て養護教諭が処置するのではなく場合によっては児童ができることはやってもらう(例：グラウンドで転び、擦り傷を生じている児童に対して、膝の砂はそのままにするのではなく水道で洗ってから保健室にくるなど)ことで、児童の健康に対する意識も向上することを学んだ。

また、養護教諭は保健室に籠るのではなく校内巡視や登校時、下校時に参加し、直接養護教諭が児童の様子を養護教諭の視点から観察し、児童の心身の状況を学校全体として把握していくことが必要となる。

他には歯科検診などの結果から、保護者に連絡した後に治療のために受診しているか等の確認を行い、児童の家庭環境についても知るきっかけとなることを知り、様々な保健活動が児童のことを把握するために重要となることを知った。

さらに、児童の健康問題に対しては他の教職員との密な連携が必須である。その理由としては、保健室に来室した児童や長期欠席の児童について等、普段クラスにいる時と保健室にいる時の児童の様子は違うため、クラス担任やスクールカウンセラー、相談員、ことばの教室の先生等と密な連携をとり、互いの専門的な視点から情報共有をすることで、今後の児童の健康問題の対応について検討していくことに繋がるからだ。

学校全体として重要視された健康問題に対しては、保健主事や保健委員会とも協力し、児童自身が健康に対し自主的に行動できるように保健委員会に現在の学校の健康問題を養護教諭が説明した上で手洗いや歯磨きの大切さについてのポスターを作成し、掲示してもらうようにする行動を取り入れることが必要である。

感染予防での養護教諭の役割としては、学校欠席者情報のシステムを入力することが決められており、その内容は、ただ欠席者数を入力するだけではなく、感染症による欠席者も入力しなければならない。このシステムを使用することで、自身の学校の感染状況について把握し、その後の保健活動について計画することが必要であることや、千葉県の公立の小学校・中学校についての感染状況についても入力されていることから、小学校付近の感染状況を把握することができ、地域の感染症の流行について予測し、感染症の早期対応として保健だよりや保健委員会、保健指導等の保健活動で早期に対応していくことが重要と考える。

保健指導については、保健指導の実施の準備として、まず健康問題を把握するため実態調査を実施することや、普段の様子について、保健指導を行うクラス担任から情報を収集し、保健指導の際の工夫点や留意点として取り入れられるようにすることが準備として必要である。

また、その学年に合わせて実施することは児童が理解してもらうために重要なことであり、クラス担任と協力しながら、分かりやすい言葉選びや、教材の工夫や授業の進み方、対応について計画し、ティームティーチング(TT)の方式で実施していくことが重要である。

保健指導を実際に実施し、授業の工夫として、そのクラスの実態調査を掲示しながら発表

することで、児童が興味、関心を持ち、そこから今回の学習課題へとつなげることで、児童もこれから学ぶことに対しての必要性を感じることができると知った。

また、ただ紙芝居を読むのではなく途中で紙芝居を閉じて児童に考えてもらう質問をするなど、児童が自主的に考え、発言できるようにすることや、その発言や様子から児童の理解度についても確認をし、授業を進めていくことが児童の理解を促すためにも重要だと学んだ。

保健指導の実施後は、児童が日々の生活の中で習慣化できているか、健康問題が解決できたのか評価すること、すなわち PDCA サイクルを行い、保健指導がより良いものとなるようにしていくことが必要であるため、今回の保健指導を実施し、養護教諭やクラス担任、その他の教職員からの指導や意見や、学生同士でも保健指導で実施したことについて意見交換を行いながら、振り返っていきたい。

最後に、実習を通して、今後も求められる養護教諭としては、以下のことだと考えた。

1つ目は、児童の健康問題に対し、どのような背景があるのかを把握するために、一人一人の児童に関わることが必要であり、また、児童から信頼されるようになるために、児童に合った対応が出来る養護教諭であることである。2つ目は、健康問題を抱え込みながら、保健室に来室できない児童を発見することや、来室した児童のその後の状態を把握すること、学校全体としての状況を把握するため、保健室から学校全体に働きかける、発信していく養護教諭であることである。3つ目は、他の教職員の心の状態が不安定であることで、児童にも影響が生じてしまうため、児童だけではなく、担任や他の教職員に対しても養護教諭が心のケアを行うことが必要かつ重要ということを知り、学校全体の状況についても把握し対応できる養護教諭であることが求められること知った。

以上のことを、今後養護教諭を目指す上で、これらの学びや能力を取得するためには、養護教諭や看護師としての専門性を日々高めていく必要があるため、今後も学習していく中で、養護教諭の実習のことも振り返りながら、関連づけて学びを深められるようにしていきたい。

実習校 水戸市立寿小学校	実習期間	令和元年5月25日～6月14日
	学籍番号	NS2016-021
	氏名	棚谷 由衣

「養護実習目標に基づく実習の学びと課題」

私が3週間養護実習を行った実習校は、男子331名、女子319名、計650名という児童数の多い小学校であった。学校目標は、「夢を持って、自ら学び、心豊かで、たくましく生きる児童の育成。主体的に学び、ともに高め合い、粘り強くやり遂げる姿を目指して」である。また、学校保健目標は、「健康的な生活習慣を身に付け、実践しようとする態度を養う。安心安全な学校生活を送ることのできる環境の整備を行う。」重点目標としては、「家庭と連携し、望ましい生活習慣の確立を図る。緊急時の校内救急体制の確立と事故の未然防止」が掲げられていた。児童数が多い中でも児童の健康課題を導き出し、養護教諭として何ができるのかを日々考えながら保健室経営をしていく重要性を感じた実り多い3週間の実習であった。

大学の養護実習目標として、大きく6つの項目が挙げられていた。実習目標1は、学校教育、学校保健活動における養護教諭の位置づけと役割を理解する。実習目標2は、学校教育活動及び学校保健活動における養護教諭の機能と活動内容を把握する。実習目標3は、児童生徒の心身、生活の現状、健康問題の特徴を理解する。実習目標4は、児童生徒の心身の健康問題に対して適切な処置、保健指導、健康相談活動を行う基礎的能力を養う。実習目標5は、学校教育において保健教育、保健指導を展開できる基礎的能力を養う。実習目標6は、養護教諭への志向を高め、養護教諭になるための自己の課題を明確化するである。実習目標に基づく実習内容として実習目標1では、実習校の理解に努めた。多くの先生方が実習校の特性や学校運営、生徒指導や人権教育などそれぞれの内容ごとの講話をしてくださった。保健室では、教職員の職務や学校側の活動などを細かく理解することはできないため、講話を通して実習校の特性や教育に関する活動内容などをより深く理解することができた。また、養護教諭も教職員の一人として保健室だけではなく様々な役割を担い日々活動していることも知ることができた。実習目標2では、保健室経営や養護教諭の役割の理解に努めた。保健室経営計画に基づいて保健室は日々対応している。保健室の利用についてや緊急時の対応などについて詳しく記しておくことで、いざという時の共通理解に繋がるのだと感じた。養護教諭の役割は、登校状況の観察、校舎内外の清潔と安全の管理、健康観察、保健教育、救急処置、健康相談が主に挙げられる。児童だけではなく、学校の環境を整えることも養護教諭の役割であり、それらは児童が安心して安全に学校生活を送ることに繋がるのだと学ぶことができた。実習目標3では、児童の健康状態や健康課題、家庭環境や教室状況の把握に努めた。児童一人一人の健康状態を把握し、家庭環境や教室状況を理解しておくことで、保健室に来室した際に迅速に的確な対応ができると感じた。養護教諭は保健室にいただけが職務ではない。学校全体の状況を把握し、児童の理解に努めることで、児童や担任などとも関係性が構築されていくと考える。従っ

て、登校時や朝の時間などを活用して児童との関わりを増やしていくことが大切であると学んだ。また、健康診断を実施した後には結果を通知したり、病院への受診を促したりするなどして、保護者にも自分の子どもの身体を理解してもらい、健康課題の把握に努めることも養護教諭の大切な役割であると知ることができた。実習目標4では、保健室に来室する児童の処置と対応、頻回来室児のアセスメントの実施に努めた。保健室には、怪我をした児童や体調不良の児童など様々な訴えをする児童が来室する。しっかりとコミュニケーションを取り、どのような状態であるのかを観察し対応しなければならない。小学生は、自分の状態を自分の言葉で相手に伝えることが難しい。従って、上手に聞き出すためには言葉の選択や説明の仕方がとても大切になってくる。学年によって成長発達が著しい小学生は、その児童の学年や性格に合わせて関わり方を考えていかなければならないため、とても難しいと感じた。児童が何を求め、何を考えているのかを上手に話してもらうためには、養護教諭のコミュニケーション能力が重要になると学ぶことができた。頻回に保健室に来室する児童には、必ず理由がある。家族や友人、担任との関係や教室環境が悪いことで自分の居場所を無くしてしまっていたり、勉強についていくことができないなど児童によって様々である。保健室は、児童の居場所であればいけないと私は考えている。児童が甘えてしまうだけの場所になってはいけないが、保健室があることで安心して学校に通うことができる児童は少なからずいると思う。そのような児童の居場所になれるようなメリハリのある保健室経営ができる養護教諭になりたいと思った。実習目標5では、授業参観や保健指導を実施した。各学年の日々の授業の様子を見ると、保健室では見ることのできない児童の様子や表情を見ることができたり、授業を作成する際の教員の工夫などを見ることができ良い学びに繋がった。また、保健指導として第1学年を対象に正しい歯の磨き方を指導した。指導案作成から計画、実施、評価までを行い、改めて、授業を作ることの大変さを実感した。1学年に合わせて言葉の選択をしたり、児童がいかに楽しみながら学ぶことができるかに焦点を当てながら保健指導を作成した。当日は、児童が楽しそうに授業を受けている姿を見ることができて、とても嬉しかった。対象に合わせた授業作りの大変さややりがいを学ぶことができた。実習目標6では、自己の目指す養護教諭像を明確にし、自己の課題を見つけることに努めた。私が目指す養護教諭は、児童だけではなく、教職員や保護者などからも信頼される養護教諭である。様々な人から信頼されるためには、正しい技術や知識を身に付けているだけではなく、観察力や判断力、連携する力やコミュニケーション能力など様々な能力を兼ね揃えていることが必要であると考えた。自己の目指す養護教諭になるためにも、今回の養護実習で学んだことを活かし、努力していきたいと思う。

私が3週間の実習の中で実感したのは、養護教諭の役割と責任の重大さである。ほとんどの養護教諭は学校に1人しかいないため、一つ一つの判断が養護教諭に委ねられることになる。従って、正しい知識と技術を身に付けていないと処置や対応をすることも判断をすることもできないということになってしまいかねないのである。それらを防ぐために

も、実習目標6で述べたように正しい知識と技術、様々な能力を持っていないと感じた。また、養護教諭も教職員の一員として児童の教育に携わる。養護教諭として保健室を児童にとって安心できる居場所にするだけでなく、児童の行動などで教育に良くないことであると判断した場合には、教員としてしっかりと指導することも大切であると学んだ。メリハリのある態度で児童に接することで、より良い保健室経営や信頼関係の構築に繋がると考えるため、時には厳しく時には優しく接することができるようになりたいと思った。今回、私が実習したのは小学生である。小学生であるからこそ、言葉や分かりやすく伝えることの難しさを実感した。学校種が違えば、対象の年齢が異なるため、訴えや養護教諭が抱える課題なども異なる。対象に応じた対応ができるように、今後もしっかり学んでいきたいと思う。そして、看護学部であるからこそその視点から児童生徒の身体面、精神面を見ることが出来る養護教諭になれるように今後も努力していきたい。今回の3週間の教育実習を通して、養護教諭になりたいという思いがより一層強くなった。

実習校 墨田区立梅若小学校	実習期間	令和元年 6 月 10 日～6 月 29 日
	学籍番号	NS2016-022
	氏名	津田 萌々果

「養護実習目標に基づく学習の学びと課題」

私は、小学校で3週間実習を行った。実習をした小学校の地域特性としては、防災団地が近くにあり学校の近くには、スーパーがあって、最寄り駅の近くにはコンビニやご飯屋さんもあるという、賑わっているところであった。学校の教育目標は、「人にやさしく、自分に強く」で、自ら学ぼうとする意欲をもち、進んで挑戦する子供、よく聞き、しっかり伝え、お互いに大切に作る子供、自分の役割と責任を果たし、協力し合う子供としていた。そのため挨拶は忘れずに行える児童が多く、またお互いを思いあえる優しい心を持った児童が多かった。そして、学校の特徴としては、区の小学校で唯一日本語通級指導教室があり、つばさ学級という特別支援教室があった。このような小学校で3週間の実習を経て様々な経験をしたうえで多くの実践を通して知識をつけることができた。

まず、学校教育・学校保健活動における養護教諭の位置づけと役割については、学校運営組織の講話を聞き、管理職や教職員の各役割の理解ができた。また、学校保健計画や校内救急体制、保健室の利用や定期健康診断実施計画などについて書いてある資料を見せてもらい、説明を受け、学校保健組織の構造と内容を知ることができた。これらの学びから学校の組織運営・学校保健計画というのは、その学校の教育方針によって変わってくるため、学校教育目標を理解したうえで、計画や保健室経営案をたてるべきであると思った。次に、養護教諭の1日の執務内容を見学して児童との関わりだけでなく、書類の整理・健康診断の結果の統計をだすなどの事務作業も養護教諭の仕事の一環であると改めて学べた。小学校での保健室経営案の目標は保健室をみんなが来やすい空間づくり、メリハリをつけられるような場所を目指しているということを教えてもらい自分の目指す保健室とは何かを明確にすることができた。そして、内科健診・歯科検診の補助、健康カードへの記入をして児童の健康状態の把握の仕方を学び、学校教育活動及び学校保健における養護教諭の機能と活動内容を把握することができた。また、プールの時期と被っていたのでプール、水道水の水質検査の実施方法、目的の説明を受け実際に行い、その他にも学校薬剤師・学校医との関わり方や連絡の仕方を見学した。そして、健康カードや健康診断書（児童・教職員）の管理は保健室内の鍵のかかる場所で管理することが大切ということも実際にみて学ぶことができた。避難訓練と救急救命講習にも参加したので、救急時の養護教諭の役割も理解でき、より養護教諭の活動内容の理解を深めることができた。しかし課題として残ったのは、学校環境衛生活動についての検査方法と目的、災害時・緊急時の養護教諭の関わり方に、学年によって発育発達過程についての知識をもっとつけておくべきであったことだ。次に、校内巡視と毎朝、下駄箱の前で児童に挨拶し程を考えながら受容的な態度で接した。また、担任の先生や養護教諭・専科の先生などから児童一人一人について、共通理解すべき内容を職員朝会で話し合

ったりしているところに参加し、児童の健康診断表や管理指導表を見て、説明も受けたことで児童生徒の心身・生活の現状、健康問題の特徴を理解することができた。おなかが痛い、頭が痛いという一つの言葉だとしても、発育発達段階を考え身体的なものからなのか精神的なものなのかを理解するための児童の心身・生活の現状、健康問題の特徴を理解することはとても大切であると改めて学ぶことができた。そして管理指導表や健康診断の結果から、その学年によって注意しなければならない健康問題の特徴は、何かを考え各学年における必要な全体の保健指導はどういうものをすべきかを考える必要があるということも知ることができた。課題としては、今回は3週間という短い期間であったため、保健室に来室した児童が中心となった心身の健康問題の把握ということしかできなかつた。今後は保健室に来る来ないに関わらず全児童の心身の健康問題を把握していかなければならないと思った。次に、保健室に来室した児童の健康問題をクラスでの過ごし方や友達関係（担任の先生情報）、担任の先生との関係、そして家庭状況を踏まえたうえで何が問題となっていて身体的なものなのか精神的にきているものなのかを考えて健康相談を実施した。また、怪我の状態や体調不良を児童の成長・発達段階を考えたうえで適切な処置を行い、保健室での処置や対応、今後のことについて、担任の先生と連携をとったりして児童生徒の心身の健康問題に対して適切な処置、保健指導・健康相談活動を行う基礎的能力を実習前に比べ養うことができた。このような経験から今は、身体の不調は精神的なものから来ている児童がとて多いということを理解できた。寄り添い方や関わり方を考えるのに多方面からその児童をみるのも大切だけど、この児童はこれが問題でこうなっているというレッテルを貼った関わりによって救われないときもあるため、レッテルを貼った関わりをしないようにすることも大切であると思った。そして、指導案の作成や保健室前の掲示物の作成、4年生（各学級）に対して歯の役割についての保健指導を4年生が取り組みやすいワークシートを作成し、歯の絵やものの写真の準備をして実施した。また、授業時の放課後に全教職員と研究協議会の実施してもらい自分の今回の授業における反省点や良かった点を発表し、各教員からご指導をいただいた。これらから改めて保健指導に必要なことは児童がどこまで学んでいるか、理解できているのかを事前に把握することと児童の興味を引き出せるような教材の工夫や分かりやすい言葉選びをすることであると学ぶことができた。今回は4年生のみを考えた保健指導であったため、今後は全各学年に対して行うと思うので各学年に必要な保健指導は何かを考え、その学年に合った指導方法や教材準備をしていくことが必要であると思った。

そして今回の実習を経て、私は、周りからみて暇そうな養護教諭、児童一人一人の心に寄り添うことができ、保健室に来る来ないに関わらず、多方面から児童のことを理解し対応できる養護教諭になりたいと思った。また保健室を児童だけではなく、教員の心も安らげる場として提供できるようにしたいと思う。そのためには、まだまだ養護教諭として必要な知識をつけ、保護者への対応の仕方もより理解していけないと思った。

実習校 阿賀野市立神山小学校	実習期間	令和1年6月3日～6月21日
	学籍番号	NS2016-032
	氏名	五十嵐美月

「養護実習目標に基づく実習の学びと課題」

3週間の養護実習で得た学びは実際に現場で体験しなければ味わうことのできないことが多くあり、知識を活用しながら実践に生かす重要な実習となった。私は小学校での実習を行うにあたって、児童との触れ合いを心がけた。小学校とは、大人になるための第一歩の学習の段階で、6歳から12歳までの幅広い年齢の児童が同じ時間を共にする場である。1学年異なるだけで行動や知能に大きき差が出るため、発達段階を理解した上で児童と関わらなければならない。そのため、養護教諭は児童との信頼関係を築いたうえで関わりあっていかなければ良質な処置や対応はできないのだと実際に関わりあうことで改めて感じた。また、3週間の実習の中でも養護教諭としての任務を果たすための関係の構築を実践することができた。

実習目標1. 学校教育、学校保健活動における養護教諭の位置づけと役割を理解するという点では、学校教育目的に基づいた学校保健目標を立て、保健活動を実行することの大切さを学ぶことができた。実習校は100人以下の小規模校であったが、学校の運営を教員だけで行わず、生徒中心の運営が行われていた。学校保健目標である「めあてをもって進んで体力や生活習慣を向上・改善しようとする意欲や態度を育成する。」を掲げている実習校は、月に1回の委員会で、保健に関する生徒の意識はどうであったか、正しい生活を送ることができていたのかを振り返り、改善を行っていた。このことから、養護教諭が児童たちの主体的な行動をサポートし、児童らの健康を守ることが重要だと学んだ。また、児童の健康について知識のある養護教諭は学校全体に一人、もしくは二人しか存在しない。養護教諭は、保健という大きなくりの中心に位置づけられているため、児童の健康状態を把握し、教員らに伝える任務がある。教員間で連携を取り、児童の不足している部分に介入していくことが重要であると学んだ。他にも、時期ごとの組織の活動を実際の場で観察し、具体的な部分まで介入していかなければならないと感じた。

実習目標2. 学校教育活動及び学校保健活動における養護教諭の機能と活動内容を把握するという点では、一日を通した保健室経営を行うことで、日々の執務の重要性を把握・理解することができた。私が毎日行っていた健康観察の集計は、単に今日の記録として記すのではなく、継続した観察により、児童一人ひとりの問題解決するためのものなのである。休みがちな児童や連続して欠席している児童は、なんらかの問題を抱えて欠席している。担任のみが児童の出欠席を把握するのではなく、継続した観察により、逸早い対応を行うことができる。出欠席に関わらず、体調の優れない児童を朝の段階で把握することも、日頃の様子と比較し、児童の変化に気づく重要な情報となる。また、保健室に来て、訴えを言える児童ばかりではないため、校内巡視を毎日行うことで、教室での仲間関係や

いじめの有無、児童の容態など、あらゆる場面で些細な変化をとらえ、対応につなげていくことが養護教諭としての役割である。実習の中では体験することができなかったが、健康診断の計画から行い、評価までの一連のプロセスを実践することにより、より深い知識を学習したいと感じた。

実習目標 3. 児童生徒の心身・生活の現状、健康問題の特徴を理解するという点では、健康問題を学校生活とのかかわりから把握し、職員全体や全校生徒らへの迅速で正確な周知を行うことができた。実習校では、流行性耳下腺炎を発症した児童が一人おり、対応にあたった。発症した時点では、周囲に感染はしない病気だが、小学生は集団で生活しているほか、免疫力が弱いため、素早い対応が必要である。しかし、職員は流行性耳下腺炎についての知識がなく、予防方法についても児童に伝えられない状況であったため、まずは職員に正しい知識を知ってもらうことが重要であると考えた。そこで、週に一回開催される職員集会で、全職員に流行性耳下腺炎について分かりやすくまとめたものを作成し、配付し、説明を行った。症状や日常生活での注意点、予防策などを、まずは職員らに周知することで児童らの予防につながると考えた。実際、各学年に担任が周知し、児童の意識づけや行動変容により、感染の拡大を防ぐことができた。この取り組みにより、健康に関して専門知識を持っている養護教諭が率先した快適な環境の維持、それに対する周囲の意識づけを行い、集団で生活する児童の健康維持を学校全体で守ることの重要性を学んだ。また、この経験を通して、未然に防ぐことが課題になった。感染性の病気やいじめ、事故などは好発時期があるため、学校保健計画や学校行事など事前に把握し、未然に防ぐことの重要性を改めて感じることができた。そのほかにも、健康診断の結果を集計して見えてきた課題を把握・理解することの重要性を学んだ。毎年、歯科検診をする中で、再検査になる児童がおり、治療せずに放置させている児童が多かった。これは、ネグレクトであり、見えない虐待である。そういった児童には、児童本人に指導するだけでなく、担任と家庭環境を把握することで、問題を明確にすることができ、素早い対応を行うことができるのだと感じた。見えない部分の介入をどう補足し、正していくかを養護教諭が児童や担任、家庭にまで踏み込み、アプローチをしていくことが重要である。

実習目標 4. 児童生徒の心身の健康問題に対して適切な処置、保健指導・健康相談活動を行う基礎的能力を養う点では、発達課題や各学年の課題を把握し、課題解決のためのアプローチを行うことができた。けがや容態の変化により保健室に訪室した児童が自身で問題の対処ができるよう、児童自らの口から容態を話してもらうよう接した。発達段階にある児童にそのように接することで、自身の体と向き合い、健康な体を理解することにつながるのである。実習校では、保健室に訪室した際のルールは設けておらず、児童自身の判断も含めて今度の予定を決定していた。このことから、養護教諭は児童の健康を全て請け負うのではなく、児童との関わりの中で児童自身が健康維持能力を養う対応が非常に重要であると学んだ。また、危機的状況にも関わらず、そのまま家や教室に戻してしまうようなことが起きないように、豊富な看護の知識と迅速な実践力が課題となった。保健指導を行

うにあたって必要な能力は、事前に各学年の特徴を捉え、児童に不足している能力の向上を図ることである。実際には、給食後、歯磨きの時間が設けられているにも関わらず、歯磨きをしない児童が多くいることを把握し、3年生の歯磨き指導を行った。すると授業後には、全員が丁寧な歯磨きを行っており、意識変容・行動変容を行うことができた。そういった、自身の体に興味をもってもらい、自主性をもって行動してもらえるよう、養護教諭がアプローチをすることが重要である。保健指導を行った数日は、継続して歯を磨いてくれたが、長い目で見た時の継続を養う点では課題が残った。そのため、歯磨きカレンダーを作成し、歯を磨いたら色を塗ってもらうような取り組みをすることで継続性のある取り組みを含めるべきであった。

実習目標5. 学校教育において保健教育、保健指導を展開できる基礎的能力を養うという点では、児童の発達を踏まえた保健指導を行うことができた。児童は、自閉症や多動症などの発達障害をもった児童が多く、他の児童と同じ空間で45分間指導をするためには、興味を惹きつけ、関心を持ってもらわなければ成立しない。特性のある児童でも、みんなと同じように理解してもらうには、様々な感覚を用いた授業を展開していくことが重要である。目で見ることによって理解する児童にはイラストを、実践することによって理解する生徒にはカラーテスターを使用し染出しを、耳で聞いて理解する児童には私自身が授業の際、具体的な発言を行うことで、補いながら授業を展開した。教育をするものとして、児童一人ひとりの個性を把握した指導を心がけることが重要であると学んだ。課題として、授業の中でとっさに難しい言葉が出てしまう場面があったため、冷静に言葉をかみ砕き、対象クラスに合った指導を行うことの重要性を学んだ。

実習目標6. 養護教諭への志向を高め、養護教諭になるための自己の課題を明確化するという点では、3週間の養護実習を自身の能力を精一杯発揮できた分、自身に不足している能力・技術を明確にすることができた。連携の点では、養護教諭がその他の教員と情報を共有し合い、その後の対応、継続した観察を決定することが重要である。集団組織の中で、あらゆる方向からアプローチをしていくことは養護教諭だけに限ったことではなく、様々な場面での実践力として活用しなければならないのだと感じた。見えない場面での児童の様子を多方面からの連携により、児童の健康を守っていかなければならないのである。観察の点では、継続した対応を行うことで、児童の細かな変化に気づくことが重要である。その日限りの様子を観察するだけでなく、その児童の背景にある家庭環境や仲間との関わり、児童の性格などを踏まえた上で継続した対応を行う。技術の点では、保健室に訪室した児童への処置や対応はできたが、不十分であると感じた。看護の知識も十分備えた養護教諭でないと、迅速な判断や処置を行うことができないため、実践力のある養護教諭を能力が必要であると感じた。

3週間の養護実習を通して、保健室、養護教諭は児童にとって唯一評価されない場所であり、児童の弱音を聞ける存在である。養護教諭が児童の訴えに耳を傾け、過ごしやすい環境を整えることを基本として、児童・生徒らと関わり合うことが重要である。

実習校 会津若松市立湊中学校	実習期間	令和元年6月3日～6月21日
	学籍番号	NS2016-042
	氏名	齋藤日向子

「養護実習目標に基づく学びと課題」

今回の養護実習では、三週間という期間の中で生徒とたくさんの関わりの中で、実際の教育現場での多くの学びを得ることができ、自己の課題を見出すことができた。

養護実習の中で、養護教諭をはじめ先生方は、学校の中での会話を大切にしていると感じた。保健室に来室する生徒の性格は様々であり、それぞれの生徒に合った一人ひとり違った対応が必要である。そのために、普段からの生徒把握が必要であり、直接生徒たちとたくさん会話をしていくことで、生徒たちの素顔が見えてくると学んだ。また、生徒たちとたくさん会話をする中で、普段の様子を把握することができ、自分から保健室に来ることを拒んでしまうような生徒でも、校内巡視などの際に顔色や表情などの変化に気付くことができる。保健室や授業中だけでなく、生徒たちとたくさん会話をする機会を積極的に作っていききたい。

そして保健室の来室対応の中で、保健室での会話の大切さも感じた。生徒たちにとって養護教諭は学校の中で唯一、評価者ではなく、だからこそ話せることが多くあることを学んだ。来室する生徒の訴える体調不良の背景には、心の問題がある可能性もある。本当の来室理由は生徒と直接じっくりと会話をする中でしか分からないため、保健室での生徒との会話も大切にしていきたい。また、養護教諭が保健室で生徒から得た情報は、担任の先生や他の先生方も頼りにしていることが多いと感じた。実際に実習中にも、生徒が保健室から帰ったあとに担任の先生から、保健室での会話について聞かれることが多くあった。実習校の職員室では、常に生徒たちのことが話題の中心にあり些細なことでも情報共有がされていた。職員会議などの場が設けられていない時でも、日常会話の中で保健室での出来事や、生徒の抱える悩みについて共有し、風通しの良い職員室を作っていく必要がある。そうすることにより、ほかの先生方や管理職と連携して、チームで生徒の課題解決に向かうことができることを学んだ。

今回の養護実習では、歯科指導と保健の授業での T2 をする機会をいただき、教えることの難しさを感じた。最初の指導では、緊張してしまい前の席の生徒としか会話をするのができなかったり、自分が一方的に話すという形になってしまい、生徒たちとの間に距離ができてしまった。養護教諭が一方的に知識を与えるだけでなく、生徒たちに問いかけや会話をする中で、生徒自身も能動的に授業に参加し、みんなで学びを深めていくことができると学んだ。また、授業の導入の部分の重要性も学んだ。本題に入る前に、今日は何を学ぶのだろうか？といかに生徒の興味を引き付けることができるか、今後の課題である。今回の保健指導では、テンポよく授業を進めることが難しかったが、生徒たちの関心のある話題や、興味が持てるような工夫を大切にしていきたい。

実習校には、特別支援学級もあり、特別支援学級の生徒と関わる機会も多くあった。関わりの中で、発達障害についての知識の少なさや、特別支援学級の生徒との関わり方について課題があると感じた。知的障害がある生徒が、ダンスの時間に周りの生徒と同じように踊れずに落ち込んだ様子で、周りで教えている生徒も困ってしまっているという様子を見て、私は、その生徒に声をかけることができなかった。その生徒が自信を失ってしまわないような関わりかできたらよかったと感じた。特別支援学級の生徒たちと関わってみて、養護教諭は、保健室で病気やケガを処置していただくだけではなくて、特別支援学級の生徒の困り感を理解し、障害がない生徒と同じように学校生活を送っていくにはどうしたらよいかを考え、支援していくことも必要であると学んだ。

今後の自己の課題としては、保健室での来室対応のなかで、知識や技術がまだまだ足りていないと感じた。病院とはまた違った環境の中で、生徒の健康問題を適切にアセスメントし、素早く処置し生徒たちに指導することができるように、学校で起こりやすい病気やケガについて知識を深めていきたい。もうひとつは、発達障害についての正しい理解ができていないと感じ、特別支援学級の生徒をよりよく支援していくために、関わり方や支援の在り方についても学んでいきたい。また、生徒が安心して悩みを打ち明けることができるように、信頼される養護教諭を目指し、豊かな人間性を育てていきたいと感じた。

三週間の養護実習の中で、実際の教育現場だからこそできること、学べることが多くあった。この経験を糧に、子どもたちが学校で安心して安全に過ごすための要の役割を養護教諭として担っていきたい。そして、子どもたちが心を楽にして悩みを打ち明けられる保健室づくりを心がけ、子どもたちのちょっとした変化にも気づくための、目配り気配りができる養護教諭を目指したい。

実習校 熊本市立画図小学校	実習期間	令和元年 5 月 27 日～6 月 14 日
	学籍番号	NS2016-045
	氏名	島本麻未

「養護実習目標に基づく実習の学びと課題」

私は 3 週間の養護教諭実習を通し、養護教諭になりたいという気持ちをさらに高めることができた。実習前は、子どもはかわいいという思いを強く持ち、小学校で子どもたちと一緒に過ごす時間がとても楽しみであった。しかし、実習で実際の学校生活に加わることで、子どもたちをかわいいと思うことはもちろん 1 番にあったが、それ以上に子どもたちの安全をどのように守っていくのか、サポートしていくのかという学校職員としての責任があることを身をもって感じる事ができた。

私がまず取り組んだこととして、子どもたちとの信頼関係の構築である。私たち実習生が学校に行くと、子どもたちは興味津々に近づいてきたり、積極的に話しかけてきたりとも珍しそうに見る様子が多々あったため、子どもたちとコミュニケーションをとることは比較的スムーズにでき、早い段階で子どもたちと距離を縮めることができたと考える。関わりの中で信頼関係につながる場面としては、コミュニケーションをとることに加え、保健室来室時のケアを適切な方法で速やかに行うこと、教員としての言葉遣いや立ち振る舞いをすることで考えると考え実践することができた。

実習中、養護教諭として子どもたちとの信頼関係の重要性をより実感した場面がある。それは、小学 6 年生の女の子が体調不良を訴えて保健室に来室した時である。来室してまず、私が女の子の対応をし体温や脈の測定をしたり、内科用の記録板に問診をしたりした。児童は質問に頷くような仕草で対応しており、表情も暗かったため、教室に戻るかどうか聞いたところ本人から小さな声で戻るという発言があった。そのため、児童の判断を受け入れ教室に戻す判断をした。しかし、児童が立ち上がって教室へ戻ろうとしたタイミングで養護教諭が保健室に戻ってきて、「もう少し休んで行ったら？お話ししようよ。」と声をかけその女の子を保健室に引き止めた。養護教諭は女の子をベッドの方に誘導し、ベッドサイドに腰掛けながら「最近学校はどう？」、「何かあった？」などと話し始めた。すると女の子は急に泣き出し止まらなくなっていた。話を聞いていると、クラスで朝から嫌なことを男の子に言われていたことがわかった。以前にも何度か嫌なことを言われ落ち込むことがあったらしく、養護教諭の察知により今回の件に気づくことができた。もし、私の対応だけで教室に戻していたら、この状況に気付くことが遅れ女の子をより苦しめていたかもしれない。日頃から子どもたちの名前や顔を 1 人 1 人覚え、子どもたちの普段の様子をよく観察しているからこそ、女の子の異変に気付くことができたと思うし、何より子どもたちから信頼される養護教諭だったからこそ女の子は安心して話すことができたのだとこの場面を通して考える。

実習校には様々な疾患を持っている子どもたちがたくさん通っていた。ストマ管理が必要な子どもやてんかん発作がみられる子どもなど注意が必要な子どもたちであった。実習

校では養護教諭や担任、管理職などが健康調査票や保護者との連絡、本人の意思などをもとに緊急時の対応や日常生活に必要なことなど明確にリストアップされていた。私が目指す養護教諭は、看護の知識を生かし子どもたちの安全をサポートする養護教諭であり、疾患の種類も多様化する現代において、看護の知識は学校環境においてとても重要な役割になると考える。これは、持病などの疾患だけでなく、学校生活の中で起こる骨折が疑われる怪我や頭部の怪我、歯の損傷など様々な怪我においても迅速かつ適切な対応ができると考える。子どもたちの安全を守るために看護の知識や技術を身につけることはもちろん、学校で起こりやすい怪我や病気についての対応も勉強しておく必要があると考える。

3週間の実習を通し、養護教諭になるために必要なことや自らに不足している部分など明らかになったため、これからの生活で養護教諭になるための土台を築けるよう、積極的に学び物事に取り組んでいきたい。

実習校 私立文京学院大学女子高等学校	実習期間	令和元年 5 月 27 日～6 月 15 日
	学籍番号	NS2016-072
	氏名	佐々木唯

「養護実習目標に基づく実習の学びと課題」

3 週間の養護実習を終えて、養護教諭には判断力・観察力、対応力が重要になってくると感じた。そのために、知識や技術が必要となっていき、伝える力や言葉に対する責任を持つことで、生徒やその家族、またともに働く他の教員との間で信頼を築くことができると感じた。3 週間の養護実習で印象に残った出来事が 3 点ある。また、一人の生徒とのかかわりが印象に残っている。

1 点目は、3 週間の養護実習の中で保健室での来室対応を一人で行ったことである。一人で来室対応を行う機会が多かった。1 週目は、一人では対応することが難しい人数の生徒が来室した際に、優先順位をつけることができずに焦りを感じてしまった。優先順位を決めるためには、その生徒の主訴や顔色・表情や態度の観察や、本人が抱えている疾患を把握したうえで判断していく必要がある。また、頻回に来室していたり、訴えていることの背景にあることを考えて、対応していく必要もあると感じた。そして、生徒の協力を仰ぐことも重要であると感じた。来室記録は付き添いの友人に書いてもらったり、軽度の怪我であれば自分自身で手当てを行うなどをし、全てを養護教諭が行なうのではなく生徒に指導を行いながら、協力をしてもらうことが大切であると感じた。3 週間、保健室で来室対応をしていくうちに、優先順位を考えて対応することができるようになったが、傷病に対する知識や技術がなく、手間取ってしまう場面もあった。保健室で多く見られる傷病を把握し、それに対する知識や応急処置等の技術を取得すること、また、この学校全体の健康問題を健康診断などから把握し、それに対する知識や技術を得ることも重要であり、今後の課題とする。

2 点目は、保健委員会の実施や集団保健指導を行い、対象となる生徒に対して伝えることの難しさを知ったことである。言葉一つで様々な受け取り方ができるため、言葉の選び方は保健委員会や集団保健指導に限らず、日々の保健室での活動や健康相談の際にも大切になってくると感じた。また、保健日よりや保健指導などで配布する配布物や掲示物は、相手に何を伝えたいのか、何を理解してほしいのかがわかりやすく記載されている必要がある。養護教諭として正しい知識をどのような形式で伝えるのかは、年齢によっても異なるため、対象の学年や年齢に応じた内容の選択が必要となってくる。さらに、知識はクラス編成によってもことなるため、対象の学習の進捗を把握したうえで、内容の選択をすることも重要となってくると感じた。

3 点目は、保健室での生徒とのかかわりや、担当クラスでの生徒とのかかわりである。生徒は、教室での顔や部活動での顔、保健室での顔、また家庭での顔など場所によって、見せる態度や表情などが異なってくる場面もある。養護教諭は、教科担当やクラスを持つわけではないため、常に生徒の把握ができるわけではない。そのため、教科担当やクラスを受け持つ教員の視点も重要となってくる。実際にクラスを受け持ち生徒の様子を観察し、前日との

比較をしていく必要や、朝と放課後での変化がないかを把握していく必要があると感じた。その場所にいる教員で生徒の観察をし、教員同士で連携・共有していく必要があると感じた。組織で学校は動いているため、情報共有を行い、養護教諭が一人で抱え込まないように、また他の教員が一人で抱え込まないように連携していく必要があると感じた。様々な教員の異なる視点で生徒を見ていくことで、生徒にとって安全で安心ができる学校生活を送ることができるのではないかと考える。

3週間の養護実習を通して、深いかかわりをした生徒がいる。頻りに保健室に来室する生徒であった。身体的な健康問題に対する訴えはないが、周りからの刺激に敏感であり、よく泣きながら保健室に来室する生徒であった。1回目のかかわりの際は、どのようにかかわるべきであるのかわからずに、養護教諭の対応の仕方を見学していた。2回目のかかわりの際に、養護教諭はおらず、私が対応することになった。生徒が泣いている際に、どうかかわるべきかわからずにいたが、まだ2回目のかかわりであったため信頼関係は築けていないと考え、まずは日常的な会話をすることにした。日常的な会話を通して、生徒のことを知るとともに、私自身のことを知ってもらい信頼関係を築こうとした。日常的な会話をしていると、次第に悩みを共有してくるようになった。「学校辞めたい」「教室へ行きたくない」などの発言がみられていたため、傾聴を行っていた。「教室へ戻りたくない」との発言から、昼休みに保健室で昼食をとりながら会話をしていた。「学校へ行きたくない」「辞めたい」と頻りに発言がみられていたが、生徒本人の発言から夢や希望があり、できるだけ毎日学校へ登校していることが理解できた。学校へ行きたくないという気持ちがあるにもかかわらず、登校していることに対して賞賛をした。また会話を通して、家族関係についても話を聴くことができた。「来週1週間休もうかな」との発言があり、その週は私の養護実習の最終週であった。最後の週なのにその生徒と会えないことはとても悲しく、寂しいことや、生徒の顔を見たいこと、保健室で待っていることを伝えると、最後の週は毎日登校をすることができ、最後の日に関しては遅刻することなく登校することができ、手紙をもらうことができた。3週間の最初の頃は遅刻する姿や泣いている姿を見るが多かったが、私とかかわる中で「学校へ行こうかな」と登校してくれる姿や、遅刻する回数が減ったこと、笑顔で保健室へきて、授業に戻る姿を見る機会が増えた。その生徒と関わったのは、3週間と短いものだったが、私にとってとても濃い充実した3週間であった。

実習校 十日町市立松代小学校	実習期間	令和元年6月10日～6月28日
	学籍番号	NS2016-073
	氏名	品田梢

「養護実習目標に基づく実習の学びと課題」

養護教育実習を通し、これまで漠然としていた養護教諭の学校における役割と職務を知ることができた。私が実習した小学校は、養護教諭が保健主事を兼任しており、また給食主任を兼任していた。校務分掌から、それぞれの職員の役割を知ることができ、「チーム学校」としての学校組織運営について学ぶことができた。

実習校の保健室経営計画の健康教育の指導の重点として「自分の健康に関心をもち、進んで健康な生活を送る児童の育成に努める」とあり、これに基づいて、保健指導を行っていた。保健指導にて特に力を入れていたのは、歯科保健指導である。「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業計画」と歯科保健指導実施計画に基づいて取り組んでいた。学級ごとに歯や口についての保健指導することや毎週水曜日の朝の会の時間に実施するフッ化物洗口、歯と口の健康習慣について、学校を訪れた地域の方やプロスポーツ選手からメッセージを書いてもらいそれを掲示する等を行った。児童生徒が、自身の健康に関心をもつことができるように、学級担任や養護教諭から健康に関する情報を発信するだけでなく、保健委員会を通し、全校朝会時、クイズ形式の劇を保健委員会が実施して、児童から児童へ向けて情報を発信するよう工夫した。保健指導を通して、児童生徒が自ら健康について考え、行動することができるような指導が大切であると学んだ。保健指導を実施するにあたり、教職員だけでなく、児童から児童へ、地域の方や歯科衛生士のような専門職の方から児童への様々な人からの指導が必要であると考えた。

実習時、保健室に来室した児童のなかに、腹痛を訴え来室したが、問診をしているうちに腹痛ではなく疲労から眠くなったため来室したという児童がいた。来室した際は、下を見ながら話していた児童が、ベッドで睡眠をとり休んだ後は、笑顔で教室に戻っていった。児童生徒のことを理解するうえでコミュニケーションはとても大切であるが児童によっては、不安や悩みを隠そうとする児童やそれが身体症状として現れる児童もいると考える。そういった児童生徒の変化にいち早く気づくことができるような養護教諭としての視点を持つことが大切であると考えた。そのためには、児童生徒と関わり、児童生徒の特徴を捉えることや教室での様子を知る学級担任、家庭での様子を知る保護者との連携が大切であると考えた。

この養護教育実習を通し、学校における養護教諭の役割は、児童生徒の心身の健康を司ること、児童生徒が自身の健康に関心をもち、健康な生活を送ることができるよう指導することであると学んだ。そして、実際に児童生徒と関わったことで、児童生徒と信頼関係を築くことが養護教諭として大切であると考えた。大学での養護教諭に関する授業にて、「養護教諭は児童生徒に忙しそうにしている姿をあまり見せないようにしている」と聞いたことが

あった。養護教諭が忙しそうにしていると、児童生徒は悩みがあっても保健室に相談をしに来室しづらいためである。たとえ忙しくても、“忙しい”という雰囲気を出さず、児童生徒が相談しやすいような雰囲気であることが大切であると考えた。

このような養護教諭となるためには、児童生徒の変化にいち早く気づくことができる養護教諭としての視点を磨くこと、児童生徒に対しての関わり方や声掛けの工夫、児童生徒が関心をもつことができるような指導の工夫が必要であると考えた。養護教諭は、学級担任ではないため、児童生徒と関わることのできる時間が限られている。その限られた時間の中で、積極的に児童と関わり、養護教諭としての視点をもつことができるようにしたいと考える。実習時、保健室での休養後はどうするか、児童生徒が決めるようにしていた。自分自身の身体のことであるため、年齢や性格によっては、もう少し保健室で休むか、教室に戻るかの選択肢を提示し、自分で決めるように促した。こちらから「～をしましょう」というのではなく、自分で考え、行動できるような声掛けを工夫したいと考えた。また、児童生徒が健康に関心をもつことができるような保健指導で大切なのは、指導の最初に実施する“導入”であると考えた。この導入を児童生徒の身近なものに例え、わかりやすくする工夫することで、関心をもちやすくなる。そのため、保健指導の際の工夫の方法を改めて学びたいと考えた。

この実習で様々なことを学び、今後の課題が見えてきた。私のなりたい養護教諭となるために、学校における養護教諭や兼任する機会の多い保健主事の役割を改めて学び、実習校での養護教諭の職務内容と照らし合わせながら理解したいと考える。また、学校の1人の教職員として児童生徒の手本となり、良き理解者となれるような雰囲気、養護教諭としての視点をもつことができるよう学びたいと考えた。

実習校 四街道市立吉岡小学校	実習期間	令和元年6月4日～6月21日
	学籍番号	NS2016-080
	氏名	田村星奈

「養護実習目標に基づく実習の学びと課題」

私は吉岡小学校の養護実習を通して、多くのことを学び、経験し、私自身の養護教諭像を描き、課題を明確化することができた。

3週間の養護実習を終えての一番の学びは、今まで私がイメージしていた養護教諭や教科書的な養護教諭ではなく、実際に現場で行われている養護教諭の役割・機能、知識、技術を踏まえ児童の特徴や抱える問題に合わせた個別的な児童対応（処置を含む）である。多くの児童と関わった中で、児童は一人ひとり個性があり、性格も異なるため、児童に合わせた対応をする必要があると強く感じた。そこで、児童の個別性を考えて対応しなければならないと思い、そのためにはできるだけ多くの児童と関わり、児童の特徴を掴むことが必要であると考えた。このようにして、児童との信頼関係を築き、児童は「自分のことを理解してくれる人が学校の中にいる」と安心して学校生活を送ることができるのではないかと考える。また、自分のことを理解していない児童や自分のことをうまく言語化できない児童、言葉と表情・行動が異なっている児童に対して、少ない情報やあいまいな訴えなどからアセスメントし、素早く正しい判断で応急処置し、そして児童を安心させられるような対応をしなければならないことの難しさを強く感じた。このようなことから一人一人の児童の特徴や気持ちを理解し、児童の本当の気持ちを訴えられるような関わり、児童が本当に言いたいことは何なのかを見極める力の必要性を学ぶことができた。

保健指導では、小学校1・2年生を対象に手洗い指導を行った。保健指導など、授業を展開するには多くの時間をかけて準備するということを実感できた。また、準備の中で、どのようにしたら児童が集中して授業を受けることができるのか、児童の理解を深めるためにはどのような工夫が必要なのか考えることがとても必要であると考えた。実際に私が工夫した点は、児童の理解を深めるために資料を多く使ったこと、また、児童が楽しみながら授業を受け、授業に興味関心を向けられるよう実践授業にし、更に体で覚えてもらえるような授業展開にしたことである。児童は資料に興味を持ってくれて反応してくれる児童も多く、実際に手を洗う際は楽しそうに手を洗う姿が見られた。しかし、一人の児童が違う話しを始めると授業と関係のない話で教室全体が盛り上がりすぎてしまい、本題に戻すことがとても難しいと感じた。教室全体を落ち着かせた状態にしなければ、児童の理解を深めることはできないため、教員側がけじめをつけていかなければならないと考える。また、授業ではわかっているつもりでも実際に行ってみるとわからなくなってしまう児童も多く見られたため、一度きりではなく、何度も繰り返して体で覚えてもらうような授業展開にする必要があるのではないかと考える。今回行った保健指導は基本的な生活習慣であり、最終的には習慣化を目指さなければならないため、継続的に指導していくことが大切であると学ぶことができた。

私が、3週間の児童との関わりの中で一番感じた児童の特徴は、とても人懐っこく甘える児童が多いということである。最初はとても可愛く感じたが、実習指導の先生とのお話の中で、「裏を返せば家庭で甘えられていないことだよ」とお話をいただいた。現代は、保護者が共働きで、家に帰っても一人であることや両親が忙しく両親に迷惑をかけないように家のなかで良い子でいる傾向があるため、学校で教員に甘えることが増えてきている。このようなことから児童は自分の気持ちや思いが様々な言動として出ることが多いため、児童の本当の訴えを理解した関わりが現代の児童に必要なことであると考え。なぜそのような言動が見られるのかを見極め、関わっていくことが重要であると学ぶことができた。

3週間の学び、経験を通して、私の養護教諭像を描くことができた。それは多くの学びの中で特に学びが深かった「個別性のある児童対応」ができる養護教諭である。多くの知識・多様性のある技術に加えて、実際は厳しい場合もあるかもしれないが、仕事に追われて保健室に居座るのではなく、できるだけ効率的に仕事を行い、休み時間は児童と共に過ごしたいと考える。そのようにして、保健室に来室する児童だけでなく、より多くの児童と関わり、児童に特徴を掴みたいと考える。また、一緒に遊ぶことで信頼関係を築き、児童が本音を話せるような養護教諭であり、児童の本当の訴えを見極められるような養護教諭でありたい。そして、私の姿を見ると元気が出るような、児童と同じ気持ちで考えられる養護教諭、児童と共に学校生活を楽しめるような養護教諭でありたいと強く考える。

そして、自己の養護教諭像実現のための今後の課題は、多くの知識・技術を身に付けることはもちろん、児童の本当の訴えを引き出すコミュニケーションスキルといった実践できる能力を身に付けることが現在の私にとって最も重要だと考える。また、多くの児童と関わるために、仕事の優先順位を考え、効率的に仕事をこなす能力を身に付けたい。さらに、児童が信頼できる養護教諭になるため、どんな時も笑顔をわすれず、安心を与えられるような関わりができるようにならなければならないと強く考える。

実習校 日立市立坂本小学校	実習期間	令和元年 6 月 3 日～6 月 21 日
	学籍番号	NS2016-083
	氏名	根本祐紀

「養護実習目標に基づく実習の学びと課題」

笑顔溢れる児童が毎日通う日立市立坂本小学校で3週間の養護実習を終え、自身の学びを深めること、今後の課題を見出すことができた。指導を依頼した養護教諭は、私が小学校6年生の頃にお世話になった恩師である。養護教諭は在学中の児童だけでなく、卒業しても成長を見届けてくれるような母親的存在である。児童だけでなく児童の家族や教員からの信頼も厚く、1日に保健室に来室する人数は30名以上である。私も養護教諭に厚い信頼を置いている。その様な養護教諭の活動を間近に見ていて、丁寧で継続的な対応と構築された信頼関係が、養護教諭にとって大切な事であると学んだ。

日立市立坂本小学校は明治5年学制発布と同時に誕生し、水田に囲まれた自然豊かな地域に建てられている。今年度の教育目標は「自ら学び心豊かにたくましく生きる—かしこくやさしくたくましく—」とし、全校児童数403名の児童の教育を行っている。職員数は常勤28名で、養護教諭は保健主事を兼任している。クラス編成は、1年生から5年生は2クラス、6年生は3クラス、特別支援学級が3クラスである。少子化の影響で年々児童数が減少している傾向にある。

学校保健計画の努力目標は、「学校生活で必要な基礎的理解を深め、自己管理能力を養う」とし、実習期間中の学校保健に纏わる学校行事として、歯の衛生習慣、プール開き、体力テスト、親子歯磨き教室、避難訓練が行われた。6月の学校保健目標は、「虫歯を予防しよう」である。学校保健活動として、歯科検診や歯磨き指導が行われた。歯科検診については、歯科検診準備から事後処置までの一連の養護教諭の活動を経験した。その中での学びとして、400名を超える児童が円滑に歯科検診を受けられる様な工夫、歯科検診で使用する物品の名称や消毒方法、学校歯科医や歯科衛生士との連携などが挙げられる。私は、歯科検診当日に欠席した未受診者のための検診の際に、学校歯科医と養護教諭の指導の元、健康調査票への記録を行なった。児童の歯の健康状態を正確に記録する事は、養護教諭にとって重要な役割である事を実際に経験して感じた。それらの事から課題として、学校保健活動で行われる養護教諭の役割や知識、技術、連携について事前に勉強しておくべきであったと考える。教科書や参考書には記載されていない養護教諭の活動については、実習期間の前に行われる事前オリエンテーションの際に、聞いたり確認するなどして、心に余裕を持って実習に望むべきであると思った。又、歯科検診の事後処置で行う通知書作成や統計作成は時間を要する為、効率よく円滑に進める事が大切である。養護教諭は学校に1人である為、業務内容は膨大である。そんな中で児童の心身の健康を守らなければならない。つまり、養護教諭には器用に物事を考え、丁寧な対応ができる能力が求められると考える。

養護教諭は、実習は経験する事が大切であり、多くの児童との触れ合いや、実践的な学びをする事で、養護教諭の職務について理解を深められるという考えから、実習では養護教諭と一緒に活動する事が多かった。保健指導や、健康相談も大切であるが、それらは経験や知識を重ねていくことでできる様になると教わった。実際に4年生に保健指導を行なったが、緊張と不安から、早口になってしまい、上手くいかなかった。児童の反応は、好評であったことが救いであったが、保健指導を終えて思った事は、人に教えることの難しさである。今後は保健指導を行う前に練習を重ね、余裕を持って教える事ができる様にしていこうと思う。

実習中最も印象的であった事は、保健室登校をしている女兒との関わりである。女兒は昨年より友人とのトラブルにより保健室登校をしている。性格はとても真面目で優しい性格である。時々学校を欠席することもあるため、女兒が学校に来た日の朝は、養護教諭と一緒に女兒を沢山褒めた。褒めることで自己肯定感が高まるだけでなく、学校に来ることの喜びや楽しさを感じる事ができるため、女兒に限らず児童を褒めることも、養護教諭にとって大切な事であるのだ。女兒は、実習中常に私の側で勉強や絵描きなどをしており、他の児童よりも沢山会話をした。女兒との関係が時間とともに深まり、最終的に女兒の方から、以前友人からいじめにあったという話を私にしてくれたのだ。さらに、実習最終週に毎日学校に来て欲しいという話をしたら、女兒は約束通りに学校に登校してくれたのだ。私が実習中になにより嬉しかった事である。養護教諭からも、女兒との関わりについて、1人の心を動かすという事は、とても難しい事であり、本当に信頼関係を築いていなければできない事であると、褒めてくれた。実際は、女兒との関わりの中で、悩んだりした事もあったが、女兒や養護教諭の発言から、自信をつける事ができた。

実習中の自己目標として、多くの児童とコミュニケーションを取り、信頼関係を構築する事ができることを挙げていた。小学校にいる児童一人一人に個性があり、性格に合わせて対応する事がとても難しかった。養護教諭は児童を点と点を結ぶ関わり方をすることが大切であると教えてくれた。目の前の児童を見る事も大切であるが、他の教員との連携の中で情報を共有する事も、継続的に児童を見るという点で重要なことである。

3週間という時間の中で、養護教諭が実際に教育現場でどのような活動を行い、連携を取っているのか、学校保健に纏わる業務内容や、児童との関わり方など、多岐に渡って学びを深める事ができた。勉強不足は実習中常に感じる事である。看護学を学んでいるからこそできた事もあるが、養護教諭として学校で保健活動をするためには、用語についての知識技術だけでなく、教育学や心理学など、総合的な知識と技術を必要とする。それらの他にもコミュニケーション能力や、柔軟な対応能力なども求められる。児童の心身の健康を守るという事の責任感を持ち続け、児童に愛情を持って関わることで、私が目標とする養護教諭になれるのではないかと考える。実習最終日に多くの児童がくれた手紙や励ましの言葉を胸に、児童に信頼と安心を与えることのできる養護教諭になりたい。

実習校 水戸市立国田義務教育学校	実習期間	令和1年6月3日～6月21日
	学籍番号	NS2016-116
	氏名	宮田華穂里

「養護実習目標に基づく実習の学びと課題」

3週間の母校での養護実習を通して、実習だからこそできる経験をさせていただき多くのことを学びました。また、小中一貫の学校であったため様々な学年の児童生徒と関わることができました。

私が実習を行った学校は、小学生が102名、中学生が58名の小規模校でした。小規模特認校のため、通学区域に関係なく市内全域から通うことが可能であり、現在水戸市の様々なところから通っている児童生徒がいます。また、義務教育学校であり9年間を一貫した4・4・1制の特色ある教育活動を行っています。教育目標は「9年一貫教育を通して、人のために役立つ人間を育成する国田教育の推進〈かしこく・やさしく・たくましく〉」で、保健室に様々な学年の児童がいる時に低学年を高学年が気にかけている様子が多く見られ、優しさのある児童生徒が多いと感じました。また、車で送り迎えをしてもらい登下校している児童生徒が多く肥満が健康問題のひとつとなっている状況がありました。養護教諭は2人体制で、1人が養護教諭と保健主事を兼任していました。学校教育目標に基づき、学校保健計画や保健室経営計画を立て学校保健活動の実施をしています。主な執務内容として、飲料水の日常点検、校内巡視、トイレ点検、健康観察の集計などがあり、6月の保健目標である「歯を大切にしよう」から、給食後の歯みがき指導を行います。学校の危機管理については、児童生徒の動線となる所を中心に校内や校庭の安全点検を行うことや、必ず保健室を通すけがへの対応などを行っていました。執務内容について、なぜ行うかを理解して実施することが大切だということを学びました。また、危機管理では児童生徒の目線になって考え必要に応じて改善や工夫をすることで児童生徒が安全な環境の中で学校生活が送れるようにすることが必要であることを学びました。健康観察の集計では、欠席などの把握だけでなく、これまでの欠席の状況や生活の状況を含めてみていくことが必要であることが分かりました。児童生徒の課題に対し、様々な背景を含め理解し適切に対応していくことが大切であることを学びました。

保健室に来室するのは生徒に比べ児童の割合が高く、児童は外科的なものが多く、生徒は内科的なものが多いという特徴がありました。来室者への対応では、児童生徒の訴えに対し問診や測定などからアセスメントし、どのような処置を行うか総合的に判断しなければなりません。低学年に対してはこちらが判断し促すような対応が必要だけれど、高学年や生徒の場合は選択肢を与えたり自身で決めてもらうなどセルフメディケーションの考え方も大切になってくるということを学びました。また、児童生徒それぞれに性格などが異なる所もあるのでその人に合った関わりが必要であることが分かりました。担任や学年主任など様々な教員が情報を共有し、それぞれに役割をもち連携して対応を行っていました。個別の

健康相談では、頻回に来室する児童生徒の背景をアセスメントし健康相談の必要性を考えます。頻回に来室する児童生徒には様々な背景がありました。脚の痛みがあるなかで総体を控え部活動に打ち込んでいる女子生徒が、脚の痛みを訴え頻回に来室していました。脚の痛みに加え、部活動ではキャプテンという立場から責任を感じており緊張や不安がありました。脚の状態の観察や部活動前後での観察、部活動中の対応方法などを確認し普段は保冷剤で冷やす対応を行い、総体前の気持ちを聞くなど不安を和らげるための対応も行っていました。また、部活での様子を知っている顧問や教室での様子を知っている担任との情報共有を行うなどもしていて、養護教諭と教員の連携により身体面と精神面の両方から支援していました。対象の個別性に応じた支援や、支援の結果何かが変化することだけでなく心の安寧も大切であることを学びました。

保健指導として、小学2年生を対象としたものと中学1年生(7年生)を対象としたものを行わせていただきました。小学2年生は、自身の生命や他者の生命を大切に「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」にかかわるものとして、生まれてくる前のことやへその緒についての内容で保健指導を展開しました。中学1年生(7年生)は、総体を控え部活動を活発に行っていますが体が熱さに慣れていないこの時期、熱中症を理解し自ら予防行動をとれるよう熱中症についての保健指導を行いました。保健指導では、学校やクラスの健康問題の実態を把握したうえで実施することが必要であり、クラスの特徴を普段の様子や担任からの情報を得ることで児童生徒が理解しやすい工夫ができるということが分かりました。児童生徒が関心を持てることや、理解しやすく伝えることの重要性を学びました。伝えるべきことを時間内に伝えるためには時間配分が重要になるため、指導案では導入・展開・まとめの内容と時間を十分に考えることが必要であると感じました。実際に行ってみると児童生徒の反応が想定外な場面があり、どのように対応し進めていくのかということが課題でした。また、学年に合わせた言葉や話し方の工夫をすることも課題として残りました。

実習に臨むにあたり、学校保健活動での養護教諭の位置づけなど学校保健について十分に理解しておくことが必要であったと感じました。また、来室する児童生徒への対応は養護教諭自身がどのような対応をするか判断しなければならないので、けがや病気についての知識や技術を身につけておくことが必要であると感じました。児童生徒の背景や特徴を把握することや、他の教員などと情報を共有し連携していくことが、児童生徒それぞれに合った関りにつながっていくため大切であるということを感じました。来室者への対応では、児童生徒に対しなんと声をかけるかということや処置の判断に迷うことが多かったですが、こちら側が迷っていると児童生徒も不安になってしまうので、測定や問診から必要な情報を得て根拠のある素早い判断を行うことが必要です。また、関係づくりや日々の変化に気づくという面で保健室の中に限らず様々なところで児童生徒と積極的に関わることも必要なため、判断力や行動力を高めることが課題です。

実習校 君津市立中小学校	実習期間	令和元年 6 月 3 日～6 月 20 日
	学籍番号	NS2016-118
	氏名	吉田 麻莉

「養護実習目標に基づく実習の学びと課題」

6月3日～20日までの約3週を終えて養護教諭は、児童生徒からするとあまり忙しくないようなイメージがあったけれど、むしろ真逆で様々な活動に携わっているということがわかった。スクールカウンセラーや、学校薬剤師、学校医や担任等の教職員と連携協力し、学校全体をより良くしようと活動をしていた。また、保健室に来室する児童生徒だけに限らず様々な学年・クラスと交流を持つことによって兄弟関係や日頃の生活状況などを知ることができた。私は今まで、病態や疾病はたくさん学んできたが、学校ではそれだけではなく精神的な（心の）ケアも大事になってくるのだなと知った。保健室に頻回来室する児童生徒は、なにか言いたげな表情をしていたり、具合について尋ねると曖昧であったりすることもあるため、児童生徒の家庭環境や背景をしつかりと見て接していく必要があると思った。普段の生活でもそれは同じで、様々な情報を把握することによって児童生徒と接しやすいなと思った。

学校保健目標は<心身ともに健康で活力があり、生き生きと充実した学校生活を送ることができる児童の育成>であり、（1）基本的な生活習慣を身に付け、心身の健康を保持育成できる児童の育成、（2）早起き・早寝・朝ごはんの推奨、（3）自他の生命・人権を尊重し、思いやりや温かみのある児童の育成が掲げられている。実習校の特徴として（1）定期健康診断より、肥満傾向の児童が県平均より多い（14%県平均8%）・う歯保有率が地区の中で多く、特に中学年に多い（22%県同等程度、A小学校6%、B中学校9%）

（2）基本的な生活習慣について（生活アンケートより）・毎日排便する児童が少ない（57%）・食後の歯みがきが習慣化されていない（朝75% 昼55% 夜85%）という結果であった。この特徴のうち歯保有率が高いこと、食後の歯みがきが習慣化されていないことに注目し、保健指導を行っていた。手洗い場には、正しい歯の磨き方、保健委員会では歯のことに関する掲示物を作成し、給食の放送時にも「歯みがきを行いましょう」という声掛けや歯みがきチェック習慣を設け、歯みがきに対して様々な対策を行っていた。養護教諭や担任の先生が主体となっていくのではなく、児童生徒たち本人が主体性を持って取り組んでいた。主体性を持つことができるように児童生徒が興味を引くような教材の使用やパッと目で見えてわかるような工夫がされており、「これなら自分にできるぞ!」というようなものになっていた。小学校では6学年あるため、発達や理解度の差がある。その学年に合わせた情報量であったり、絵や図の使用であったりと、様々なことを考えながら資料を作っていく必要がある。

学校全体の児童生徒の健康問題を把握するために健康観察板がある。この健康観察板を毎日集計し、職員室のホワイトボード、管理職へ報告する用の紙媒体のものに記入し提出

する。職員室のホワイトボードに記入することで、養護教諭や担任の先生だけではなく、他の教職員にも把握してもらいやすい。また、学校全体で把握することで遅刻回数が多い、欠席が続いている等の児童生徒のことについて取り上げ早期な解決に繋げることができる。また、養護教諭一人だけが抱え込むこともないため、学校全体で把握することは重要である。

アレルギーのある児童生徒に対する対応が、アレルギーを持っている児童本人、そして担任の先生、養護教諭に加え同じクラスの児童が協力し、給食でのアレルギーを把握しあって生活をしていた。同じクラスの児童がアレルギーについて把握し、対応していることにより、何重もの確認になり、事前に防げていると感じた。また、最悪の場合を想定し、教職員全員が「エピペン」の講習を受けており、万が一の時のための対応がなされていた。

保健室に来室時には、保健室来室時に記録カードを記入（時間・日付・名前・クラス・学年・どんな状況でケガをしたのか・どんなケガか・部位・どこでケガしたのか・処置方法）し、1日の来室状況を把握していた。また、保健室来室カードに内科的・外科的な疾患に分けることで、1日の保健室来室状況がすぐにわかる。詳しく記録することで以前の生活と比較したりすることができる。（時間・時期・回数・主訴等）頻回来室する児童生徒は決まった主訴であったり、いつも決まった時間や、嫌いな授業科目の前であったりなど、その児童生徒を継続的に見ていけば様々なヒントが隠されているため、一人一人の児童生徒を知るためにも保健室来室カードに細かく記載し分析することも重要になる。そして、児童生徒が保健室に来室したときだけでなく、廊下などですれ違ったときに声をかけることで、「保健室に来室したときだけでなく、いつでもあなたをしっかりと見ていますよ、心配しているよ」と安心感を与えることができる。家庭や学校（友達の前）でさらけ出せない一面をポロッと出すのは保健室が多いと思うため、いつでも養護教諭は中立な立場で、児童生徒が放ったサインを見逃すことなく接することが必要である。

養護実習を終えて、養護教諭は様々な方からの協力や支援の中で成り立っているということを学んだ。確かな技術・知識に加え、児童生徒との接し方や何事にも臨機応変に対応できる柔軟性、スクールカウンセラーや学校全体をコーディネートする能力など、多種・多様な能力が必要であるということを改めて感じた。将来私が養護教諭になるとしたら、

（1）年齢や発達、理解度を考慮し、児童に合わせた質問、対応方法、言葉選びを行うこと（2）心疾患などの持病やアレルギーに対しての服薬、運動管理方法をしっかり理解し対応すること（3）健康観察板から継続して児童を観察していくこと（4）児童生徒の興味を引き出せるような教材の工夫や理解しやすい言葉選びをすること（5）処置の技術や対応方法など専門性を高めること（6）ほかの教諭のメンタルケアを行い、児童生徒だけでなく学校全体を見ていくことと、6つ挙げた。どれも大事なことであるため、上記のことのできるような養護教諭になりたい。そのほかにも大切なことは様々あるが、看護師として経験を積みながら新たな課題を見つけていきたい。

## 教育実習体験記

---

発行日 令和2年3月1日

発行・編集 城西国際大学 教職課程運営委員会

〒283-8555 千葉県東金市求名1番地

TEL 0475-55-8842 (教務課)

FAX 0475-55-8897

---



